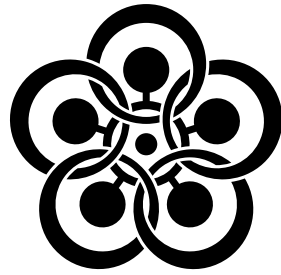


東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科年報

2015年度



2016年9月

は し が き

2001年に看護学および臨床検査学分野でわが国初の大学院重点化大学としてスタートした東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科は、両分野で活躍する優秀な人材の輩出を通じて日本の医療に貢献してきました。また、近年は世界で活躍できる人材育成を目指して、教育の質も変わってきています。しかし、ある研究者の報告では、20-30年後には現存する職業の半分以上が消滅するといわれています。人工頭脳の目覚ましい進歩は、例外なくすべての職業の機械化・自動化が可能と思わせる勢いです。知識・技術を備えた人材の育成が直ちに必要なくなるとは思いませんが、環境に応じて変わることのできる柔軟な思考力・創造力を備えた人材の育成が強く求められると感じています。未来が過去と現在の上に成り立つことを考えるならば、過去そして現在を顧みて、期待される未来に向けて方向の微修正を行うことも必要かもしれません。大学および大学院の最大の任務は人材育成であると思います。将来どんな人材が必要とされるか明確にイメージすることはきわめて難しいことですが、柔軟に生きていける後継者を育成することが私たちに課せられた任務かもしれません。本年報が単に年間の取り組みと業績の記録としてだけでなく、過去から未来への道しるべの一つとして少しでも参考になることを期待します。

おわりに、本年報の発刊にあたり、多大な努力を惜しまなかった関係事務職員に心より感謝申し上げます。

2016年9月

東京医科歯科大学

大学院保健衛生学研究科長 戸 塚 実

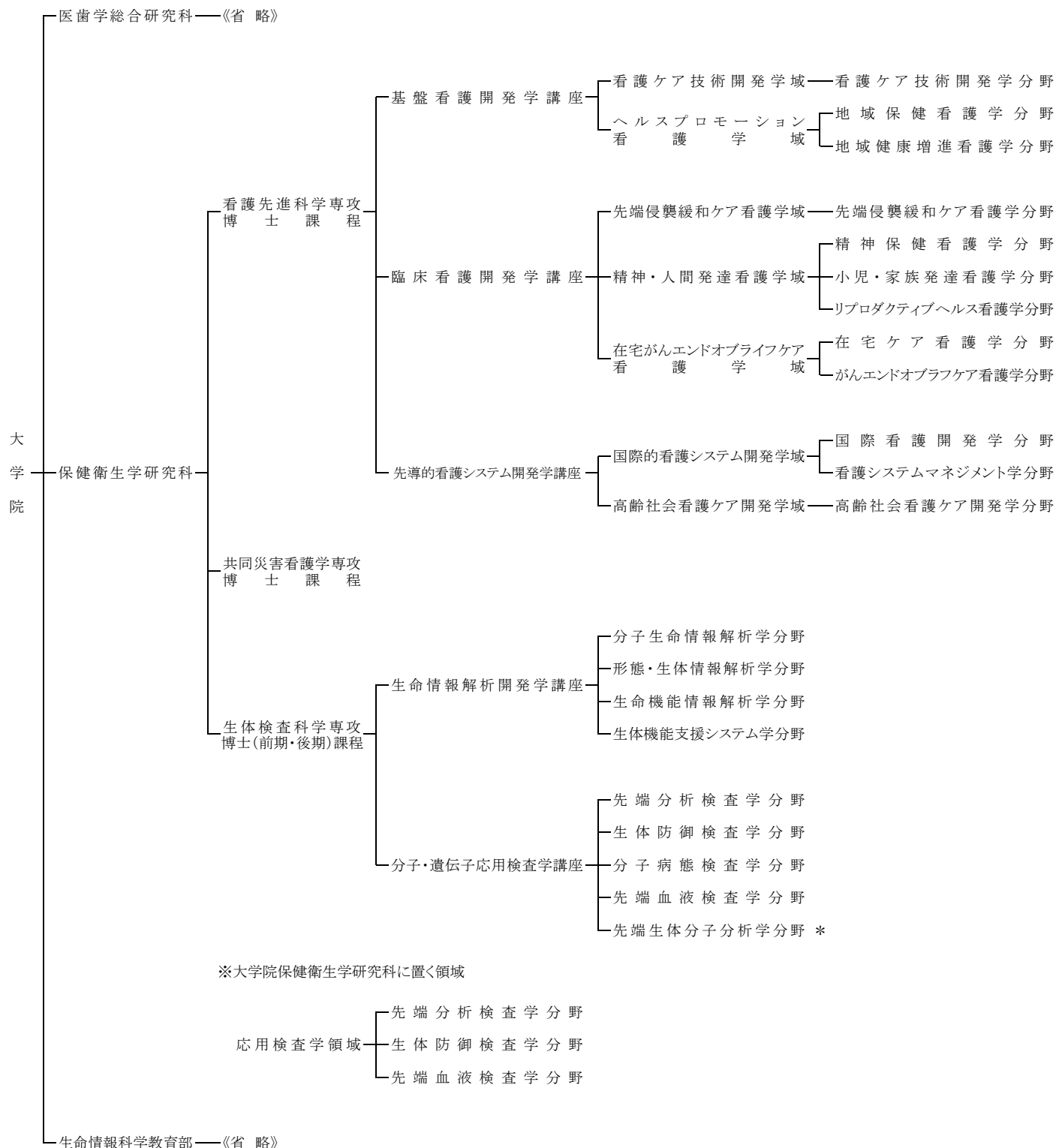
目 次

I. 機構図	1
II. 各教育研究分野における教育・研究	
看護先進科学専攻	
基盤看護開発学講座	
看護ケア技術開発学域	
看護ケア技術開発学分野	3
ヘルスプロモーション看護学域	
地域保健看護学分野	7
地域健康増進看護学分野	11
臨床看護開発学講座	
先端侵襲緩和ケア看護学域	
先端侵襲緩和ケア看護学分野	14
精神・人間発達看護学域	
精神保健看護学分野	18
小児・家族発達看護学分野	25
リプロダクティブヘルス看護学分野	29
在宅がんエンドオブライフケア看護学域	
在宅ケア看護学分野	32
がんエンドオブライフケア看護学分野	35
先導的看護システム開発学講座	
国際的看護システム開発学域	
国際看護開発学分野	37
看護システムマネジメント学分野	40
高齢社会看護ケア開発学域	
高齢社会看護ケア開発学分野	43
共同災害看護学専攻	47
生体検査科学専攻	
生命情報解析開発学講座	
分子生命情報解析学分野	52
形態・生体情報解析学分野	55
生命機能情報解析学分野	57
生体機能支援システム学分野	64
分子・遺伝子応用検査学講座	
先端分析検査学分野	67
生体防御検査学分野	70

分子病態検査学分野	74
先端血液検査学分野	78
先端生体分子分析学分野	81
Ⅲ. 平成27年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表	83
Ⅳ. 平成27年度大学院保健衛生学研究科博士（前期・後期）課程学位論文題目一覧表	87
Ⅴ. 委員会委員名簿	89
Ⅵ. 教育研修会，公開講座，セミナー等	91
Ⅶ. 就職状況一覧表（平成28年3月卒業・修了者）.....	93

I . 機 構 図

東京医科歯科大学大学院機構図（2015年4月1日）



*印は教育研究協力分野

Ⅱ．各教育研究分野における教育・研究

看護ケア技術開発学

Innovation in Fundamental and Scientific Nursing Care

教 授 齋藤やよい

助 教 大黒理恵, 大河原知嘉子

大学院生 (博士後期) 青木朋未, 中村雅子, 前田耕助, 西村礼子, 岩倉淳子
(博士課程) 樺島稔

(1) 分野概要

看護ケア技術は看護専門職者が習得した有形・無形の技であり、対象の全人的なアセスメントに基づいて個々に提供されます。ケア技術にはすでに科学的効果が検証され、社会に広く還元されたものもあれば、看護実践の暗黙知として言語化されないまま受け継がれていたものもあります。また、患者さんのセルフケア能力の不足を補うケアもあれば、人々の積極的な快適性を求める QOL を高めるためのケアもあります。

私たちは、このように多様化した看護ケア技術の効果を、学際的な研究方法を通して科学的に検証します。また、不足を補うだけでなく、人が本来もっている生体機能や生活機能を最大限に発揮するための新たな看護ケア技術の開発を目指します。さらに、看護ケア技術の教育や看護師の教育力の育成にも取り組んでいます。

(2) 研究活動

1) 看護技術の科学的検証

日常生活援助技術（食事、排泄、清潔、睡眠、運動）の効果を心拍変動、脳血流量、眼球運動分析などの心理的、生理的反応から検証し、その成果をエビデンスとする看護技術の開発に取り組んでいる。また、発話による口腔機能への影響について、客観的機能評価と発話分析によって検討し、救命救急場面で用いる胸骨圧迫の技術と効果を左右する影響要因との関係を学際的方法により検証している。

2) エキスパートナースの臨床判断能力

看護情報がどのように記憶・再生され、どのように活用されるのかを、色表現、看護活動用語の使用に関する実態調査と思考プロセスの分析により検討している。また、エキスパートナースが保有する技能と危険予知力について、病床環境づくりや処方箋確認などの場面を設定し、アイカメラによる看護師の観察・判断の視点、それに基づく危険予知行動の過程を視線計測及び思考過程から検討している。

3) 現任教育の課題と教育力育成

看護教育に関する研究では、プリセプターシップやメンターシップ、現任教育の効果と課題を質的に分析し、現任教育の課題と新たな教育計画を検討している。また、看護師がもつ教育力の特徴をテキストマイニングにより分析し、看護実践力との関係や教育力育成のための課題と具体的方法について検討している。

4) 高齢者に対するフットケアの介入効果

誰もが経験する一般的な足の問題について、高齢者の足部状態や足部機能、爪・皮膚の観察といったアセスメントとセルフフットケアの実態調査を行っている。また、専門的フットケアの介入による効果について学際的な評価指標を用いて多角的に検証している。

5) 絵画 (ミッケルアート) を用いた高齢者の積極的快適性

静岡大学発ベンチャー企業株式会社スプレーアート EXIN との共同研究契約に基づく研究を行っている。絵画や色刺激による生体への影響を生理学、心理学、人間工学の手法を用いた解析を行い、若年者による基礎研究から対象を高齢者へ発展させている。また実際の臨床でのミッケルアート活用の実際と反応・効果を、観察記録と逐語録分析により質的に検討している。

6) 看護学研究法としての眼球運動解析

これまで本分野で行ってきたアイカメラを用いた研究成果をまとめ、他領域とは異なる看護学研究での活用の

視点を明らかにし、眼球運動解析の注視点や注視時間、周辺視野の定義を検討することにより、新たな看護学研究法としての眼球運動解析法について検討している。

(3) 教育活動

学部教育では、1年生と2年生を対象に基礎看護学を担当している。看護学の基盤となる理論、専門職業人としての態度、看護学に共通した援助技術修得に必要な知識、技能を教授する。また3年生と4年生には、当分野での卒業研究を選択した学生を対象に、講義、ゼミ形式、個別指導など多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。

大学院教育では、院生の主体性を尊重してテーマを精選し、学位論文としての意義と研究計画、研究の進捗に対して、分野の全院生が参加する研究ゼミと、教員による個別指導を効果的に組み合わせて実施している。院生は、日常生活援助技術や危険予知教育などをテーマとして、臨床での介入研究や実験環境での基礎研究などに研究に取り組んでいる。

(4) 教育方針

1) 学部教育

本教育研究分野は、学部教育では基礎看護学を担当し、看護専門科目の知識、態度、技能形成の基盤づくりを行った。

1年次には専門科目の基礎看護学Ⅰおよび基礎看護学実習Ⅰを開講した。基礎看護学Ⅰは看護の共通基盤である看護の概念・目的など看護観形成の基礎となる知識を習得し、看護が対象とする人々への理解を深めることを目指した。基礎看護学実習Ⅰは医学部および歯学部附属病院において行い、専門科目の学習初期段階において、医療の現場を知り健康障害をもった人々と直接関わることで、看護の機能と役割への理解することを目指す。

2年次の開講科目は、基礎看護学Ⅱ、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱである。講義と演習を通じ看護を実践し、探求する能力を習得し、発展させるための知識・技術の習得を目標とした。ここでは看護技術の原理および根拠を理解することに重点を置き、看護職者としての知識・技能・態度の形成と主体的学習態度の形成を目指す。また、実習では、看護過程の展開を理解するとともに、看護実践活動を通して「健康とは」、「看護とは」を考え、医療人としての態度や責務、倫理観を学ぶことに重点を置いた。

3・4年生の卒業研究では、学生の興味のある研究テーマを支持しながら、研究方法と論文の書き方および発表の仕方について指導した。

2) 大学院教育

看護ケア技術開発学特論A・B、および看護ケア技術開発学演習A・B、看護ケア技術開発学特論、特別研究Ⅰ・Ⅱを担当した。

大学院教育では、全ての対象の看護に共通する看護技術の生体への効果、および効果を高める看護方法の開発を目指し、経験的に実施されてきた看護方法の科学的根拠を探求した。また、基礎看護学領域の研究手法論の確立のために、さまざまな研究方法を取り入れ、特に看護学に関連する解剖・生理学、生理人類学、教育学など他分野の研究手法を学び、看護基礎科学としての研究と学際的視点に立った研究を目指した。

(5) 臨床活動および学外活動

研究支援

医学部・歯学部附属病院看護部と連携し、研究支援や共同研究を行っている。また、教育機関や地域病院の研究支援も行っている。

(6) 研究業績

[講演・口頭発表等]

1. 前田耕助, 中村雅子, 大黒理恵, 大河原知嘉子, 齋藤やよい. 背部への温度刺激が脳血流動態に及ぼす影響—入浴温度からの比較—. 日本看護研究学会第41回学術集会 2015.08.23 広島

2. 大河原知嘉子, 大黒理恵, 齋藤やよい. 環境整備前の観察時における熟練看護師の眼球運動と考える特徴. 国際混合研究法学会 アジア地域会議/第1回日本混合研究法学会 2015.09.19 大阪
3. 樺島 稔, 大黒理恵, 大河原知嘉子, 齋藤やよい. 基礎看護学実習で自己効力感が上昇した学生の達成感・自己効力感得点の変化とテキストマイニングによる良いケアが出来た時の気持ちの分析. 国際混合研究法学会 アジア地域会議/第1回日本混合研究法学会 2015.09.19 大阪
4. 前田耕助, 中村雅子, 大黒理恵, 大河原知嘉子, 齋藤やよい. 客観的指標を用いた看護技術のエビデンス検証における主観的指標の活用状況. 国際混合研究法学会 アジア地域会議/第1回日本混合研究法学会 2015.09.19 大阪
5. 小山 容子, 大河原知嘉子, 大黒理恵, 齋藤やよい. 中堅看護師の指導観と関連する要因. 国際混合研究法学会 アジア地域会議/第1回日本混合研究法学会 2015.09.19 大阪
6. 青木朋未, 大黒理恵, 大河原知嘉子, 齋藤やよい. 看護学生の環境整備における眼球運動と行動の関連. 日本看護技術学会第14回学術集会 2015.10.17 愛媛
7. 大黒理恵, 齋藤やよい. 熟練看護師のベッドサイド場面観察時の“見る”の特徴. 日本看護技術学会第14回学術集会 2015.10.17 愛媛
8. 大河原知嘉子. 看護研究のためのテキストマイニング(質的/量的研究現場での利用事例). 数理システムユーザーコンファレンス 2015 2015.11.20 東京
9. 西村礼子. 医療安全に関する委員会の経験による眼球運動と環境整備項目の相違. 第10回医療の質・安全学会学術集会 2015.11.22 千葉
10. 西村礼子. 看護師の経験年数による注視と環境整備項目の関係. 第35回日本看護科学学会学術集会 2015.12.06 広島

[社会貢献活動]

1. 大学評価・学位授与機構 学位審査委員会専門委員(齋藤やよい), 2004年04月01日 - 現在
2. 東京医科歯科大学歯学部附属病院看護部看護研究指導(大黒理恵), 2008年04月01日 - 現在
3. 東京学芸大学非常勤講師(大黒理恵), 東京学芸大学, 2008年04月01日 - 現在
4. 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師(大黒理恵), 神奈川県立保健福祉大学, 2012年04月01日 - 現在
5. 文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室 高等学校職業教科書審査員(齋藤やよい), 2013年04月01日 - 現在
6. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員(大黒理恵), 東京医科歯科大学, 2013年04月01日 - 現在
7. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員(齋藤やよい), 東京医科歯科大学, 2013年04月01日 - 現在
8. 文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室 SPH 企画評価委員(齋藤やよい), 2013年04月01日 - 現在
9. 文部科学省大学設置・学校法人審査会専門委員(大学設置分科会)(齋藤やよい), 2013年04月10日 - 2016年10月31日
10. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員(大河原知嘉子), 東京医科歯科大学, 2014年04月01日 - 現在
11. Text Mining Studio アカデミックセミナー〜看護研究(質的研究/量的研究)のためのテキストマイニング〜(大河原知嘉子), 株式会社 NTT データ数理システム, Text Mining Studio アカデミックセミナー, 2015年01月23日
12. テキストマイニングの世界-量的研究から質的研究の基本-(大河原知嘉子), 福井大学大学院, 看護キャリアアップセンター看護実践能力開発講座, 2015年10月03日
13. エビデンス創出委員会 実行委員(齋藤やよい), 日本認知症予防学会, 2015年12月01日 - 現在

14. エビデンス創出委員会 実行委員（大黒理恵），日本認知症予防学会, 2015 年 12 月 01 日 - 現在
15. エビデンス創出委員会 実行委員（大河原知嘉子），日本認知症予防学会, 2015 年 12 月 01 日 - 現在
16. Text Mining Studio アカデミックセミナー～看護研究のためのテキストマイニング (質的/量的研究現場での利用事例) (大河原知嘉子)，株式会社 NTT データ数理システム, Text Mining Studio アカデミックセミナー, 2015 年 12 月 18 日
17. 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員（齋藤やよい）
18. 放送大学 客員教授（齋藤やよい）
19. 東京医科歯科大学歯学部附属病院看護部看護研究指導（齋藤やよい）
20. 東京医科歯科大学医学部看護部教育委員会 臨床指導者講習会講師（齋藤やよい）
21. 日本看護科学学会 専任査読委員（齋藤やよい）
22. 日本看護研究学会 専任査読委員（齋藤やよい）
23. 日本生理人類学会 評議員（齋藤やよい）
24. 日本生理人類学会 看護研究部会長（齋藤やよい）
25. 日本生理人類学会 英文誌編集委員（齋藤やよい）
26. 日本看護技術学会 理事（齋藤やよい）
27. 日本看護技術学会 評議員（齋藤やよい）
28. 日本看護技術学会 編集委員（齋藤やよい）
29. 日本看護技術学会 専任査読委員（齋藤やよい）
30. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部リーダーシップ研修講師（齋藤やよい），東京医科歯科大学
31. 日本学術振興会特別研究員審査会専門委員（齋藤やよい）
32. 日本学術振興会国際事業委員会書面審査員・書面評価員（齋藤やよい）

地域保健看護学

Community Health Nursing

教授	佐々木 明子
助 教	津田 紫緒
特任助教	池田 絹代
大学院生	金屋 佑子
	玉城 紫乃
	菱沼 知恵
	板井 麻衣

(1) 分野概要

地域保健看護活動の専門的な知識・技術を習得し、地域で生活する人々の健康の保持・増進と質の高い生活に寄与するための教育を行っている。また、地域保健看護学の実践を発展させ、その有用性を検証するための開発的な研究を行っている。

さらにフィンランド、スウェーデンなど北欧などをはじめとする外国の教育者・研究者・実践者との交流を通し、国際社会に適応できるアカデミックマナーを習得して、日本国内のみならず、国際的に活躍できる地域保健看護学分野の教育者、研究者、実践者の育成をする教育と研究を行っている。

これらの教育・研究活動を通して、地域の人々を尊重し、人々の健康と質の高い生活に貢献していくことを目指している。

(2) 研究活動

本分野における研究課題は地域保健看護学の実践的な課題解決または改善の方策、新しい課題に対する地域保健看護活動方法の開発と評価および理論構築である。具体的研究内容は以下に示すとおりである。

1. 個人・家族・グループ・地域に対する地域保健看護活動の理論と実践
2. 地域診断、健康教育、介護予防、訪問指導、地区組織活動、産業保健活動の展開方法
3. 地域保健活動の施策化、社会資源の活用と開発
4. 地域保健看護活動の事例分析などによる評価
5. 地域における看護実践やサービス提供システムの国際比較研究などである

主に行った研究テーマは、1. 地域看護職者による高齢者全数の予防訪問の実施方法と効果、2. 高齢者予防訪問の有用性と効果効率的な運用に関する国際的研究、3. 看護職と被虐待高齢者・家族支援の実践教育プログラムの開発、4. 高齢者虐待予防と早期発見を促進する地域ケアシステムの国際的研究、5. 高齢者の回想法に関する研究、6. 高齢者に対する介護予防プログラムの評価に関する研究、7. 医療保険者における保健師の活動の明確化に関する研究等であった。これらの研究の実施およびその成果の共有のために、佐々木が平成 27 年 3 月と 4 月にフィンランドのセイナヨキ応用科学大学、8 月にフィンランドのセイナヨキ応用科学大学、スウェーデンのカロリンスカ大学病院等を、9 月に津田が米国ワシントン大学を訪問した。また、平成 27 年 1 月、3 月および 8 月にスウェーデンやフィンランドの研究者・教育者・実践者が来訪し、研究を深めた。さらに、国内では九州地方、東北地方、東海地方および関東地方の市町村及び高齢者施設等と研究における連携を深めた。同様に関東地方の事業場、医療保険者等との連携を深め研究体制の整備を行った。

学部学生は、「養護教諭が行う 1 型糖尿病を持つ小中学生と取り巻く人々への支援」(平成 26 年度、岡村美里)、「快適職場づくりの推進における産業看護職者と事業場内関係者との協働活動」(平成 26 年度、川上鏡子)、「東日本大震災における派遣保健師のメンタルヘルス」(平成 26 年度、木村光佑)、「統合失調症を有する壮年期の精神障

害者に対する就労支援における保健師の役割と課題」(平成 26 年度、滝口美波)、「地域の特徴に合わせた自殺予防活動展開方法と保健師役割」(平成 26 年度、山本美里)、「摂食障害を有する中高生に対する支援の中での養護教諭と学校内外での連携」(平成 26 年度、吉田多友子) というテーマで卒業研究をまとめた。

大学院生は「在宅高齢者の介入拒否事例の特徴と看護職者が果たす支援方法の解明」(平成 26 年度、玉城紫乃)、「地域ネットワークづくりにおける中堅保健師の役割認識と活動実践の関連」(平成 26 年度、菱沼知恵) というテーマで修士論文をまとめた。大学院生の研究を実施するにあたり、関東地方、東北地方等の市町村及び地域包括支援センターの協力を得た。

(3) 教育活動

1) 学部教育

主に地域保健看護学Ⅰ、地域保健看護学Ⅱ、地域保健看護学Ⅲ、地域保健看護学演習、地域保健看護学実習、卒業論文を担当している。

関連科目と連携をとりながら授業を展開し、学生のより深い習熟をめざして、学内における講義および演習と実習を相互に連動させながら、地域保健看護活動の理論と実践と研究の統合を目指して教育をしている。

平成 27 年度の学部学生の実習は、地域保健として東京都特別区の文京区(保健サービスセンター、保健サービスセンター本郷支所)、足立区(中央本町地域・保健総合支援課、竹の塚保健総合センター、東和保健総合センター)、墨田区(向島保健センター、本所保健センター)、台東区(台東保健所、浅草保健センター)、世田谷区(北沢総合支所)の 5 区(10 ヲ所)で行った。東京都特別区外の地域保健では、東京都八丈町、山形県村山保健所、置賜保健所、埼玉県川口市、鴻巣市、茨城県土浦市、土浦保健所、つくば市、群馬県前橋市、高崎市、吾妻郡嬭恋村、佐波郡玉村町、長野県長野市、新潟県上越市、宮崎県串間市、日南保健所で実習を行った。学校保健として筑波大学附属小学校、お茶の水女子大学附属小学校、また、産業保健として東芝インフォメーションシステムズ株式会社、株式会社保健同人社、株式会社ジャパンディスプレイ、関東天然瓦斯株式会社、横河レンタ・リース株式会社、日本航空株式会社、株式会社 JAL グランドサービス、キャノン電子株式会社で実習を実施した。

2) 大学院教育

主に地域保健学特論 A、地域保健看護学演習 A、地域保健看護学特論、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱを担当している。行政機関や事業場における地域保健看護活動に重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に取り組めるように教育を行った。さらに、大学院生が国際的な教育、研究、実践活動に参画する機会を提供した。大学院博士課程の板井は、8 月下旬から 9 月にかけてフィンランドのセイナヨキ応用科学大学で研修を行った。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では保健所、市町村保健センターなど行政機関や事業場などの地域保健看護活動について、制度、法的根拠を理解すると共に、地域の保健看護ニーズのアセスメント、計画、実施、評価と保健看護活動の具体的な展開方法について総合的に学べることを目指して教育を行っている。人々の健康を保持増進する支援を行うために、人々の生活とそれを取り巻く社会環境を含めて捉える視点を養っている。

2) 大学院教育

(1) 教育研究領域は行政機関や事業場における地域保健看護活動に重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に取り組めるように指導する。学内における講義・演習・実習、学内外における研究会への参加、学会発表、フィールドワークをととして地域保健看護学分野における高い実践力と教育・相談・研究能力を修得する。各自の研究課題は地域保健看護学の実践場面に参加して実用可能性を含めた検討を行い、独創的かつ有用な成果を得られるものとなるよう指導する。大学院生は、各自の関心に基づいて研究テーマを選び、新たな地域保健看護技術や地域保健看護活動の展開方法・地域保健看護システムの開発と地域保健看護学の理論の構築を含めて、研究を進めている。

(2) 大学院保健衛生学研究科の提携大学であるフィンランドのセイナヨキ応用科学大学の他、教員が研究交流を行っているスウェーデン等の大学・実践機関等との連携により、滞在型の研修・研究を行う機会を設けている。

(3) 国内外の地域保健医療福祉に関連する専門職者との共同プロジェクト研究のうち、学生の関心によりテーマを選択し、研究・実践能力を修得して、独創的な研究を行う機会を提供している。

(4) 国内外の学会、外国人研究者の招聘セミナーや国際共同研究の参加、国内外学術雑誌への発表などの積極的な活動を学生に奨励し、指導し、発表を行っている。

(5) 国外の大学・実践機関の研究者、専門識者との積極的な交流を大学院生に奨励、指導している。

(5) 研究業績

[原著]

1. 金屋 佑子, 佐々木 明子, 森田 久美子, 田沼 寮子, 川南 公代, 辻 彼南雄. 事業所におけるメンタルヘルス活動の展開による効果 お茶の水看護学会雑誌. 2015; 9(2); 28-39
2. 福山由美, 内田恵美子, 佐々木明子, 津田紫緒, 田中敦子. 白癩の治療とケアによる在宅療養者の介護予防への試み 日本在宅ケア学会誌. 2015; 19(1); 27-34
3. 森田久美子, 青木利江子, 小林美奈子, 山本晴美, 呂曉衛, 永嶺仁美, 佐々木明子. 学童保育における高齢者との世代間交流の継続的実践における課題 日本世代間交流学会誌. 2015.09; 5(1); 11-20
4. 芝山 正治, 津田 紫緒, 小宮 正久. 高気圧作業安全年生規則改正に伴う改正前の潜水作業進捗の実態調査 駒沢女子大学研究紀要. 2015.12; 22(1); 167-172

[書籍等出版物]

1. 佐々木 明子, 田沼 寮子, Jakko Kontturi, Helli Kitinoja(日本在宅ケア学会編). III. 高齢化先進国における在宅ケアとチームアプローチの展開—フィンランド・セイナヨキ市における在宅ケアのチームアプローチ, 在宅ケア学第3巻 在宅ケアにおけるチームアプローチ. ワードプランニング, 2015.07 (ISBN : 978-4-86351-096-8)
2. 佐々木明子, 田沼寮子 (日本在宅ケア学会編). V. 虐待等権利擁護を必要とする人への在宅ケア、1. 看護職からみた高齢者虐待とその対応、在宅ケア学第1巻、在宅ケア学の基本的考え方 . ワードプランニング, 2015.07 (ISBN : 978-4-86351-094-4)

[総説]

1. 佐々木 明子, 田沼 寮子. スウェーデンにおける認知症ケア 高齢者虐待防止研究. 2015; 11(1); 35-41
2. 川原礼子, 佐々木 明子, 斉藤美華, 坂川奈央. スウェーデンにおける予想される死における看護職による死亡確認の現状から 看護研究. 2015.10; 48(6); 596-604

[講演・口頭発表等]

1. 内田 恵美子, 佐々木 明子, 津田 紫緒, 高山 かおる, 本林 麻紀子, 福山 由美. 訪問看護ステーションにおける白癩症の実態とフットケアの効果. 第13回日本フットケア学会年次学術集会 2015.02.15 東京
2. Akiko SASAKI, Shio TSUDA, Kinue IKEDA, Kumiko MORITA. Elements of Community Health Nursing Practice to raise the Public Health Nurse intentionality of the Nursing Students. International Conferences on Community Health Nursing Research 2015.08.19 Korea
3. Shio Tsuda, Akiko Sasaki, Kinuyo Ikeda, Kumiko Morita. Impact of Practice Duration on Students Self-Assessment in Learning Public Health Nursing Practicum. International Conferences on Community Health Nursing Research 2015.08.19 Korea
4. Shino TAMAKI, Akiko SASAKI, Kumiko MORITA, Shio TSUDA, Chie HISHINUMA, Yuko KANAYA. Intervention by Community Nurses for Elderly People who Refuse the Support. International Conferences on Community Health Nursing Research 2015.08.19 Korea
5. Kumiko Morita, Rieko Aoki, Minako Kobayashi, Harumi Yamamoto, Xiaowei Lu, Hitomi Nagamine, Akiko Sasaki. Actual situations of intergenerational exchanges with elderly people at after-school care of schoolchildren in Japan. ICCHNR2015 2015.08.20 Seoul, Korea
6. Chie HISHINUMA, Akiko SASAKI, Shio TSUDA, Shino TAMAKI, Yuko KANAYA. Role Perceptions and Practices of Proficient Public Health Nurses on creating of Community Network. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research 2015.08.21 SEOUL, Korea
7. 佐々木 明子, 小野 ミツ, 森田 久美子, 金屋 佑子, 西尾 美登里, 秋保 亮太. 高齢者への予防訪問における経時的変化. 第74回日本公衆衛生学会 2015.10 長崎
8. 森田久美子, 青木利江子, 山本晴美, 永嶺仁美, 呂曉衛, 小林美奈子, 佐々木明子. 全国の学童保育における世代間交流の実態 第1報: 世代間交流の実施状況と施設概要との関連. 日本世代間交流学会 2015.10.03 大阪

9. 山本晴美, 森田久美子, 青木利江子, 永嶺仁美, 呂曉衛, 小林美奈子, 佐々木明子. 全国の学童保育における世代間交流の実態 第2報: 世代間交流の実施地域と活動内容の特性. 日本世代間交流学会 2015.10.03 大阪

[その他業績]

1. 国際セミナー企画・運営, 平成 25 年度 DNGL 国際セミナー「災害支援者へのケアを考える」(廣瀬たい子, 佐々木明子, 佐々木吉子, 三浦英恵, 津田紫緒, 今津陽子), 2015 年 02 月
災害現場においては極度のストレスを経験することから、支援者もストレスマネジメントが重要となっている。現場の第一線でご活躍のフィンランドの警察官、アメリカの精神看護ナースプラクティショナーを招き、国際的な視座から災害支援者へのケアについてのセミナーを企画・運営した。

[社会貢献活動]

1. 日本高齢者虐待防止学会評議員 佐々木明子, 日本虐待防止学会, 2009 年 07 月 01 日 - 現在
2. 日本高齢者虐待防止学会研究推進委員会委員 佐々木明子, 日本虐待防止学会, 2009 年 07 月 01 日 - 現在
3. 日本在宅ケア学会 査読委員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2012 年 04 月 01 日 - 2015 年 03 月 31 日
4. 日本地域看護学会 査読委員 佐々木明子, 日本地域看護学会, 2012 年 09 月 01 日 - 2015 年 08 月 31 日
5. 日本在宅ケア学会実践教育研究助成金委員会委員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2013 年 04 月 01 日 - 現在
6. 日本在宅ケア学会評議員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
7. 在宅高齢者への予防訪問の実践—今後の転倒予防・足育等に向けて— 佐々木明子, 足育研究会, 東京, 2015 年 10 月 15 日

地域健康増進看護学

Community Health Promotion Nursing

森田 久美子 (准教授)
 中野 愛子 (大学院生)
 山本 晴美 (大学院生)
 永嶺 仁美 (大学院生)
 呂 曉衛 (大学院生)
 青木 利江子 (技術補佐員)

(1) 分野概要

本分野における教育・研究の内容は、対象の年齢も活動の場も非常に多岐にわたります。幼少期から良い生活習慣を習得し、中高年期での高い健康レベルとQOLを維持できるようにするためにはどのような対策が必要か、それを保健医療福祉制度や公衆衛生、産業保健といった観点から学んでいきます。

健康教育では、正しい情報、知識を提供することも大切ですが、それ以上に健康教育を受けた対象者が行動変容を起こし、病気の予防・改善につながることを最も重要になります。そのために、どのような健康教育が効果的なのか、企画・実施・評価それぞれの段階で検証していくことを目標としています。

研究は、主として高齢者と子ども達との世代間交流や、地域・在宅で暮らす高齢者の介護予防、産業保健分野での生活習慣病予防等に関する調査を行っています。

(2) 研究活動

最近の研究テーマは、「世代間交流プログラムの効果」です。高齢者と若い世代の交流が、以前に比べて非常に少なくなっている現在、高齢者と子ども達が交流を行うことにより、双方にどのような効果があるのかを明らかにすることを目的に調査を実施しています。また、共同研究として「予防訪問の有用性と効果的運用方法」「在宅高齢者の介入拒否事例の特徴と看護職者が果たす支援方法の解明」に関する調査の一部を分担して行っています。

(3) 教育活動

学部教育では、看護学専攻の専門共通分野に含まれる産業保健学、保健医療福祉制度論、健康教育学演習を担当しています。これらの科目は看護師国家試験、保健師国家試験の両方に出题される内容であり、また将来、医療職として働く際にも必ず知っておかなければならない知識・内容が詰まった講義となっています。本分野を選択した学生の研究テーマは、「女子大学生のボディイメージ、食行動、自尊感情の関連性」「大学生の食生活の現状と間食に関する意識」「子宮頸がん予防に関する意識調査」「臓器移植に関する紙面上の情報提供が与える認知度向上への効果」などさまざまです。研究については、出来る限り学生の主体性を尊重し、興味関心のあるテーマで研究が進められるようにサポートしています。

大学院教育では、健康寿命の延伸を目指して、日常の生活習慣が経年変化に与える影響を学際的に分析し、その基本的考え方と研究法を修得する、また健康教育技法について、国内外の文献を吟味し、企画から評価までの一連の流れを講義と討議により修得するということを目標としています。地域健康増進看護学特論・演習では、よりよい健康を目指して、人々が行動変容するために必要な支援は何かを考え、健康教育の企画から評価までの一連の流れを演習する、また、健康教育の理論や技術を学び、さまざまな対象、地域にあわせた健康教育を実践できる能力・研究方法を演習により修得することを目標としています。

(4) 研究業績

[原著]

1. 山本晴美, 森田久美子. ヒーリングタッチ実施前後における身体的・精神的変化 日本看護技術学会誌. 2015; 14(2); 174-184
2. 金屋佑子, 佐々木明子, 森田久美子, 田沼寮子, 川南公代, 辻彼南雄. 事業所におけるメンタルヘルス活動の展開による効果 お茶の水看護学会雑誌. 2015.03; 9 (2); 28-39
3. 森田久美子, 青木利江子, 小林美奈子, 山本晴美, 呂曉衛, 永嶺仁美, 佐々木明子. 学童保育における高齢者との世代間交流の継続的実践における課題 日本世代間交流学会誌. 2015.09; 5(1); 11-20
4. 小林美奈子, 森田久美子. フォーカスグループインタビューによる世代間交流の質的分析 日本世代間交流学会誌. 2015.09; 15(1); 87-95

[講演・口頭発表等]

1. Xiaowei Lu, Harumi Yamamoto, Rieko Aoki, Hitomi Nagamine, Minako Kobayashi, Kumiko Morita. Future Prospects of Intergenerational Interaction in China . EAFONS 2015.02.05 台湾
2. Hitomi Nagamine, Harumi Yamamoto, Rieko Aoki, Xiaowei Lu, Kumiko Morita. The current situation and issues of the latest research about secondary prevention after acute myocardial infarction.. EAFONS 2015.02.05 台湾
3. Akiko Sasaki, Shio Tsuda, Kinuyo Ikeda, Kumiko Morita. Elements of community health nursing practice to raise the public health nurse intentionality of the nursing students. International Conferences on Community Health Nursing Research 2015.08.19 Korea
4. Shino Tamaki, Akiko Sasaki, Kumiko Morita, Shio Tsuda, Chie Hishinuma, Yuko Kanaya. Intervention by community nurses for elderly people who refuse the support. International Conferences on Community Health Nursing Research 2015.08.19 Seoul, Korea
5. Shio Tsuda, Akiko Sasaki, Kinuyo Ikeda, Kumiko Morita. Impact of practice duration on students self-assessment in learning public health nursing practicum. International Conferences on Community Health Nursing Research 2015.08.19 Seoul, Korea
6. Kumiko Morita, Rieko Aoki, Minako Kobayashi, Harumi Yamamoto, Xiaowei Lu, Hitomi Nagamine, Akiko Sasaki. Actual situations of intergenerational exchanges with elderly people at after-school care of schoolchildren in Japan. ICCHNR2015 2015.08.20 Seoul, Korea
7. 佐々木明子, 小野ミツ, 森田久美子, 金屋佑子, 西尾美登里, 秋保亮太. 高齢者への予防訪問における経時的变化. 第74回日本公衆衛生学会 2015.10 長崎
8. 森田久美子, 青木利江子, 山本晴美, 永嶺仁美, 呂曉衛, 小林美奈子, 佐々木明子. 全国の学童保育における世代間交流の実態 第1報: 世代間交流の実施状況と施設概要との関連. 日本世代間交流学会 2015.10.03 大阪
9. 山本晴美, 森田久美子, 青木利江子, 永嶺仁美, 呂曉衛, 小林美奈子, 佐々木明子. 全国の学童保育における世代間交流の実態 第2報: 世代間交流の実施地域と活動内容の特性. 日本世代間交流学会 2015.10.03 大阪

[受賞]

1. 東京医科歯科大学医学研究奨励賞, 東京医科歯科大学医学部, 2015年01月

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会ピアレビュー委員会 委員, 2009年10月 - 現在
2. 日本在宅ケア学会 査読委員, 2010年 - 現在
3. お茶の水看護学研究会 会長・編集委員, 2010年04月 - 現在
4. 日本公衆衛生学会 認定専門家, 2010年04月 - 現在
5. 日本在宅ケア学会 実践・研究助成委員会委員, 2012年11月 - 現在

6. 日本看護科学学会 査読委員, 2015 年 - 現在
7. 日本世代間交流学会 編集委員, 2015 年 01 月 - 現在
8. 日本地域看護学会 国際交流推進委員会, 2015 年 10 月 - 現在

先端侵襲緩和ケア看護学

Critical and Invasive-Palliative Care Nursing

教授 井上 智子
講師 矢富 有見子
助 教 川本 祐子
特任講師 前田 留美 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター)
特任助教 大山 裕美子 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター)

大学院生 (博士後期) 山中 源治、奥川 沙希、村田 洋章、石塚 紀美、
申 于定、野口 綾子
(5年一貫制博士課程) 瀧口 千枝、松井 憲子、畑中 佳子、藤田 和寿、
染谷 彰、奈良定 健

(1) 研究活動

本分野では、先端的医療・急性期・慢性期の治療を受ける患者の体験や困難など明らかにし、看護支援の必要性や支援のあり方を追求するとともに、研究成果の還元によるクリティカルケア看護学の構築をめざしている。

近年の研究課題としては、植え込み型人工心臓や非侵襲的陽圧換気療法等の医療機器装着患者の看護ケアの開発、ICU入室患者の記憶の歪みの研究、重症患者のケアモデルの開発、浅い鎮静下にある患者の体験、がん看護や慢性病患者のケア、難治性疾患を持つ人々に関する研究や救急看護師の体験、看護学教育方法の在り方など、多方面の研究課題に取り組んでいる。

(2) 教育活動

1) 学部教育

本教育研究分野は、学部教育では成人看護学を担当している。

カリキュラムの構成は、2年次での成人看護学Ⅰ(概論2単位)、成人看護学Ⅱ(各論2単位)、3年次前期の成人看護学Ⅲ(実践論1単位)と成人看護学演習(1単位)、そして集大成としての成人看護学実習Ⅰ(3単位)という、学生の学習進度と体験に応じた組み立てとなっている。

2年次では、講義を中心として成人看護学Ⅰ、Ⅱで成人期にある人々の理解と成人看護学の考え方、成人看護学としての看護のあり方の基本を学ぶ。

3年次前期では、成人看護学演習で実践に必要な知識と技術、態度の統合と、成人看護学Ⅲでは各専門領域(専門看護師、遺伝看護、HIV感染者ケア等)で活躍する第一人者による成人看護学の最新の実践論を学習する。3年次後期は臨地実習期間であり、本学医学部附属病院で3週間の領域別実習を行っている。実習は医学部附属病院のほぼ全病棟にわたり、各病棟の看護管理者、臨床実習指導者との連携のもとにすすめている。実習最終日には4～5病棟合同の「まとめの会」を開催しているが、当該病棟にとどまらず、看護部、他病棟の臨床実習指導者の参加もあり、有意義な意見交換の場となっている。実習開始前の個々の学生の状況把握や、数回の個人面接も含めたきめ細かな指導で、学生の学習の質向上をめざしている。

4年次での卒業論文指導では、講義、ゼミ形式、個別指導と、多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。また卒業論文のゼミ生を中心に、就職相談・推薦等キャリア形成のための指導を行っている。

2) 大学院教育

クリティカルケア看護、救急看護、ICU/CCU看護、周手術期看護などの専門性の追求と発展の教育研究に加え、高度実践者としてのクリティカルケア(急性・重症患者)看護専門看護師(CNS)の教育を行っている。本年は2年次生1名、1年次生1名がCNSに必要な科目を履修している。専門看護師実習は、実習提携病院ならびに

本分野の CNS 課程履修の修了生やクリティカルケア看護専門看護師が勤務する施設の協力を得て、クリティカルケア看護専門看護師育成のための先駆的教育に取り組んでいる。

研究論文作成指導では、学生個々の興味やテーマを尊重しつつ、研究論文としての意義と研究計画、研究実施状況の意見交換と指導の場としての「論文ゼミ」と、院生一人一人への個別指導との組み合わせで教育の充実を図っている。取り組んでいる論文テーマは、クリティカルケア・急性期・周手術期での看護ケアの洗練と質向上、先端・高度医療における看護の役割、新たな治療を受ける患者の療養生活支援、急性期医療からの移行期、慢性期における看護の役割など多岐にわたる。

3) 看護キャリアパスウェイ教育研究センター

看護キャリアパスウェイ教育研究センターは設立2年目を迎え、10月より5名の第1期履修生を迎えて履修証明プログラム「臨床看護師の大学院進学支援プログラム」を開始した。プログラムは、1) web class を用いた大学院進学後の研究遂行に必要な「統計学」「看護研究方法論」「英語」の履修、2) インストラクショナル・デザインを用いた研修設計、シミュレーション教育プログラムの作成を行う講義・演習、3) 月1回程度の個別面接による進路相談、研究テーマ設定のための文献検討、小論文指導、英語等の学習フォローアップ、を実施している。講義・演習は大学院講義と同様、全てアクティブ・ラーニング形式とし、大学院進学後に求められる主体的な学修姿勢を身につけられるよう努めたほか、国際学会への参加を通じてアカデミック・マナーを実践的に学ぶ機会を設けるなど、大学院進学後の研究遂行に必要な知識・態度を総合的に習得できるようなプログラム構成を行っている。

また、センター事業として医学部附属病院看護部褥創対策チームとの教育教材の共同開発、拓殖大学工学部との連携によるファシリテーション支援ツール研究に取り組んでいる。

(3) 研究業績

[原著]

1. 高畑和恵、佐々木吉子、井上智子. 看護学学士課程教育における臨地実習指導での大学教員と実習指導者との協働に関する研究 日本看護学教育学会誌. 2015; 25(2); 1-14
2. 石塚紀美、井上智子. 救命救急領域における家族の代理意思決定時の思いと看護支援の実態 日本クリティカルケア看護学会誌. 2015; 11(3); 11-23
3. 荒川祐貴、井上智子. 看護ケア発展に向けたキュアとケアを融合した看護実践の内的構造の分析 日本看護科学学会誌. 2015; 35; 72-81
4. Tomohide Fukuda, Tomoko Inoue, Yoshiko Kinoshita, Tamiko Yukawa. Effectiveness of ICU Diaries: Improving “Distorted Memories” Encountered during ICU Admission Open Journal of Nursing. 2015; 5; 313-324
5. 森下純子、井上智子. 化学療法以外の選択肢がない進行性肝がん患者の受療体験 国立病院看護研究学会誌. 2015; 11(1); 21-32
6. 深堀浩樹、宮下光令、大山裕美子、跡上富美、岡谷恵子、柏木聖代、河野あゆみ、高見沢恵美子、奈良間美保、吉沢豊子. 若手看護学研究者の研究活動の阻害要因と日本看護科学学会に求める支援の関連要因 日本看護科学学会誌. 2015; 35; 203-214
7. Hiromi Okada, MSN, RN Mitsue Maru, DSN, RN Rumi Maeda, MSN, RN Fuminori Iwasaki, MD Masayuki Nagasawa, MD, PhD Miyako Takahashi, MD, PhD. Impact of Childhood Cancer on Maternal Employment in Japan Cancer Nursing. 2015.01; 38(1); 23-30
8. Masayo Kashiwagi, Yumiko Oyama. Predictors of the Intention to Resign Among Home-Visiting Nurses in Japan: A Prefecture-Wide Cross-Sectional Survey Home Health Care Management & Practice. 2015.01;
9. 大山 裕美子, 前田 留美, 丸 光恵. 日本語版 Self-Directed Learning Readiness Scale for Nursing Education の翻訳と 表面妥当性の検証 日本看護科学学会誌. 2015.02; 35; 38-42
10. 辻本真由美、井上智子. クリティカルケア看護師の感情を揺さぶられる印象的な体験 (Impressive clinical experience) とキャリア形成への影響の検討 お茶の水看護学雑誌. 2015.03; 9(2); 1-13
11. Oyama Yumiko, Maeda Rumi, Mitsue Maru. Translation and Face Validity of the Japanese Version of the Self-Directed Learning Readiness Scale for Nursing Education. Journal of Japan Academy of Nursing Science Journal of Japan Academy of Nursing Science. 2015.05; 35; 38-42

12. Yumiko Oyama, Hiroki Fukahori. A literature review of factors related to hospital nurses' health-related quality of life. J Nurs Manag. 2015.07; 23(5); 661-673

[書籍等出版物]

1. 前田 留美, 奈良間美保, 丸 光恵ほか. 系統看護学講座 専門 22 小児看護学 1 小児看護学概論 第 12 版. 医学書院, 2015.01 (ISBN : 4260020021)
2. 前田留美, 奈良間美保, 丸 光恵 編. 系統看護学講座 専門 23 小児看護学 2 小児臨床看護各論, 第 12 版. 医学書院, 2015.01 (ISBN : 4260019902)

[総説]

1. 井上智子. 専門看護師の役割拡大と必要とされる教育・実践 日本 CNS 看護学会誌. 2015; 1; 30-34
2. 大山 裕美子. 看護の価値を主張するためには (Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ (1)) 看護研究. 2015.01; 48(1); 88-90
3. 前田 留美, 深堀 浩樹, 丸 光恵. NINR とは何か? その歴史と看護研究における役割 看護研究. 2015.02; 48(1); 23-31
4. 大山裕美子, 前田留美, 丸光恵, 井上智子. スタッフの「臨床判断能力」をはぐくむ効果的な学習支援-「臨床教育者」の役割から考える『臨床看護教育の専門家を育成する取り組み: 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護キャリアパスウェイ教育研究センター』看護管理. 2015.06; 25(6); 482-486
5. 大山 裕美子, 前田 留美, 丸 光恵, 井上 智子. 【新人看護職員研修努力義務化から 5 年 今こそ育てる「臨床看護教育」のスペシャリスト】 臨床看護教育の専門家を育成する取り組み 東京医科歯科大学大学院看護キャリアパスウェイ教育研究センター 看護管理. 2015.06; 25(6); 482-486
6. 前田 留美. 2013 年 SIOP(International Society of Pediatric Oncology) 参加報告 小児がん看護. 9(1);

[講演・口頭発表等]

1. 深堀浩樹, 小玉淑巨, 川本裕子, 須永昌代, 山口久美子, 木下淳博. 看護師が遭遇する多重課題に関する e-ラーニング教材の多職種連携教育における活用. 第 9 回全国医療系 e-ラーニング交流会 2015.01.24 栃木
2. Yumiko Yatomi, Tomoko Inoue, Yoshiko Sasaki, Yuko Kawamoto. Characteristics of the Content of the Work of Critical Care Nursing Based on a Time-motion Study. 18th EAFONS 2015.02.06 TAIPEI
3. 井上智子. 看護ケアの実践知. 第 19 回日本看護研究学会東海地方会学術集会抄録集 2015.02.14
4. 今津陽子, 井上智子. 3 年間の看護記録のテキストマイニング分析による口腔がん手術患者の食機能回復に向けた看護支援の実態. 第 29 回日本がん看護学会学術集会 2015.02.28 神奈川県横浜市
5. 前田 留美, 大山 裕美子, 丸 光恵, 井上 智子. 短大・専門学校卒看護師の大学院入学および修学時における英語・看護研究の課題. 第 25 回日本看護学教育学会学術集会 2015.08 徳島
6. 大山裕美子、前田留美、丸光恵、井上智子. 看護系大学院生の自己決定型学習準備性に関連する要因. 日本看護学教育学会第 25 回学術集会 2015.08.19 徳島市
7. 前田留美、大山裕美子、丸光恵、井上智子. 短大・専門学校卒看護師の大学院進学および進学後の学修支援内容の検討. 日本看護学教育学会第 25 回学術集会 2015.08.19 徳島市
8. 井上智子. 時代を見すえた看護の拡張と看護学教育. 第 19 回日本看護研究学会東海地方会学術集会 2015.08.19
9. 前田 留美. がん化学療法を受ける子どもと家族に対するスキンケア・セルフケア研究の動向と課題. 第 13 回日本小児がん看護学会学術集会 2015.11.28 甲府市
10. 須永 唯, 篠原 美代, 須賀 瑛子, 陳 菜穂, 前田 留美, 原田 裕美. 終末期の家族関係を支えた看護 一子どもの病状を否認していた父に着目して-. 第 13 回日本小児がん看護学会学術集会 2015.11.28 甲府市
11. 前田 留美. 小児がん救急看護の現状と課題についての文献検討. 第 13 回日本小児がん看護学会学術集会 2015.11.29 山梨県甲府市

[Works]

1. 小児看護入門シリーズ DVD 教材 日本語版監修（共著）第 1 巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第 2 巻 学童/思春期、青年期, 教材, 2010 年 04 月 - 現在
2. 3 P 科目オンライン教育プログラム教材開発とオンライン教育の実施, Web サービス, 2012 年 05 月 - 現在

[受賞]

1. 医療系 e ラーニング全国交流会奨励賞（川本祐子）, 医療系 e ラーニング全国交流会, 2015 年 01 月

[社会貢献活動]

1. 日本クリティカルケア看護学会専任査読員（矢富有見子）, 2004 年 01 月 - 現在
2. 独立行政法人大学評価・学位授与機構看護部会主査（井上智子）, 独立行政法人大学評価・学位授与機構, 2004 年 04 月 01 日 - 現在
3. 看護職賠償責任制度事故審査委員会委員（井上智子）, 公益社団法人日本看護協会, 2006 年 04 月 - 現在
4. 日本学術会議連携会員（井上智子）, 日本学術会議, 2010 年 10 月 - 現在
5. 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師（矢富有見子）, 2012 年 04 月 01 日 - 2016 年 03 月 31 日
6. 受療者医療保険学術連合会 広報委員会（川本祐子）, 2013 年 - 現在
7. 看護キャリアパスウェイ教育研究センター 第 2 回シンポジウム 「看護×教育×シミュレーション 教育場面におけるファシリテーションとファシリテーターの育成」, 東京医科歯科大学 M&D タワー 鈴木章夫記念講堂, 2015 年 02 月 27 日
8. D-Methods セミナー 01 口演（川本祐子）, 2015 年 07 月 11 日
9. 救急救命士国家試験出題基準委員会委員, 救命救急士国家試験委員会

精神保健看護学

Mental Health and Psychiatric Nursing

教 授	田上 美千佳
准 教 授	美濃 由紀子
助 教	渡邊 敦子 (～ 2015 年 8 月)
大学院生 (博士後期)	熊地 美枝
	渡辺 純一
	松浦 佳代
(博士前期)	和井 ひとみ (～ 2015 年 3 月)
	西平 心華子
	三木 枝里
5 年一貫博士課程	小川 真紀子 (～ 2015 年 1 月)
	高濱 圭子 (2015 年 4 月～)
	大河原 文 (2015 年 4 月～)
	富川 明子 (2015 年 4 月～)
大学院研究生	高濱 圭子 (～ 2015 年 3 月)

(1) 分野概要

心の健康づくりへの関心の高まりとともに、人々へのメンタルヘルス支援への必要性が指摘されている。また、精神保健福祉施策が見直され、長期入院精神がい者の地域移行を進めるための具体的方向性の提示や、精神病床の機能分化等が図られている。このように精神保健医療福祉を取り巻く状況は変化し、精神看護を専門とする看護師に求められる能力もこれまで以上に大きくなっている。すなわち、精神科領域への社会的ニーズは多様化し続け、精神看護の活動範囲や援助の対象者は飛躍的に拡大しつつある。

こうした状況を踏まえ、当分野では、精神疾患とその処遇に関する正しい知識を身につけ、社会が求める看護ニーズに応えられる精神科看護者の育成を目指すとともに、精神的な看護援助の原理と方法論の確立に向けた研究・教育を行っている。(学部・大学院教育)

また、当分野は日本看護系大学協議会より認定を受けた「精神看護専門看護師教育課程」であり、精神科領域での高い水準のケアならびにリエゾン精神看護師として臨床全体に専門的に貢献できる人材の育成にも力を注いでいる。

本研究分野の主な研究テーマは、精神疾患患者とその家族のケア、思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援、精神疾患患者の退院および地域生活促進、地域・学校保健・産業保健における精神保健問題の理解と支援、精神科医療・精神保健看護領域の質の向上、司法精神医学・看護学に関する研究等である。

(2) 研究活動

1. 精神疾患患者とその家族への支援
2. 思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援
3. 精神疾患患者の退院および地域生活促進
4. 精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究
5. 司法精神医学・看護学に関する研究

(3) 教育活動

当分野は日本看護系大学協議会より認定を受けた「精神看護専門看護師教育課程」であり、精神科領域での高い水準のケアならびにリエゾン精神看護師として臨床全体に専門的に貢献できる人材の育成にも力を注いでいる。2014年に認定の更新を行い、承認された。

(4) 教育方針

1) 学部教育

1. 看護心理学では、心のしくみと働きについて理解を深めると共に、健康上の問題を抱える人々に精神的な援助を提供する上で欠くことのできない基本的な知識、技術、態度を養うことを学習の目標とする。そこでまず、人格診断、心理測定、自己分析の方法を自分自身に適用してみる。さらに、日常的に体験しているストレスや生活習慣について吟味し、自分自身の心と身体を素材にして、健康と不健康、適応と不適応を区別できる判断力を磨く。また、リラクセーション技法、呼吸法等、心の健康の回復・維持・増進に有効と考えられる方法の一端を体験し、精神的な健康をめぐる援助について視野を広げる。こうした学習を通じて、セルフケア支援としての看護について基本的な考え方を身につける。

2. 精神看護学では、精神的な機能の障害を精神医学的な疾患論、病理学、診断学に基づいて評価する方法や、薬物療法、精神療法、芸術療法などによって回復をもたらす方法について学ぶ。また、精神医療システムの中で看護職が保健医療チームの一員として、それらの知識や方法を看護的援助に生かしながら、どのような役割をとっていく必要があるかについて考察を深める。

3. 地域精神看護学では、精神保健福祉をめぐる社会状況と制度やシステムについての理解を踏まえて、看護師が地域の社会資源を活用しながら、精神障がい者の地域生活の質の向上と社会参加の支援に向けて担うべき役割について学ぶ。

4. 精神看護学演習では、精神疾患患者の生活歴と疾患や生活障害との関連、精神医療の歴史や治療環境の成り立ちが精神疾患患者の処遇に及ぼす影響についての理解を深め、精神疾患患者への心理・社会・生物学的な諸局面を視野に入れた全人的理解の深化を目指す。さらには、援助的な対人関係技術の向上を通じて、精神疾患患者の回復、成長、自立を支援するために必要な方法と、その理論的な背景について学ぶ。

5. 精神看護学実習は、精神科病棟及び地域における精神科通所施設で行う。カンファレンスでは「看護場面の再構成法」のワークシートを活用し、入院患者との対人関係を振り返って自己理解を深めることを通じて精神看護の実践能力を高めると共に、地域に暮らす精神障害者の生活実態に沿った地域支援について学ぶことを目標とする。入院患者や通所者との対人関係を体験する中で、自己一致に基づく率直な自己表現の共有を通じて感情活用能力を高めることに加えて、セルフケア理論に基づいた看護過程を展開することを通じて、対象者の抱えている問題の明確化を図りながら援助関係を築いていく過程を重視している。

2) 大学院教育

1. 精神保健看護学特論 A-1 では、人々の精神状態や発達課題について判断するための基準や枠組みと共に、様々な年代や健康状態の人々に対する精神的援助を支える技術や方法とその理論的な背景について習得する。具体的には、精神医学的診断法や心理測定法、並びに精神医療法を始めとする様々な精神科治療の技術と方法の蓄積に学びながら、看護学独自の視点に基づく評価と援助の方法について修得する。

2. 精神保健看護学特論 A-2 では、精神的な問題をもつ人々とその家族に適切な看護的援助を提供する上で必要な内省技法、面接技法、グループワーク技法の理論的背景を学ぶと共に、精神保健看護学の分野における研究倫理、参加観察と質的研究の方法論について理解を深め、臨床家の問題意識に沿って研究課題を発見して明確化できる能力、ならびに研究成果を臨床の場で実践できる能力を修得する。

3. 精神保健看護学演習 A では、対人関係論、集団力動論の視点と方法論に則った看護事例検討会への参加とその振り返りを通じて、事例分析や看護評価の方法とその理論的背景、並びにグループによるスーパービジョン、コンサルテーションの実際を体験すると共に、個別のスーパービジョン、コンサルテーション、相談面接の理論と方法について習得する。

4. 精神保健看護学特論 B-1 では、精神保健福祉をめぐる社会状況と関連法規、社会制度の変遷について理解を深めると共に、看護師の視点から、現状の保健医療福祉システムが抱えている課題の克服に向けて、既存の制度や

社会資源を活用し、患者の自助活動と連携していくための方法論や、制度改革の必要性和方向性について学ぶ。

5. 精神保健看護学特論 B-2 では、司法精神医療、司法精神医学、司法精神看護学の現状と課題、並びに理論的、歴史的背景の検討を中心に、暴力等による自傷他害の行為の見られる精神疾患患者の回復と自立の促進に向けた早期介入や入院時の個別ケアと併せて、心理教育、認知行動療法、芸術療法等の集団療法や、患者の自助活動を重視する治療共同体的な実践の方法論について習得する。

6. 精神保健看護学演習 B では、精神疾患患者の病状や心理社会的状況に応じた看護契約、権利擁護、アメニティ向上のための方法論、並びに急性期・回復期の看護、リハビリテーション看護、家族看護、在宅看護ならびにそれらの活動の充実に向けた看護管理やチーム医療を支える理論と方法論について、講義と討議によって習得する。

7. 精神保健看護学実習では、急性期、慢性期、回復期等各期における様々な病態の精神疾患患者への看護的援助を実施した経験を核とし、それをあらゆる角度から分析・検討することを通じて、精神的健康に問題を持つあらゆる人々に対して専門性の高い看護的援助、及び援助者への援助を実践できる能力を身につけることを重視する。

8. 精神保健看護学特論（博士後期課程）では、精神的な看護援助の方法論的な確立に向けた看護的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得するとともに、治療的援助技法を活用した精神的な問題を持つ人とその家族への支援の実践を基盤に、精神健康の質的向上と精神医療保健看護システムの変革に寄与し得る学際的な研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。

（５） 臨床活動および学外活動

大学院講義を公開講座にし、臨床・学外に門戸を開いている。
具体的には、下記の講義を公開講座とした。

精神保健看護学特論 A-1

「子供の権利から見た国際支援と精神保健」

講師：平林国彦（2015 年 7 月 14 日）

精神保健看護学特論 A-2

「子供と親への面接・ペアレントトレーニング」

講師：田中哲（2015 年 5 月 15 日）

精神保健看護学特論 A-2

「認知行動療法の基礎と実際」

講師：菊池安希子（2015 年 7 月 10 日）

精神保健看護学特論 A-2

「自殺予防に関する研究と支援」

講師：松本俊彦（2015 年 7 月 24 日）

精神保健看護学特論 B-2

「司法精神医学の評価方法・司法精神鑑定と医療観察法鑑定」

講師：岡田幸之（2015 年 10 月 20 日）

精神保健看護学特論 B-2

「触法精神障害者の行動予測と治療反応性の予測」

「司法精神科病棟におけるリスクマネジメント・暴力防止プログラム」

講師：下里誠二（2015 年 12 月 8 日）

精神保健看護学講座 特別講演会

「マインドフルネスを学ぶ」

講師：釈真法恩／THICH CHAN PHAP AN（2015 年 4 月 29 日）

米国在住ベトナム人禅僧、釈真法恩師を招き、「東京医科歯科大学 精神保健看護学講座」主催の特別講演会を企画・実施した。

(6) 研究業績**[原著]**

1. Nakanishi M, Niimura J, Tanoue M, Yamamura M, Hirata T, Asukai N. Association between length of hospital stay and implementation of discharge planning in acute psychiatric inpatients in Japan. Int J Ment Health Syst. 2015.06; 9(23);
2. 美濃由紀子, 中川佑架, 宮本真巳. 司法精神医療における内省深化に向けた多職種チームアプローチ — MDT(Multi Disciplinary Team) 会議の再現を通して — 日本精神科看護学術集会誌. 2015.11; 58(3); 292-296

[書籍等出版物]

1. 田上美千佳. 退院時オリエンテーション. In. パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護第2版 (萱間真美編), pp125-127. 照林社, 東京, 2015.01
2. 田上美千佳. 家族への対応. In. パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護第2版 (萱間真美編), pp122-124. 照林社, 東京, 2015.01
3. 美濃由紀子, 中川佑架, 西平心華子, 宮本真巳他. 職種連携による医療の充実に向けた組織強化とスタッフ教育に関する研究 (研究分担者: 宮本真巳). 「医療観察法の向上と関係機関の連携に関する研究」 (主任研究者: 中島豊爾) H26 年度 総括・分担研究報告書, pp67-113. 2015.03
4. 美濃由紀子, 宮本真巳. 職種連携による医療の充実に向けた組織強化とスタッフ教育に関する研究 (研究分担者: 宮本真巳). 「医療観察法の向上と関係機関の連携に関する研究」 (主任研究者: 中島豊爾) H24 ~ 26 年度 総合研究報告書, pp79-88. 2015.03
5. 田上美千佳. 家族支援. In. 精神科訪問看護 (公益財団法人日本訪問看護財団監修), pp109-126. 中央法規, 東京, 2015.05
6. 松浦佳代. 効果的な学校メンタルヘルスリテラシー教育プログラム 立ち上げ方, 進め方ツールキット. Part1 (1章3節2項), Part2 (2章2項2節), Part3 (8章), 第44回三菱財団社会福祉事業・研究助成事業. 精神保健福祉機構 (COMHBO), 2015.09

[総説]

1. 美濃由紀子, 宮本真巳. 「司法精神看護学」教育における現状と課題 司法精神医学. 2015.03; 10(1); 75-81
2. 田上美千佳. 社会精神医学における精神看護学の役割と日本社会精神医学会への期待 日本社会精神医学会雑誌. 2015.05; 24(2); 154-160
3. 美濃由紀子, 村重菜摘, 田上美千佳, 宮本真巳. 看護場面の再構成による臨床指導 援助関係づくりのつまずきを越えて — 感情活用によるストーリーの書き換え — 精神科看護. 2015.07; 42(8); 62-69

[講演・口頭発表等]

1. 美濃由紀子, 中川佑架, 宮本真巳. 指定入院医療機関における多職種チーム参加の事例検討会を通じた継続学習 —ピアレビュー活動を通じて—. 第11回 日本司法精神医学会 2015.06.20 名古屋
2. 福岡透, 福島幸司, 渡辺弘, 中川佑架, 美濃由紀子, 宮本真巳. 医療観察法病棟におけるピアレビューを通じた多職種連携の向上 —看護職の視点から—. 第11回 日本司法精神医学会 2015.06.20 名古屋
3. 松浦佳代, 美濃由紀子, 田上美千佳. 精神障害を有する親とその子どもへの支援の実態に関する文献レビュー —医療保健福祉分野の専門職者に焦点を当てて—. 第25回 日本精神保健看護学会 学術集会 2015.06.27 つくば
4. 高濱圭子, 美濃由紀子, 田上美千佳. 「瞑想」「マインドフルネス」に関する文献検討レビュー —国内の報告を中心に—. 第25回 日本精神保健看護学会 学術集会 2015.06.27 つくば
5. 小林信, 須藤公裕, 佐々木美和, 則村良, 勝部真由, 寺岡征太郎, 田上美千佳. 精神力動論的に事例を理解するための「事例の読み解き方」(ワークショップ). 日本精神保健看護学会第25回学術集会 2015.06.27
6. 松浦佳代, 美濃由紀子, 田上美千佳. 示説発表「精神障害を有する親とその子どもへの支援の実態に関する文献レビュー 医療保健福祉分野の専門職者に焦点を当てて」. 第25回日本精神保健看護学会学術集会 2015.06.27 つくば国際会議場

7. 田上美千佳, 佐藤るみ子. 質の高い看護実践を目指した新たな取り組み(シンポジウム座長). 日本精神保健看護学会第25回学術集会 2015.06.28 つくば国際会議場、つくば
8. 和井ひとみ, 美濃由紀子, 田上美千佳. 特定機能病院に勤務する新卒看護師の適応過程—入職後1年間の困難とその対応について—. 第25回 日本精神保健看護学会 学術集会 2015.06.30 つくば
9. 小野和代, 片山悦子, 鬼澤かおる, 深堀浩樹, 小玉淑巨, 美濃由紀子, 高木由里. 「看護職 IKASHIKA キャリアパスの開発」事業に対する看護職員の評価. 第19回 日本看護管理学会学術集会 2015.08.28 福島
10. 高濱圭子, 美濃由紀子, 松浦佳代, 大河原文, 田上美千佳, 宮本真巳. 事例検討会における参加者の学習内容に関する研究 —参加者への質問紙調査の結果から—. 第35回 日本看護科学学会学術集会 2015.12.05 広島
11. 松浦佳代, 美濃由紀子, 高濱圭子, 大河原文, 田上美千佳, 宮本真巳. 看護系大学などで開催されている「事例検討会の方法論に関する研究」の動向. 第35回 日本看護科学学会学術集会 2015.12.05 広島

[その他業績]

1. 田上美千佳: 科学研究基盤研究(B), 2015年04月
精神科外来における患者と家族への包括的看護支援方法の開発
2. 美濃由紀子: 文部科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金), 2015年04月
精神科外来における患者と家族への包括的看護支援方法の開発, 基盤(B)主任研究者 田上美千佳, 分担研究者
3. 田上美千佳: 科学研究費挑戦的萌芽研究, 2015年04月
精神科救急入院料病棟における家族への退院支援
4. 美濃由紀子: 文部科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金), 2015年04月
精神科救急入院料病棟における家族への退院支援, 挑戦的萌芽研究 主任研究者 田上美千佳, 分担研究者
5. 松浦佳代: 平成27年度上廣倫理財団 研究助成, 2015年12月
精神障害を有する親が自身の症状や治療について子どもに伝える際に抱く倫理的葛藤～精神科病院への入退院を通じて親が体験する心理過程に着目して～

[社会貢献活動]

1. 美濃由紀子: 国立精神・神経医療研究センター病院 医療観察法病棟 看護アドバイザー, 2005年04月 - 2015年03月
2. 田上美千佳: 日本精神保健看護学会第8期副理事長, 2012年07月01日 - 2015年03月31日
3. 田上美千佳: 日本精神保健看護学会第8期代議員, 2012年07月01日 - 2015年03月31日
4. 松浦佳代: 「精神看護学概論(前期)」「精神看護学方法論(後期)」 [非常勤講師], 愛国学園高等学校 衛生看護専攻科(1年生), 2014年04月01日 - 現在
5. 松浦佳代: 東京都清瀬市立中学校(5校)メンタルヘルスリテラシー教育, NPO法人地域精神保健福祉機構 学校メンタルヘルスリテラシー教育研究会, 2014年10月08日 - 2015年03月13日
6. 富川明子: 平成27年度看護研究発表会論文 査読委員, 日本精神科看護協会(大阪支部), 2015年
7. 美濃由紀子: がんを併発した精神障がい者への看護を考える[講演], 日本看護協会, 身体合併症を持つ精神障がい者への看護, 神戸研修センター(神戸), 2015年01月20日
8. 田上美千佳: 精神障がい者の家族及び介護者への支援, 公益財団法人日本訪問看護財団, 平成26年度精神障害者の在宅看護セミナー・第2回, 東京工科大学, 東京, 2015年02月08日
9. 田上美千佳: メンタリング事例検討[講評, スーパーバイザー], 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部, メンター研修プログラム, 東京医科歯科大学附属病院, 東京, 2015年02月16日
10. 田上美千佳: ストレスとコーピング[講義], 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部, アドバンスコース研修, 東京医科歯科大学附属病院, 東京, 2015年02月17日
11. 田上美千佳: 一般社団法人日本精神保健看護学会第1期副理事長, 2015年04月01日 - 2015年06月27日
12. 田上美千佳: 一般社団法人日本精神保健看護学会第1期代議員, 2015年04月01日 - 2015年06月27日

13. 田上美千佳：家族の理解〔講義〕，日本精神科看護協会，精神科看護初心者研修会，東京研修会場，東京，2015年05月07日
14. 田上美千佳：家族の理解と家族のケア〔講義〕，日本精神科看護協会，精神科看護初心者研修会，東京研修会場，東京，2015年05月07日
15. 松浦佳代：日本精神保健看護学会 第25回学術集会 実行委員，日本精神保健看護学会，つくば，2015年06月27日 - 2015年06月28日
16. 田上美千佳：一般社団法人日本精神保健看護学会第2期理事長，2015年06月27日 - 現在
17. 田上美千佳：一般社団法人日本精神保健看護学会第2期代議員，2015年06月27日 - 現在
18. 田上美千佳：質の高い看護実践を目指した新たな取り組み（シンポジウム座長），日本精神保健看護学会第25回学術集会シンポジウム，つくば国際会議場，つくば，2015年06月28日
19. 田上美千佳：家族援助の実際〔講義〕，日本精神科看護協会，関係論および教育論を学ぶ（家族関係論2），東京研修会場，東京，2015年07月07日
20. 田上美千佳：家族を対象とした治療的介入と支援1〔講義〕，聖路加看護大学看護学部，家族関係論，聖路加国際大学，東京，2015年07月08日
21. 美濃由紀子：看護師長として感情活用を学び部下の育成に役立てる ―ナラティブアプローチからヒントを得て―〔講義・演習〕，長野・山梨看護部長会，松本，2015年07月11日
22. 田上美千佳：家族を対象とした治療的介入と支援2〔講義〕，聖路加看護大学看護学部，家族関係論，聖路加国際大学，東京，2015年07月15日
23. 田上美千佳：群馬大学大学院看護学特別セミナー〔講義〕，群馬大学大学院保健学研究科，群馬大学・前橋，2015年07月18日
24. 田上美千佳：日本難病看護学会第20回学術集会実行委員，大田区産業プラザ P10，東京，2015年07月25日
25. 高濱圭子，松浦佳代，大河原文：認定看護師 実践事例検討会〔演習〕，日本精神科看護協会，東京，2015年08月05日 - 2015年08月06日
26. 富川明子：統合失調症をもつ子宮がん終末期患者のケア〔講義〕，順天堂大学付属練馬病院，第3回 練馬ケアネットワーク，順天堂大学付属練馬病院，2015年08月06日
27. 美濃由紀子：一般社団法人 日本精神保健看護学会 理事，2015年08月12日 - 現在
28. 高濱圭子：研修 「異和感の対自化・プロセスレコード」を学ぶ〔助言・指導〕，日本精神科看護協会，東京，2015年08月23日
29. 田上美千佳：精神科リエゾンチーム講習会〔理事長挨拶〕，日本精神保健看護学会・日本総合病院精神医学会共催，2015年08月29日
30. 高濱圭子：研修 「異和感の対自化」を学ぶ〔助言・指導〕，井之頭病院，東京，2015年09月03日
31. 田上美千佳：家族の心理と対応〔講義〕，東京医科歯科大学医学部付属病院デイケア，東京医科歯科大学附属病院，東京，2015年09月10日
32. 富川明子：ストレスとのつきあい方〔講義〕，西東京市地域活動支援センターハーモニー，ハーモニーミニ講座，2015年09月12日
33. 田上美千佳：日本看護科学学会第36回学術集会企画委員，2015年09月14日 - 現在
34. 田上美千佳：精神障がい者の家族及び介護者への支援〔講演〕，広島県看護協会，精神障がい者訪問看護研修，広島県看護協会会館，広島，2015年09月18日
35. 高濱圭子：事例検討会 ―看護師レベルⅡ研修―〔演習〕，井之頭病院，東京，2015年09月28日
36. 美濃由紀子：事例検討会 ―看護師レベルⅡ研修―〔講義・演習〕，財団法人井之頭病院，2015年09月28日
37. 美濃由紀子：看護教育課程研修会 精神看護教育計画・実習指導計画〔講義〕，日本精神科看護協会，2015年10月11日

38. 田上美千佳：メンタリングと相談面接 [講義] , 東京医科歯科大学医学部付属病院看護部, メンター研修プログラム, 東京医科歯科大学附属病院, 東京, 2015 年 10 月 28 日
39. 田上美千佳：家族援助・家族心理教育 [講義] , 東京女子医科大学大学院, 東京女子医科大学大学院博士前期課程, 実践看護学 IV 精神看護学演習, 東京女子医科大学, 東京, 2015 年 10 月 28 日
40. 松浦佳代：メンタルヘルスリテラシー教育 [講義：中学生対象] , 学校メンタルヘルスリテラシー研究会, 私立啓明学園 (昭島市) , 2015 年 11 月
41. 田上美千佳：家族の理解 [講義] , 日本精神科看護協会, 精神科看護初心者研修会, 東京研修会場, 東京, 2015 年 11 月 08 日
42. 田上美千佳：メンタリング体験 [スーパーバイザー・講評] , 東京医科歯科大学医学部付属病院看護部, メンター研修プログラム, 東京医科歯科大学附属病院, 東京, 2015 年 11 月 09 日
43. 松浦佳代：知識は偏見をなくす [講演] , 新宿家族会「フレンズ」, 新宿フレンズ講演会, 新宿区立障害者福祉センター, 2015 年 11 月 10 日
44. 高濱圭子, 松浦佳代, 富川明子：実習指導者 実践事例検討会 [演習] , 日本精神科看護協会, 東京, 2015 年 11 月 21 日 - 2015 年 11 月 23 日
45. 美濃由紀子：実習指導者 実践事例事例検討会 [講義・演習] , 日本精神科看護協会, 2015 年 11 月 21 日 - 2015 年 11 月 23 日
46. 田上美千佳：日本精神科救急学会編集委員.
47. 田上美千佳：日本精神保健看護学会査読委員.
48. 田上美千佳：社会福祉法人かがやき会評議員.
49. 田上美千佳：東京都精神医療審査会委員.
50. 田上美千佳：日本病院・地域精神医学会編集委員.
51. 田上美千佳：日本病院・地域精神医学会評議員.
52. 田上美千佳：お茶の水看護学雑誌査読委員.
53. 田上美千佳：日本社会精神医学会評議委員.
54. 田上美千佳：日本精神科救急学会編集委員.
55. 田上美千佳：東京医科歯科大学附属病院臨床連携教員.
56. 美濃由紀子：日本 IPR 研究会 運営委員
57. 美濃由紀子：お茶の水看護学誌 査読委員
58. 美濃由紀子：お茶の水医学雑誌 査読委員
59. 美濃由紀子：社会福祉法人けやき 評議員
60. 美濃由紀子：東京医科歯科大学医学部付属病院 看護部臨床連携教員
61. 美濃由紀子：日本看護科学会誌 査読委員
62. 美濃由紀子：日本精神保健看護学会 査読委員
63. 田上美千佳：一般社団法人日本精神保健看護学会第 26 回学術集会長代行.

小児・家族発達看護学

Child and Family Nursing

教授	廣瀬	たい子
助教	岡光	基子
大学院生	幸本	敬子
大学院生	永吉	美智枝
大学院生	来生	奈巳子
大学院生	野村	智実
大学院生	岡林	優喜子
大学院生	竹尾	奈保子
大学院生	弓気田	美香
大学院生	矢郷	哲志

(1) 分野概要

小児看護学を専門とする教育分野として発足したが、平成 13 年における大学院の部局化とともに分野名が小児・家族発達看護学となった。平成 20 年度からは、大学院博士前期課程に乳幼児精神保健に関する知識とスキルを持つ小児専門看護師（CNS）養成カリキュラムを運用し、小児看護の高度専門家の養成と、その領域における実践・研究に力を入れている。研究においては、乳幼児とその家族、特に母親に対する早期介入研究を主要なテーマとして取り組んでいる。また、研究成果を看護実践に活用し、育児支援外来（大川子ども＆内科クリニック、と東京医科歯科大学医学部附属病院小児科外来・病棟・NICU）を運営している。こうした成果を看護職の教育・訓練活動にも発展させている。NCAST 講習会は、日本語版 NCAST の完成後から JNCAST 講習会として継続している。看護職者のみでなく、医師・心理士・教師・大学教員・大学院生等、延べ 230 人の受講者を受け入れてきている。平成 24 年度からは、看護職者の育児支援スキルを向上させるための European Early Promotion Project (EEPP) や、Family Partnership Model に基づく講習会を開催し、その成果を測定する研究活動も行っている。

(2) 研究活動

- 1) NCAST 研究会活動を継続し、NCAST 日本語版の完成とともに、JNCAST 講習会を開催し、研究尺度としての JNCAST 普及活動を行った。
- 2) 廣瀬・岡光は、共同研究者とともに、NCAST を中心とした乳幼児-母親相互作用、乳幼児精神保健関連の調査・介入研究を行った。
- 3) 廣瀬・岡光は、文部科学省研究費補助金（代表研究者 廣瀬たい子）を受け、乳幼児精神保健に基づく育児支援介入研究の 2 つに取り組んでいる。
- 4) 岡光・廣瀬は、文部科学省研究費補助金（代表研究者 岡光基子）を受け、妊娠期からのファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援に関する研究に取り組んでいる。

(3) 教育活動

- 1) 学部教育
小児看護学Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、看護の統合と実践、卒業研究を担当した。4 年次の卒業研究では、6 名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口頭発表をするまでを

指導した。

2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論 A 1・A2・B、演習 A 1・A2・B、共通科目である家族看護学特論、精神保健看護学特論 A2を担当している。

また、乳幼児精神保健・看護に専門性を発揮できる小児専門看護師（CNS）を養成する大学院カリキュラムを実施しているが、本年度は CNS コースを選択する者がいなかった。

(4) 臨床活動および学外活動

育児支援外来（大川子ども&内科クリニック、と東京医科歯科大学医学部附属病院小児科外来・病棟・NICU）を運営している。

(5) 研究業績

[原著]

1. 鈴木香代子, 岡光基子, 廣瀬たい子, 大久保功子. フィンランドにおける子どもの虐待予防のための育児支援一看護職による活動を中心にー 小児保健研究. 2015.05; 74(3); 447-452
2. Satoshi Yago, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu. Interparental Agreement on Ratings of Infants' Social-Emotional and Behavioral Problems and Competencies Jacobs Journal of Pediatrics. 2015.12; 1(2); 1-7
3. Keiko Komoto, Taiko Hirose, Takahide Omori, Naoko Takeo, Motoko Okamitsu, Noriko Okubo and Hiroji Okawa. Effect of Early Intervention to Promote Mother - Infant Interaction and Maternal Sensitivity in Japan: A Parenting Support Program based on Infant Mental Health Journal of Medical and Dental Sciences. 2015.12; 62(4); 77-90
4. Satoshi Yago, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Takahide Omori, Motoko Okamitsu. Gender, age, and cultural differences in the Japanese version of the Infant-Toddler Social and Emotional Assessment. Journal of Medical and Dental Sciences. 2015.12; 62(4); 91-101
5. Michie Nagayoshi, Taiko Hirose, Takahide Omori, Kyoko Toju, Shigenobu Suzuki, Motoko Okamitsu, Aki Kawamura, Naoko Takeo. A Prospective Study of Factors Related to Mother-Infant Interaction in One-year-old Infants with Retinoblastoma. Journal of Medical and Dental Sciences. 2015.12; 62(4); 103-113

[総説]

1. 廣瀬たい子. 乳幼児看護学ははじめの一步 (第1回) 乳幼児看護学とは 小児看護. 2015.06; 38(6); 762-764
2. 廣瀬たい子. 乳幼児看護学ははじめの一步 (第3回) 乳幼児の精神と関係性の発達 小児看護. 2015.08; 38(9); 1209-1213
3. 岡光基子. 乳幼児看護学ははじめの一步 (第4回) 乳幼児の愛着 小児看護. 2015.09; 38(10); 1345-1347
4. 廣瀬たい子. 乳幼児看護学ははじめの一步 (第5回) 乳幼児精神保健 ①定義と関係性の発達 小児看護. 2015.10; 38(11); 1469-1472
5. 廣瀬たい子. 乳幼児看護学ははじめの一步 (第6回) 乳幼児精神保健 そのリスク要因と介入 小児看護. 2015.11; 38(12); 1600-1604

[講演・口頭発表等]

1. Satoshi Yago, Toru Ishida, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Noriko Okubo. Parental agreement on and discrepancies in ratings of infants' social-emotional and behavioral problems and competencies. The 8th Congress of the Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions 2015.08.19 Kuala Lumpur, Malaysia
2. 弓気田美香, 廣瀬たい子. 食物アレルギーの子どもが食物除去が母親の育児ストレスに与える影響. 第25回日本乳幼児医学・心理学会大会 2015.11.07 東洋英和女学院・六本木キャンパス

3. Motoko Okamitsu. Cultural aspect of parenting and current dangers in Japan, Parenting Symposium universal cultural & familial aspects. The 4th International Association for the Study of Attachment (IASA) International Conference 2015.11.10 Miami, Florida
4. Keiko Komoto, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu. Effects of the Japanese Early Promotion Program Based on the analysis of the CARE-Index.. 4th The International Association for the Study of Attachment (IASA) International Conference 2015.11.10 Miami, Florida
5. 永吉美智枝, 岡光基子, 大森貴秀, 東樹京子, 鈴木茂伸, 河村秋, 竹尾奈保子. 両眼性網膜芽細胞腫をもつ1歳児と母親の母子相互作用とその関連要因. 第13回日本小児がん看護学会学術集会 2015.11.28 山梨
6. 永吉美智枝, 東樹京子, 鈴木茂伸, 岡光基子, 大森貴秀, 河村秋, 竹尾奈保子. 網膜芽細胞腫の治療を受ける乳幼児を養育する母親の育児ストレス. 第13回日本小児がん看護学会学術集会 2015.11.28 山梨
7. Keiko Komoto, Catherine Jane Martin, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Naoko Takeo, Taeko Teramoto. Early separation to promote relationship of severe postpartum depression mother and feeding disorder baby. Zero to Three 30th National Training Institute (NTI) 2015.12.02 Seattle, Washington
8. Yukiko Okabayashi, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Satomi Nomura. Intervention in high-risk mother and infant in Japan. Zero to Three 30th National Training Institute (NTI) 2015.12.02 Seattle, Washington
9. Satoshi Yago, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Motoko Okamitsu, Michie Nagayoshi, Takahide Omori. Regional differences in social-emotional and behavioral problems and competencies in one- to three-year-olds. Zero to Three 30th National Training Institute (NTI) 2015.12.02 Seattle, Washington

[社会貢献活動]

1. 廣瀬たい子：北海道医療大学大学院非常勤講師, 北海道医療大学大学院, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
2. 廣瀬たい子：静岡県立大学大学院非常勤講師, 静岡県立大学大学院, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
3. 廣瀬たい子：乳幼児保健学会 理事長, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
4. 廣瀬たい子：日本乳幼児医学・心理学会 理事、編集委員, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
5. 廣瀬たい子：お茶の水看護学研究会 理事、お茶の水看護学雑誌 査読委員, 東京医科歯科大学, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
6. 廣瀬たい子：日本周産期精神保健研究会 理事, 日本周産期精神保健研究会, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
7. 廣瀬たい子：日本看護科学学会 査読委員, 日本看護科学学会, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
8. 廣瀬たい子：Nursing and Health Sciences 編集委員, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
9. 廣瀬たい子：東京医科歯科大学医学部附属病院小児科外来／病棟育児相談「すくすく」、および大川こども＆内科クリニック育児支援外来「すくすく」責任者, 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科小児・家族発達看護学分野, 大川こども＆内科クリニック、東京医科歯科大学医学部附属病院小児科外来／病棟, 2014年04月01日 - 2016年03月31日
10. 岡光基子：乳幼児保健学会主催講習会「今さら聞けない研究法を学ぶ」主催補助, 2015年03月07日 - 2015年03月08日
11. 廣瀬たい子：乳幼児保健学会主催講習会「今さら聞けない研究法を学ぶ」主催, 乳幼児保健学会, 2015年03月07日 - 2015年03月08日
12. 岡光基子：第1回世界乳幼児精神保健学会日本支部主催セミナー, 運営委員, 2015年03月21日
13. 岡光基子：お茶の水看護学雑誌 査読委員, 東京医科歯科大学, 2015年04月01日 - 2016年03月31日
14. 岡光基子：乳幼児保健学会 理事, 2015年04月01日 - 現在
15. 岡光基子：World Association for Infant Mental Health（世界乳幼児精神保健学会）日本支部 事務補佐, 2015年04月01日 - 現在

16. 廣瀬たい子：JNCAST 講習会主催 , 2015 年 08 月 04 日 - 2015 年 08 月 10 日
17. 岡光基子：JNCAST 講習会講師, 東京医科歯科大学, 2015 年 08 月 06 日
18. 岡光基子：ファミリーパートナーシップ Promotional Guide 講習会講師, 立川市健康推進課, 2015 年 09 月 03 日
19. 廣瀬たい子：ファミリーパートナーシップ Promotional Guide 講習会講師, 立川市健康推進課, 2015 年 09 月 03 日
20. 岡光基子：乳幼児保健学会主催講習会 Patricia M. Crittenden 博士講師 「アタッチメントと精神病理」主催補助, 2015.9.20-22, 乳幼児保健学会, 2015 年 09 月 20 日 - 2015 年 09 月 22 日
21. 廣瀬たい子：乳幼児保健学会主催講習会 Patricia M. Crittenden 博士講師 「アタッチメントと精神病理」主催, 乳幼児保健学会, 2015 年 09 月 20 日 - 2015 年 09 月 22 日
22. 岡光基子：第 9 回乳幼児保健学会総会・講演会 事務局長, 企画委員, 乳幼児保健学会, 2015 年 09 月 26 日
23. 廣瀬たい子：第 9 回乳幼児保健学会総会・講演会 企画委員, 乳幼児保健学会, 2015 年 09 月 26 日

リプロダクティブヘルス看護学

Reproductive Health Nursing

大久保功子
三隅順子

(1) 分野概要

この領域では、主に性と生殖に関する健康と権利にかかわる看護や助産についての研究教育を行っています。周産期ならびに、女性の生涯にわたる看護あるいは助産に関して研究する者に必要な能力を高めるために、EBM や NBM の視点をおりまぜながら、歴史的背景や哲学的立場を踏まえた研究法まで、深く掘り下げた研究クリティックを行っています。一方、国際ラクテーションコンサルタント等の専門家を招き、高度な実践能力を身につけることもめざしています。

学部教育では、看護師国家試験受験資格に必須とされている、母性看護学の講義、演習、実習を担当しています。

(2) 研究活動

現象学、GT、エスノグラフィー、疫学、演繹的帰納的アプローチ、ナラティブ研究法など、研究課題に則した様々な研究方法を適切に用いた研究に取り組むべく、日夜努力しています。単なる手順として研究法を理解するのではなく、その歴史的背景や哲学から理解することを目指しています。女性と性的マイノリティの人のための看護実践、助産学、看護学、人間科学における知を開発するための研究にも取り組んでいます。かといって、量的研究を行わないわけではなく、疫学的手法や共分散構造分析を用いた尺度開発も行っています。代替医療、精神分析、カウンセリング理論、アタッチメント理論、絆理論、看護理論、助産理論についても学び続けています。大久保は主に親子の精神的健康、三隅は DV に関心を持って研究と実践に取り組んでいます。

現在、毎週火曜日 15 時 00 分からマンホール、その後ガダマー「真理と方法」の抄読会を開いています。参加を希望される方は、大久保までご一報ください。

(3) 教育活動

大学院では博士課程に現在 9 名（博士課程に 4 名、5 年一貫課程に 5 名）の学生が在籍しています。

(4) 教育方針

自分の心で感じ、頭で考え、書くことができる、これからの研究者を育てることをモットーとしています。

(5) 研究業績

[原著]

1. 鈴木香代子, 岡光基子, 廣瀬たい子, 大久保功子. フィンランドにおける子どもの虐待予防のための育児支援—看護職による活動を中心に— 小児保健研究. 2015.03; 74(3); 447-452
2. 梶垂希子, 齋藤良一, 三隅順子, 大久保功子. 家庭用冷蔵庫保存における冷蔵母乳の安全性の研究—細菌数の経日的変化を指標に— 小児保健研究. 2015.11; 74(6); 871-877

3. Keiko KOMOTO, Taiko HIROSE, Takahide OMORI, Naoko TAKEO, Motoko Okamitsu, Noriko OKUBO, Hiroji OKAWA. Effect of early intervention to promote mother-infant interaction and maternal sensitivity based on infant mental health Journal of Medical and Dental Sciences. 2015.12; 62(4); 77-89

[書籍等出版物]

1. 三隅順子. 看護学テキスト NiCE 家族看護学. 南江堂, 2015.12 (ISBN : 978-4-524-25708-9)

[講演・口頭発表等]

1. Noriko Okubo, Junko Misumi, Saori Katsumata, Yumiko Suzuki, Miyuki Sano, Akiko Tate, Fumi Odagaki, Natsuko Hiroyama. Narrative review of collaboration factors between midwives and obstetricians. The ICM Asia Pacific Region Conference 2015.07.22 YOKOHAMA
2. Noriko Okubo, Motoko Okamitsu, Kumi Mikuni, Taiko Hirose, Yukiko Okabayashi, Michie Nagayoshi, Aki Kawamura, Miho Kusanagi, Yumi Sawada, Sakae Saito, Yasuko Saito. Program evaluation: NCAST vs EEPP. The 6th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference 2015.08.20 SOUEL
3. Satoshi Yago, Toru Ishida, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Noriko Okubo. Parental agreement on and discrepancies in ratings of infants' social-emotional and behavioural problems and competencies. The 8th congress of the asian society for child and adolescent psychiatry and allied professions 2015.08.21
4. 大久保功子、三国久美、澤田優美、草薙美穂、齋藤早香枝、岡光基子、廣瀬たい子、岡林優紀子、永吉美智枝、河村秋、齋藤泰子. 乳幼児精神保健を基盤としたトレーニングプログラムの評価：NCAST と EEPP. 乳幼児保健学会, 第9回学術集会 2015.09.26
5. 廣山奈津子、大久保功子、Eija Paavilainen、廣瀬たい子. 児童虐待に関わる保健師のバーンアウトと自己効力感. 乳幼児保健学会, 第9回学術集会 2015.09.26

[その他業績]

1. SANE 養成, 2015 年
性暴力被害者支援看護職の研修プログラムの企画運営実施
(2007 年度より)
2. 性暴力被害者支援看護師 (SANE) の立場から「日本での性暴力被害への取り組みと女性としての役割」, 2015 年 08 月
第 35 回日本思春期学会 ワークショップⅢ 性暴力被害者に対するケアシステムを考える パネリスト
3. エセナ 5 新宿「身近な人が暴力にあったら～私たちにできること」, 2015 年 09 月
身近な人が暴力にあったら・・・私たちにできること 公開連続 5 回講座 2013 年実施
(エセナ 5 シリーズ: 2008 太田, 2009 文京, 2010 世田谷, 2012 港, 2013 中野, 2014 太田), 単発 (2011, 2012)
4. 助産師と産科医の双方向性協働尺度の開発と協働促進要因の探索
大久保功子 (研究代表者): 科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究) 26670917. 2014-2015.
5. 冷蔵した母乳の食品としての安全性について
大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究) 2667094. 2014-2015 年
6. 出産後の夫婦の相互作用を促す予期的看護支援プログラムの構築
大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 24593376. 2013-2014 年.
7. 小児外来でのファミリーパートナーシップモデルに基づく多職種による育児支援の有効性
大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (基盤研究 B) 26293488. 2014-2018 年.
8. 児童・思春期精神科病棟における看護師のための家族支援ガイドラインの開発
大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 2015 ～ 2019 年
9. 妊娠期からのファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援の有効性
大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 研究課題番号: 15K11695. 2015 ～ 2018 年

10. 出産後の夫婦の相互作用を促す予期的看護支援プログラムの構築
大久保功子 (研究分担者)：科学研究費補助金 (基盤研究 C)24593376.2015 ～ 2019 年

[社会貢献活動]

1. SANE 研修 講義&ワーク：性暴力被害女性への看護の実際, 女性の安全と健康のための支援教育センター, SANE 研修, 2004 年 04 月 01 日 - 現在
2. 御茶ノ水看護学雑誌編集委員長, 御茶ノ水看護学研究会, 2010 年 10 月 01 日 - 現在
3. 子どもの健康と環境に関する全国調査倫理問題検討委員, 国立環境研究所, エコチル調査, 2011 年 04 月 01 日 - 現在
4. SAFER 研修 ミニレクチャー&ワーク, NPO 法人 レジリエンス, 2012 年 12 月 12 日 - 現在
5. 質的心理学会誌編集委員, 日本質的心理学会, 2013 年 04 月 01 日 - 現在
6. 今さら聞けない研究法を学ぶ, 乳幼児保健学会, 東京医科歯科大学, 2015 年 03 月 06 日
7. エセナ5 新宿「身近な人が性暴力にあったら～私たちにできること」, エセナ 5, 身近な人が性暴力にあったら～私たちにできること 連続講座, 2015 年 09 月 27 日 - 2016 年 02 月 06 日

在宅ケア看護学

Home Care Nursing

教授 本田彰子
講師 内堀真弓

院生 竹生礼子
石原由香
小濱京子
栗田敦子
柿沼直美

(1) 分野概要

地域包括ケアの時代に向けて、急性期・慢性期、および終末期において保健医療福祉が連携協働して地域で暮らす人々の健康の維持増進、疾患や障害を持って生活する人々への支援について、看護実践力を身に着ける教育と、関連する看護方法の開発、研究を行う。大学院教育では、特に終末期にある人々とその家族が、自宅で安心安楽な療養ができ、QOLを維持するための介入方法を探索、開発している。

(2) 研究活動

在宅看護学における実践的な問題解決または改善の方策についての研究に取り組んでいる。

1. 在宅ケアにおける自立支援からターミナルケアまでの健康状態や障害レベルに合わせた実践的研究
2. 在宅ケアにおけるアウトカム評価・ケアの提供方法・ケアマネジメント・ケアシステム・運営管理方法・継続ケア
3. 健康問題や生活問題を持つ人々の家族を単位としたケア技術の理論構築と実践への応用
4. 訪問看護を取り巻く介護医療に関わる制度およびサービス提供体制
5. 訪問看護師への支援体制作り
6. 神経難病患者・がん終末期患者等医療依存度の高い療養者の訪問看護
7. 在宅ケアに関わる保健福祉医療等他職種の連携
8. 訪問看護における高齢者ケア、ターミナルケア
9. 病院から在宅への移行期における緩和ケア
10. がん患者家族への在宅での療養支援
11. 地域住民のネットワーク形成
12. 在宅療養者への栄養サポート
13. 慢性疾患患者のセルフケア支援
14. 慢性疾患患者の継続看護

(3) 教育活動

学部教育においては、2年生を対象とした講義では、在宅ケアにおける制度、および地域社会における保健福祉医療の資源等についての基礎的内容について教育している。

3年生を対象とした講義・演習・実習では、施設医療からの移行期から在宅ターミナルに至るまでの訪問看護に関する仕組み、看護技術、他職種連携等の理論と実践、さらに介護保険・医療保険等、諸制度のもとでの療養支援に関する制度利用の仕組み、サービス提供体制、ケアマネジメントについて学びを深めている。演習では具体的

な訪問看護技術、および看護の展開を学ぶ機会としている。臨地実習においては、訪問看護ステーションの実習のみならず、地域包括支援センターにおけるケアマネジメント、予防介護に関する活動の実際、および病院の退院調整部門における退院支援の実際について体験を通して理解を深めている。

卒業研究では、学生の関心を尊重し学生と相談してテーマを決め、適切な研究フィールドを提供することによって、実践的な在宅ケア看護研究ができるように指導している。

大学院教育においては、訪問看護、退院調整支援、地域における他職種との連携、在宅ターミナルケア等の研究課題に対する講義演習を行い、これらの学習と臨床経験を基に、高齢社会における在宅看護の課題に注目し、それぞれ実践的な研究に取り組む支援をしている。在宅看護に対する期待が高まる現在の社会情勢を鑑み、実践の場で活動ができ、かつ、今後指導的立場で教育・実践・研究に関わる人材の育成を目指している。

(4) 教育方針

在宅看護は対象の年代、疾患を特定せず、広く対象のニーズに対応できる看護を提供するものである。よって、他の領域の講義演習、および実習での学習を踏まえて、それを統合する形で対象者にケアを提供することが求められる。また、生活の場を重視した援助は、医療職のみならず、介護福祉職や一般の住民と連携をとることが求められる。社会の一員としての立場をとりつつ、ケア提供ができることも求められる。このような在宅看護の特徴を伝えていくことを大切にしたい。

(5) 臨床活動および学外活動

訪問看護の職能団体である日本訪問看護財団の活動には、「調査研究活動」「人材育成研修活動」「研究支援（研究倫理審査委員会）活動」等に加わっている。また、訪問看護師の実践における学習支援プログラムの開発の研究は、現任教育の課題に取り組むものであり、実習受け入れ訪問看護ステーションとの関係強化につながると考えられる。

(6) 臨床上的特色

臨床活動のほとんどが、附属病院以外の場となっており、医学部附属病院を中心とした臨床看護に貢献することが少ない。しかし、在院日数が短くなっている現在、退院調整や外来看護も在宅看護に含まれると考えられ、地域での教育研究活動・実践活動を外来看護や退院支援につなげることで、双方にとっての発展が期待できる。

(7) 研究業績

[原著]

1. 栗田敦子、川上千春、遠藤貴子、本田彰子. 高齢がん患者が終末期を生きる様相—療養生活の思いと支え—お茶の水看護学雑誌. 2015.01; 9(1); 64-72
2. 和田 美保, 本田 彰子. がん患者の遺族の悲嘆プロセス—看取りにおける後悔に焦点をあてて— 日本がん看護学会誌. 2015.01; 29(増補); 180
3. 炭谷 靖子, 本田 彰子, 正野 逸子, 菊池 和子, 上野 まり, 荒木 晴美 他. 介護支援専門員専門研修Ⅱでの受講者の気づき 4 側面のアセスメントシートと関連図を活用して 日本看護福祉学会全国学術大会抄録集 28 回. 2015.06; 103
4. 本田 彰子, 菊池 和子, 正野 逸子, 炭谷 靖子, 荒木 晴美, 王 麗華 他. 管理者が捉えた在宅看護学実習受け入れによる訪問看護師への教育的影響 日本看護福祉学会全国学術大会抄録集 28 回. 2015.06; 71
5. 内堀 真弓, 川村 佐和子, 本田 彰子, 牛久保 美津子. 人工呼吸療法を要する Duchenne 型筋ジストロフィー療養者を介護する家族のケア提供内容と量について 2015.07; 20(1); 73
6. 本田 彰子. 難病看護の過去・現在・未来 生への寄り添いを難病看護の専門性へつなぐ 2015.07; 20(1); 1
7. 本田 彰子. よりよい"在宅看護"実習につながる取り組み 在宅看護教育研究会「在宅看護教育研究会」の取り組みと在宅看護・訪問看護の"学び" コミュニティケア. 2015.11; 17(13); 106-109

8. 本田 彰子. 難病看護の過去・現在・未来 生への寄り添いを難病看護の専門性につなぐ 日本難病看護学会誌. 2015.12; 20(2); 100-101

[書籍等出版物]

1. 正野逸子, 本田彰子. 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術. 2015.01 (ISBN : 978-4-8392-1588-0)

[講演・口頭発表等]

1. 和田 美保, 本田 彰子. がん患者の遺族の悲嘆プロセス—看取りにおける後悔に焦点をあてて. 日本がん看護学会第 29 回学術集会 2015.02.28 横浜
2. 本田彰子, 山崎智子. 変化する医療・福祉政策と在宅ケア—「今を続ける」を支えるケア—. 国際リハビリテーション看護研究会 第 26 回公開研修会 2015.05.16 東京
3. 荒木 晴美, 炭谷 靖子, 本田 彰子, 正野 逸子, 菊池 和子, 上野 まり 他. 介護支援専門員専門研修Ⅱでの受講者の気づき 4 側面のアセスメントシートと関連図を活用して. 第 28 回日本看護福祉学会全国学術大会 2015.07.05 福岡 北九州
4. 本田 彰子, 菊池 和子, 正野 逸子, 炭谷 靖子, 荒木 晴美, 上野まり 他. 管理者が捉えた在宅看護学実習受け入れによる訪問看護師への教育的影響. 第 28 回日本看護福祉学会全国学術大会 2015.07.05 福岡 北九州
5. 内堀 真弓, 川村 佐和子, 本田 彰子, 牛久保 美津子. 人工呼吸療法を要する Duchenne 型筋ジストロフィー療養者を介護する家族のケア提供内容と量について. 日本難病看護学会第 20 回学術集会 2015.07.25 東京 大田区
6. 山本 則子, 永田 智子, 成瀬 昂, 西垣 昌和, 鈴木 美穂, 田中 真琴, 佐藤 美穂子, 長江 弘子, 本田 彰子, 福井 小紀子, 山田 雅子, 深堀 浩樹, 松浦 志野, 上野 桂子. 在宅終末期ケア教育に関する全国看護系大学実態調査シラバスからの検討. 第 33 回日本看護科学学会学術集会 大阪府 大阪市

[その他業績]

1. 認知症対応型共同生活介護で暮らす要医療者の看取り支援に関する調査研究事業, 2015 年 03 月
平成 26 年度老人保健健康増進等事業 (老人保健事業推進等補助金) を公益財団法人日本訪問看護財団が実施。
検討委員会委員長を務め、調査研究の企画実施、および調査成果の公表のため「認知症高齢者がグループホームで最期まで暮らすシンポジウム」を 2015 年 3 月 14 日に開催した。
2. 日本難病看護学会第 20 回学術集会, 2015 年 07 月
日本難病看護学会第 20 回学術集会を大田区産業プラザ Pio で 7 月 24 日・25 日に開催した。20 回の記念の学術集会として、これまでの学会に大きく貢献された方々を表彰する催しも併せて実施した。

がんエンドオブライフケア看護学

End-of-Life Care and Oncology Nursing

准教授 山崎 智子

(1) 分野概要

本分野では、がん患者を中心に、終末期に至るまでの診断・治療初期の時期、外来治療継続の時期、人生の終末の時期にある患者や家族の意思決定、症状緩和や苦悩についての体験、さらには残された遺族の体験や困難を明らかにし、看護師支援の必要性や支援のあり方を追求するとともに、研究成果の還元によるがんエンドオブライフケア看護学の構築を目指している。

(2) 研究活動

治癒が見込めない進行がん患者と家族がより良く生きるための意思決定や患者のレジリエンスを引き出す支援に関する研究に取り組んでいる。また死別を経験した遺族のグリーフケアに関する研究や、さらにその患者や家族をケアする看護師のグリーフワークを支援するプログラムの開発に関する研究も行っている。またがん患者に限らず、痴呆高齢者が生活するグループホームで最期を迎えるための、看取り支援に関する研究も行っている。

(3) 教育活動

学部教育においては、4年生の緩和ケア看護学の講義において、在宅ホスピスを中心に、終末期にある人々と家族の特徴を理解し、QOLの向上を目指した看護について、自宅での症状コントロールや療養の体制作り、看取りおよびその後の家族に対する看護の理解を目指している。

大学院教育では、がん看護の専門性の追求と発展の教育研究に加え、高度実践者としてのがん専門看護師(CNS)教育を行っている。5年一貫博士課程の利点をいかして、5年間の中で自身の追求したい研究テーマに合わせて、柔軟に実習を組み込みながら研究を進めることができるようにしている。

(4) 研究業績

[書籍等出版物]

1. 佐藤 禮子 (監修), 浅野 美知恵 (編集), 山崎智子他. 絵で見るターミナルケア. 学研メディカル秀潤社, 2015.07 (ISBN : 978-4780912005)

[講演・口頭発表等]

1. 山崎 智子. 高度医療の中でのがん患者の療養：がんをもって日常生活を続ける. 国際リハビリテーション看護研究会 第26回公開研修会 2015.05.16 東京 四ッ谷
2. 山辺智子, 湯本品代, 本田彰子, 上野まり, 山崎智子, 佐藤美穂子. 認知症対応型共同生活介護における看取り支援の実践 [第1報]. 第20回日本在宅ケア学会学術集会 2015.07.19 東京 一ツ橋

- 湯本晶代、山辺智子、本田彰子、上野まり、山崎智子、佐藤美穂子. 認知症対応型共同生活介護における看取り支援の実際 [第 2 報] 意思決定支援に焦点をあてて. 第 20 回日本在宅ケア学会学術集会 2015.07.19 東京 一ツ橋

[その他業績]

- 認知症高齢者が認知症対応型共同生活介護で最期まで暮らすために～ご本人・家族・専門職・ご近所の力～, 2015 年 03 月
認知症高齢者が認知症対応型共同生活介護で最期まで暮らすために、ご本人・家族・専門職・ご近所の力を「どうやって集結していくべきかについてシンポジウムを行い、皆でディスカッションを行い、その方向性について意義ある示唆を見いだした。
- 認知症対応型共同生活介護で暮らす要医療者の看取り支援に関する調査研究事業報告書, 2015 年 03 月
平成 26 年度 老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進等補助金）により、認知症対応型共同生活介護で暮らす要医療者の看取り支援に関する調査研究を行い、今後取り組むべき課題について明らかになった。
- 第 20 回日本難看護学会学術集会事務局長, 2015 年 08 月
日本難病看護学会の発足 20 年の記念大会としての学術集会の企画、運営を行った。

国際看護開発学

International Nursing Development

教授 近藤 暁子
特任助教 大山 裕美子
非常勤講師

Ann L. Eckhardt
非常勤講師

CHIANG Chung LimVico
非常勤講師

山崎 久美子
非常勤講師
近藤 麻理
非常勤講師

Mabel C. Ezeonwu
非常勤講師

中村 安秀
非常勤講師
錢 淑君
特任講師 前田 留美

(1) 分野概要

国際看護開発学分野は、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成する目的で開設された分野である。主として大学院教育の中で、国際的視点の育成と看護国際人に必要なアカデミックマナーの習得及び国際的研究を支援している。大学院講義・ゼミはすべて英語で実施し、英語運用能力の維持・向上に努めている。

(2) 研究活動

主に成人～高齢者の健康問題を中心に、国際的視点から新たな看護方法の開発を目指している。諸外国との国際比較を通して、わが国の実情と文化・社会ニーズに即したシステムを探究している。近年の研究テーマは、急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムとの関連についての日米比較であり、イリノイウェスレヤン大学および昭和大学の教員と共同研究を行っている。欧米では患者のコントロール感が高いほど患者の回復が良いという研究結果が多く示されている。日本にはお任せ医療という文化があると言われていたが、実際コントロール感について日米の患者と違いがあるのか、コントロール感が患者のアウトカムに影響しているのか検証する予定である。また、大学院生は在日外国人に対する医療問題について探究予定である。

(3) 教育活動

1) 学部教育

学部4年生を対象として、「国際保健看護学」および「看護の統合と実践実習」を担当している。国際保健看護学では、単に諸外国の医療と看護の現状を理解するに留まらず、各国・地域の歴史・社会システムの変遷と関連か

ら、人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養うことを重視している。遠隔講義システムを利用し香港理工大学 Vico Chiang 講師による講義を英語で実施している。今後米国の教員の講義も取り入れる予定である。

さらに学部2、3年生を対象とした「実践看護英語」を選択科目として開講している。ネイティブスピーカーによる講義・演習では、TOEFL 対策、医療関連の専門用語、定型表現などの基礎的能力の習得に留まらず、海外の医療施設や研究所等における海外研修を想定した会話表現、プレゼンテーション技術など、総合的な専門英語の習得を目指した授業構成とした。2年生11名および3年生5名が選択し、最終的に「看護国際人としての自分：将来展望と課題」をテーマにすべての学生が英語でプレゼンテーションおよびディスカッションを行った。英語によるコミュニケーションを通じて、異文化およびグローバル社会への興味関心を喚起すると共に、看護職としての自己学習課題の発見、第二、第三言語習得に向けた生涯学習の動機付けにつながるよう指導を行った。

また「卒業研究」では1名の学生が「大学で国際看護学を担当している教員のキャリア形成」というテーマでemailを使用して大学教員を対象として調査を実施し、海外での活動が教育にどのように生かされているか分析した。

2) 大学院教育

共通科目では「看護研究方法論」および「国際看護研究方法論」を担当している。「看護研究方法論」は主に国際比較研究の方法について講義している。「看護研究方法論」を受講した学生は、シアトルのワシントン大学およびシアトル大学での研修に参加し、ワシントン大学の教員と共同研究を計画している。「国際看護研究方法論」は、英語によるプレゼンの練習、研究計画書の作成方法を講義と学生のプレゼンによるディスカッション形式で行っている。

(4) 教育方針

人間開発学 Human Development Studies の視点に立ち、グローバル化する社会の中で日本人看護職としての役割を発揮できる人材の育成を目標としている。また、アカデミックな場における英語によるプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力の強化に取り組んでいる。研究領域としては、諸外国の成人期から老年期の健康問題の看護およびヘルスケアシステムの改善についての研究を中心として行っている。又、国際的視野を持ちつつ、専門性の高い看護を提供ために、医学・心理学・教育学・公衆衛生学・感性科学等の専門職と協働する能力、および、臨床還元型研究を推進する能力を重視している。

(5) 研究業績

[原著]

1. 近藤暁子, 小泉麻美. 中高年看護師の職業的キャリア成熟度の特徴と関連する要因 看護研究. 2015; 48(3); 276-284
2. Hiromi Okada, MSN, RN Mitsue Maru, DSN, RN Rumi Maeda, MSN, RN Fuminori Iwasaki, MD Masayuki Nagasawa, MD, PhD Miyako Takahashi, MD, PhD. Impact of Childhood Cancer on Maternal Employment in Japan Cancer Nursing. 2015.01; 38(1); 23-30
3. Masayo Kashiwagi, Yumiko Oyama. Predictors of the Intention to Resign Among Home-Visiting Nurses in Japan: A Prefecture-Wide Cross-Sectional Survey Home Health Care Management & Practice. 2015.01;
4. 大山 裕美子, 前田 留美, 丸 光恵. 日本語版 Self-Directed Learning Readiness Scale for Nursing Education の翻訳と 表面妥当性の検証 日本看護科学会誌. 2015.02; 35; 38-42
5. Oyama Yumiko, Maeda Rumi, Mitsue Maru. Translation and Face Validity of the Japanese Version of the Self-Directed Learning Readiness Scale for Nursing Education. Journal of Japan Academy of Nursing Science Journal of Japan Academy of Nursing Science. 2015.05; 35; 38-42
6. Yumiko Oyama, Hiroki Fukahori. A literature review of factors related to hospital nurses' health-related quality of life. J Nurs Manag. 2015.07; 23(5); 661-673

[書籍等出版物]

1. 前田 留美, 奈良間美保, 丸 光恵ほか. 系統看護学講座 専門22 小児看護学1 小児看護学概論 第12版. 医学書院, 2015.01 (ISBN : 4260020021)

2. 前田留美, 奈良間美保, 丸 光恵 編. 系統看護学講座 専門 23 小児看護学 2 小児臨床看護各論, 第 12 版. 医学書院, 2015.01 (ISBN : 4260019902)

[総説]

1. 大山 裕美子. 看護の価値を主張するためには (Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ (1)) 看護研究. 2015.01; 48(1); 88-90
2. 前田 留美, 深堀 浩樹, 丸 光恵. NINR とは何か? その歴史と看護研究における役割 看護研究. 2015.02; 48(1); 23-31
3. 大山裕美子, 前田留美, 丸光恵, 井上智子. スタッフの「臨床判断能力」をはぐくむ効果的な学習支援-「臨床教育者」の役割から考える『臨床看護教育の専門家を育成する取り組み: 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護キャリアパスウェイ教育研究センター』 看護管理. 2015.06; 25(6); 482-486
4. 大山 裕美子, 前田 留美, 丸 光恵, 井上 智子. 【新人看護職員研修努力義務化から 5 年 今こそ育てる「臨床看護教育」のスペシャリスト】 臨床看護教育の専門家を育成する取り組み 東京医科歯科大学大学院看護キャリアパスウェイ教育研究センター 看護管理. 2015.06; 25(6); 482-486
5. 前田 留美. 2013 年 SIOP(International Society of Pediatric Oncology) 参加報告 小児がん看護. 9(1);

[講演・口頭発表等]

1. 前田 留美, 大山 裕美子, 丸 光恵, 井上 智子. 短大・専門学校卒看護師の大学院入学および修学時における英語・看護研究の課題. 第 25 回日本看護学教育学会学術集会 2015.08 徳島
2. 大山裕美子、前田留美、丸光恵、井上智子. 看護系大学院生の自己決定型学習準備性に関連する要因. 日本看護学教育学会第 25 回学術集会 2015.08.19 徳島市
3. 前田留美、大山裕美子、丸光恵、井上智子. 短大・専門学校卒看護師の大学院進学および進学後の学修支援内容の検討. 日本看護学教育学会第 25 回学術集会 2015.08.19 徳島市
4. Akiko Kondo, Naoko Horii, Miki Miwa, Harue Adachi. The factors related to increase in the self-efficacy after clinical practicums for adult nursing for chronic illness. ENDA & WANS 2015.10.15 Hannover, Germany
5. 前田 留美. がん化学療法を受ける子どもと家族に対するスキンケア・セルフケア研究の動向と課題. 第 13 回日本小児がん看護学会学術集会 2015.11.28 甲府市
6. 須永 唯, 篠原 美代, 須賀 瑛子, 陳 菜穂, 前田 留美, 原田 裕美. 終末期の家族関係を支えた看護—子どもの病状を否認していた父に着目して—. 第 13 回日本小児がん看護学会学術集会 2015.11.28 甲府市
7. 前田 留美. 小児がん救急看護の現状と課題についての文献検討. 第 13 回日本小児がん看護学会学術集会 2015.11.29 山梨県甲府市

[Works]

1. 小児看護入門シリーズ DVD 教材 日本語版監修 (共著) 第 1 巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第 2 巻 学童/思春期、青年期, 教材, 2010 年 04 月 - 現在

[社会貢献活動]

1. 看護キャリアパスウェイ教育研究センター 第 2 回シンポジウム 「看護×教育×シミュレーション 教育場面におけるファシリテーションとファシリテーターの育成」, 東京医科歯科大学 M&D タワー 鈴木章夫記念講堂, 2015 年 02 月 27 日

看護システムマネジメント学

Nursing System Management

准教授：深堀 浩樹

助教：廣山 奈津子（10月1日より）

博士後期課程：水澤 久恵、山口 さおり、廣岡 佳代

小玉 淑巨、菅野 真奈、エップス美佳、折見 隆広

佐藤 浩子、井尻 弓子、山本 亜矢

博士前期課程：保科 ゆい子

5年一貫制博士課程：山縣 千尋、那須 佳津美

奥村 朱美、森 陽子

事務補佐員：日置 章子、佐藤 裕子（6月16日より）

（1）分野概要

看護学の研究者・教育者・実践者が、看護学および関連領域の知見を活用して行う質の高い研究の成果を、社会構造や医療の提供体制および看護が果たしうる役割の変化を踏まえながら、国内外の学術コミュニティ・臨床現場に発信していくことを目指して研究・教育に取り組んでいます。

（2）研究活動

大学院教育では、所属する大学院生が自律して主体的に研究を行う能力と学際・国際間のコミュニケーションを図る能力を身につけて、将来的に自らの研究成果を、研究者・教育者・実践者として国内外の学術コミュニティ・臨床現場に発信することができるようになることを目指して研究指導を行っています。そのため、個々の院生が、特定のテーマや方法論に縛られることなく、教員の支援を受け教員と協働しながら、自ら研究テーマを定め、そのテーマにふさわしい方法論や研究フィールドを見出して研究を進めていくことを重視しています。

（3）教育方針

社会および医療の中での看護の位置づけを理解した上で、効果的な看護や医療の提供体制や質の保証に関する研究・実践についての知識を身につけ、専門職である看護職として研究・実践に取り組む能力を育成することを目指して教育に取り組んでいる。

1) 学部教育

1. 学部1年生を対象として「看護の統合と実践Ⅰ」を、学部4年生を対象として、「看護の統合と実践Ⅱ」, 「看護の統合と実践実習Ⅰ・Ⅱ」を担当した。いずれの科目においても、社会における看護の立ち位置を意識しながら専門職として主体的に学習する能力の育成を重視した。
2. 卒業論文では3名の学生を担当した。学生の関心に応じて自由にテーマを設定しつつ、研究の一連のプロセスを経験できるように留意した。

2) 大学院教育

1. 博士前期課程学生を対象として「看護管理学特論」, 「看護政策学特論」, 「看護学研究法特論(一部)」, 「看護システムマネジメント学特論 A・B」, 「看護システムマネジメント学演習」を、博士後期課程学生を対象として「看護システムマネジメント学特論」を担当した。
2. 所属大学院生が、自律して主体的に研究を行う能力と卓越したコミュニケーション能力によって必要に応じて

学際・国際間の連携を取りつつ、国内外の研究成果を読み解くと同時に、自らの研究成果を国内外に発信することによって、ヘルスケアの質の向上に寄与することができる看護学の研究者・教育者・看護管理者となることができるように、研究環境を整え、教員・大学院生が協働する形で研究に取り組んでいる。そのため、大学院生が特定のテーマや方法論に縛られず、各自が研究者・教育者・看護管理者としてテーマを明確に定め、そのテーマにふさわしい方法論や研究フィールドで研究を実施することを重視している。

(4) 研究業績

[原著]

1. 深堀浩樹, 宮下光令, 大山裕美子, 跡上富美, 岡谷恵子, 柏木聖代, 河野あゆみ, 高見沢恵美子, 奈良間美保, 吉沢豊予子. 若手看護学研究者の研究活動の阻害要因と日本看護科学学会に求める支援の関連要因 日本看護科学会誌. 2015; 35; 203-214
2. Yumiko Oyama, Hiroki Fukahori, Mitsunori Miyashita, Miho Narama, Ayumi Kono, Fumi Atogami, Masayo Kashiwagi, Keiko Okaya, Emiko Takamizawa, Toyoko Yoshizawa. Cross-sectional online survey of research productivity in young Japanese nursing faculty. Jpn J Nurs Sci. 2015.07; 12(3); 198-207
3. Yumiko Oyama, Hiroki Fukahori. A literature review of factors related to hospital nurses' health-related quality of life. J Nurs Manag. 2015.07; 23(5); 661-673
4. Oyama Yumiko, Yonekura Yuki, Fukahori Hiroki. Nurse health-related quality of life: associations with patient and ward characteristics in Japanese general acute care wards. J Nurs Manag. 2015.09; 23(6); 775-783
5. Shima Sakai, Noriko Yamamoto-Mitani, Yukari Takai, Hiroki Fukahori, Yasuko Ogata. Developing an instrument to self-evaluate the Discharge Planning of Ward Nurses Nursing Open. 2015.09;

[総説]

1. 佐藤夏美, 菅野真奈, 深堀浩樹. 病院スタッフが認識している他職種連携・協働の現状と課題に関する国内文献レビュー 看護管理. 2015; 25(6); 504-509
2. 前田 留美, 深堀 浩樹, 丸 光恵. NINR とは何か? その歴史と看護研究における役割 看護研究. 2015.02; 48(1); 23-31
3. 井尻 弓子. オランダの研究から日本の看護師の専門的実践能力開発のあり方を考える 看護研究. 2015.06; 48(3); 292-295
4. 小玉淑巨. 看護学生への災害時の看護管理教育を考える 看護研究. 2015.08; 48(5); 508-511
5. 那須佳津美. 米国の看護研究チームの活動を知る 項目反応理論モデルを用いた二次分析 看護研究. 2015.08; 48(5); 512-514
6. 奥村 朱美. Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ・5 理論的根拠のある情報・知識を効果的に広めていくための教育プログラムとは 看護研究. 2015.10; 48(6); 624-626

[講演・口頭発表等]

1. 深堀浩樹, 小玉淑巨, 川本裕子, 須永昌代, 山口久美子, 木下淳博. 看護師が遭遇する多重課題に関する e-ラーニング教材の多職種連携教育における活用. 第9回全国医療系 e-ラーニング交流会 2015.01.24 栃木
2. Hiroki Fukahori, Noriko Yamamoto-Mitani, Ayumi Igarashi, Rick Kwan, Claudia Lai. Hits and Misses in Developing Academic Collaborations: Experiences from Hong Kong SAR and Japan. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars 2015.02 Taipei
3. Yoshimi K. The relationship between nurse managers and staff nurses as the basis for leading change in their wards. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars 2015.02 Taipei
4. 安田 由美, 廣岡 佳代, 深堀 浩樹, 小澤 美和. がんの親と死別した子どもの死別前後の状況と外傷後成長に関する調査. 第29回日本がん看護学会学術集会 2015.02.28

5. 山崎彩香, 藤波景子, 緒方泰子, 霜越多麻美, 森陽子. 看護スタッフが必要としている支援と, 看護管理者が提供している支援の比較. 第5回日本看護評価学会学術集会 2015.03 東京医科歯科大学 (東京都文京区)
6. 矢津剛, 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 田口敦子, 横川詩織, 深堀浩樹, 菅野雄介, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発 (第3報). 第20回日本緩和医療学会学術大会 2015.06 横浜
7. 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 横川詩織, 田口敦子, 深堀浩樹, 菅野雄介, 矢津剛, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発 (第2報). 第20回日本緩和医療学会学術大会 2015.06 横浜
8. 田口敦子, 菅野雄介, 横川詩織, 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 矢津剛, 深堀浩樹, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発 (第1報). 第20回日本緩和医療学会学術大会 2015.06 横浜
9. 入田真美, 井尻弓子, 小玉淑巨, 深堀浩樹. 訪問看護師の社会保障制度に関する教育ニーズに関するインタビュー調査. 第20回日本在宅ケア学会学術集会 2015.07 東京
10. 小玉淑巨, 深堀浩樹, 佐藤可奈. 看護師長が病棟変革のために看護師長が副看護師長に求めるフォローアップ. 第19回日本看護管理学会学術集会 2015.08 郡山
11. 小野 和代, 片山 悦子, 鬼澤 かおる, 深堀 浩樹, 小玉 淑巨, 美濃 由紀子, 高木 由里. 「看護職 IKASHIKA キャリアパスの開発」事業に対する看護職員の評価. 第19回日本看護管理学会学術集会 2015.08 郡山
12. 緒方泰子, 勝山貴美子, 田中幸子, 永野みどり, 菅田勝也, 佐藤可奈, 小玉淑巨. 看護師長の心理的エンパワメントと関連する要素〜マグネット病院特性を反映した尺度項目を活用して〜. 第19回日本看護管理学会学術集会 2015.08.28 ビッグパレットふくしま (福島県郡山市)
13. 坂口幸弘, 廣岡佳代. 精神疾患患者が自殺した場合の遺族のリスクアセスメント BRAT 日本語訳版を用いて. 第39回日本死の臨床研究会年次大会 2015.10.11
14. Akemi Okumura, Hiroki Fukahori, Sachiko Yoshioka. Development of an end-of-life care knowledge scale for gerontological nurses in Japan: a preliminary analysis. GSA 2015 Annual Scientific Meeting 2015.11 Orlando, Florida
15. 緒方泰子, 勝山貴美子, 田中幸子, 永野みどり, 菅田勝也, 佐藤可奈, 小玉淑巨, 安川文朗, 橋本廸生. マグネット病院特性を反映した看護実践環境と看護職の退職行動. 第53回日本医療・病院管理学会学術総会 2015.11.06 アクロス福岡 (福岡)

高齢社会看護ケア開発学

Gerontological Nursing and Care System Development

教授 緒方 泰子 (オガタ ヤスコ)
助教 霜越多麻美 (シモコシ タマミ) H27.3 退職
助教 森 陽子 (モリ ヨウコ) H27.3 転出
助教 上野 治香 (ウエノ ハルカ)
助教 湯本 淑江 (ユモト ヨシエ)

大学院生 博士過程 (5年一貫制)
石井 典子 (イシイ ノリコ)
佐々木美樹 (ササキ ミキ)
長井 聡子 (ナガイ サトコ)

大学院生 博士 (前期)
梅田 香織 (ウメダ カオリ) H27.3 修了

大学院生 博士 (後期)
鳥本 靖子 (トリモト ヤスコ) H27.3 修了
杉本 健太郎 (スギモト ケンタロウ)
岩崎 孝子 (イワサキ タカコ)
坂井 志麻 (サカイ シマ)
高 紋子 (コウ アヤコ)
森口 志野 (モリグチ シノ)

技術補佐員 藤波 景子 (フジナミ ケイコ)
事務補佐員 森 美恵 (モリ ミエ)
山内 晴子 (ヤマウチ ハルコ) H27.3 退職

(1) 分野概要

高齢社会を迎え、家族を含む高齢者へのより高度で専門的な看護の実践方法（個へのアプローチ）に加え、高齢者への看護・ケアを社会の仕組みにどう位置づけていくか（社会システムへのアプローチ）といったことが求められています。後者には、対象者のニーズに応えていくためのケアマネジメントや看護管理、ケアシステムの開発が含まれます。高齢社会看護ケア開発学では、高齢社会を生きる人々を支える看護・ケアに関して、微視的・巨視的視点を駆使し、新しい学問及び専門領域として高齢者への看護学を確立していくため、また、国内外の動向をふまえてリーダーシップを発揮できるような人材養成のために、学際的・国際的な教育研究活動の推進を目指しています。

(2) 研究活動

1. 高齢社会を支える看護・ケアシステムに関する研究
2. 看護ケアの質に関する研究
3. 看護管理学に関する研究
4. 望ましいアウトカムを達成しうる健康的な職場環境に関する研究 など

(3) 教育活動

学部学生への教育では、高齢者の心身・社会経済的な変化や老年期に発症しやすい健康・機能障害等の観点から老年期にある対象の理解、アセスメント技術、高齢者へのリハビリテーションの概念や理論を学ぶ機会を提供しています。また、施設実習を通じて理論と実践を統合し看護援助を創造していく知識・技術の基盤づくりを行っています。さらに、学生個々の研究疑問にもとづく卒業論文作成を通じて、既存の方法にとらわれず、新たな方法論の開発につながるような、専門性の高いあるいは学際的な観点からの研究機会を提供しています。

大学院では、研究方法を理解し実践できるよう、高齢者への看護・ケアや研究方法に関する英文書籍の輪読、研究法の演習を行い、関連分野の基礎知識と最新知識を研究に反映できるよう国内外の研究論文の抄読を行っています。各学生の研究テーマに応じた教育・支援により、高齢社会看護ケア開発学といった領域において、国内外の研究を牽引していけるような研究者養成を目指しています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Yasuko Torimoto-Sasai, Ayumi Igarashi, Takashi Wada, Yasuko Ogata, Noriko Yamamoto-Mitani. Female family caregivers face a higher risk of hypertension and lowered estimated glomerular filtration rates: a cross-sectional, comparative study. BMC Public Health. 2015; 15; 177
2. Ayumi Igarashi, Takeshi Kurinobu, Ayako Ko, Yuko Okamoto, Shino Matsuura, Mei Feng, Noriko Yamamoto-Mitani. Factors related to the provision of home-based end-of-life care among home-care nursing, home help, and care management agencies in Japan. BMC Res Notes. 2015; 8; 434
3. Shima Sakai, Noriko Yamamoto-Mitani, Yukari Takai, Hiroki Fukahori and Yasuko Ogata. Developing an instrument to self-evaluate the Discharge Planning of Ward Nurses Nursing Open. 2015.09;
4. 坂井志麻、大堀洋子、田中優子、佐藤由紀子、渡辺亜美、藤井淳子. 大学病院における退院支援研修の取り組みと効果 がんと化学療法. 2015.12; 42(supl I); 72-74

[書籍等出版物]

1. 宇都宮宏子監修, 坂井志麻編集. 退院支援ガイドブック「これまでの暮らし」「そしてこれから」をみすえてかかわる. 学研メディカル秀潤社, 2015.07

[総説]

1. 田中幸子, 後藤彩花, 緒方泰子, 湯本淑江, 霜越多麻美, 勝山貴美子, 永野みどり. 病院で働く看護職者が就業継続のために求める職場環境 日本看護評価学会誌. 2015; 5(1); 11-18
2. 三谷佳子, 永野みどり, 緒方泰子, 岡本有子, 五十嵐歩. 介護老人福祉施設における褥瘡対策に関する職員教育の実態とその関連要因 厚生 の指標. 2015; 62(5); 20-26
3. 坂井志麻. 政策につながる看護研究の動向と今後の展望 - 退院支援の研究を例に - 看護研究. 2015.02; 48(1); 32-42
4. Leslie Breitner, (訳) 緒方泰子, 湯本淑江. よりよいヘルスケアの実現に向けて道筋をリードする IMHL を通じて世界へ 看護研究. 2015.12; 48(7); 720-726
5. 坂井志麻. 退院支援・調整力を高める教育プログラム運用と評価～離島における取り組みより～ 看護人材育成. 2015.12; 12(5); 12-18

[講演・口頭発表等]

1. Yasuko Torimoto-Sasai, Ayumi Igarashi, Takashi Wada, Yasuko Ogata, Noriko Yamamoto-Mitani. Changes in the physical health condition of family caregivers caring for the elderly at home. The 18th East Asian Forum of Nursing Scholars 2015.02 Taipei, Taiwan
2. 山崎彩香, 藤波景子, 緒方泰子, 霜越多麻美, 森陽子. 看護スタッフが必要としている支援と、看護管理者が提供している支援の比較. 第5回日本看護評価学会学術集会 2015.03 東京医科歯科大学 (東京都文京区)

3. 緒方泰子, 勝山貴美子, 永野みどり, 田中幸子, 菅田勝也. 看護職の Healthy Work Environment とは? フォロワーシップとリーダーシップよりー. 第 5 回日本看護評価学会学術集会 2015.03.14 東京医科歯科大学 (東京都文京区)
4. 上野治香, 石川ひろの, 鈴木亮, 泉田欣彦, 大橋優美子, 山内敏正, 門脇孝, 木内貴弘. 2 型糖尿病患者のヘルスリテラシーが自己管理行動に及ぼす影響. 第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会 2015.05.21 山口県 宇部市
5. 永野みどり, 緒方泰子, 池田正臣, 安藤慎子, 俣田悦子, 塚田邦夫, 徳永恵子. 直腸癌によるストーマ保有者の皮膚障害発生時期と装具変更時期. 第 24 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 2015.05.30 幕張メッセ (千葉県)
6. 吉田恭子, 霜越多麻美, 森陽子, 藤波景子, 緒方泰子. 嚥下障害のある高齢者への食事介助における、看護職・介護職のアセスメントの視点と協働. 日本老年看護学会第 20 回学術集会 2015.06 パシフィコ横浜 (神奈川県)
7. 柳沢朋子, 坂井志麻, 森陽子, 霜越多麻美, 藤波景子, 緒方泰子. 病棟看護師・管理者が退院支援に対して感じる困難と研修ニーズ. 日本老年看護学会第 20 回学術集会 2015.06 パシフィコ横浜 (神奈川県)
8. 梅田香織, 緒方泰子, 霜越多麻美, 鳥本靖子. 整形外科病棟におけるせん妄患者への身体拘束に関連する要因. 日本老年看護学会第 20 回学術集会 2015.06 パシフィコ横浜 (神奈川県)
9. 坂井志麻, 大堀洋子, 田中優子, 佐藤由紀子, 渡辺亜美, 藤井淳子. 特定機能病院における退院支援スキルアップ研修の取り組みと効果. 第 26 回日本在宅医療学会学術集会 2015.07 一橋大学講堂
10. 坂井志麻, 水野敏子. 急性期病院における病棟看護師の退院支援実践自己評価尺度と経験年数の関係. 第 20 回日本在宅ケア学会学術集会 2015.07 池袋ホテルメトロポリタン
11. 杉田由加里, 石丸美奈, 井出成美, 松下光子, 石川麻衣, 緒方泰子. 保健師の業務研究への継続的取り組みを推進する保健所の体制. 日本地域看護学会第 18 回学術集会 2015.08.02 パシフィコ横浜 (神奈川県)
12. Yukari Sugita, Mina Ishimaru, Narumi Ide, Mitsuko Matsushita, Mai Ishikawa, Yasuko Ogata. Conditions that promote public health nurses' continuous practice research in health centers. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research 2015.08.21 Seoul (Korea)
13. 緒方泰子, 勝山貴美子, 田中幸子, 永野みどり, 菅田勝也, 佐藤可奈, 小玉淑巨. 看護師長の心理的エンパワメントと関連する要素～マグネット病院特性を反映した尺度項目を活用して～. 第 19 回日本看護管理学会学術集会 2015.08.28 ビッグパレットふくしま (福島県郡山市)
14. 永野みどり, 緒方泰子. 在院日数と外来ケアニーズとの関連～直腸癌に伴うストーマ保有者のストーマ外来利用状況から～. 第 19 回日本看護管理学会学術集会 2015.08.28 ビッグパレットふくしま (福島県郡山市)
15. 杉本 健太郎, 緒方 泰子, 柏木 聖代. 高齢者施設内での看取りを可能にする要因に関する文献レビュー. 第 74 回日本公衆衛生学会 2015.11 長崎
16. 緒方泰子. Healthy Work Environment の実現にむけて: マグネットホスピタル研究からの考察. 京都橘大学 看護国際フォーラム 2015 看護師における魅力的な職場と“人によりそう看護”の実践～マグネット・ホスピタルの看護管理から考える～ 2015.11.01 国立京都国際会館
17. 緒方泰子, 勝山貴美子, 田中幸子, 永野みどり, 菅田勝也, 佐藤可奈, 小玉淑巨, 安川文朗, 橋本廸生. マグネット病院特性を反映した看護実践環境と看護職の退職行動. 第 53 回日本医療・病院管理学会学術総会 2015.11.06 アクロス福岡 (福岡)
18. 坂井志麻. 病棟看護師への退院支援教育プログラム介入の効果. 第 35 回日本看護科学学会学術集会 2015.12 広島国際会議場

[社会貢献活動]

1. 日本看護評価学会誌 編集委員 (霜越), 2013 年 04 月 01 日 - 2015 年 03 月 31 日
2. 第 4 回日本看護評価学会学術集会 運営委員 (霜越), 2015 年 03 月
3. 日本医療・病院管理学会評議員、幹事 (緒方)
4. 日本看護評価学会編集委員会委員長 (緒方)

5. 公立大学法人首都大学東京健康福祉学部看護学科非常勤講師（緒方）
6. 全国社会福祉協議会全国社会福祉施設経営者協議会初級リスクマネジャー養成講座講師（緒方）
7. 江東区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進会議副委員長（緒方）
8. 中野区区民公益活動推進協議会委員（緒方）
9. 日本医療・病院管理学会編集委員会委員，教育委員会委員（緒方）
10. 東京慈恵会医科大学非常勤講師（緒方）
11. 日本医療機能評価機構サーベイヤー（緒方）
12. 東京都在宅医療推進会議退院支援検討部会委員（坂井）
13. 東京都転院支援情報システム検討会議委員（坂井）
14. 東京都退院支援強化事業アドバイザー（坂井）
15. 東京都在宅療養支援員育成事業研修企画委員（坂井）
16. 公益財団法人 日本看護科学学会 若手研究推進委員会 委員（鳥本）
17. 日本看護評価学会学術集会 実行委員（湯本）

共同災害看護学専攻

Cooperative Doctoral Course in Disaster Nursing

教授	佐々木 吉子
准教授	三浦 英恵
特任助教	今津 陽子
大学院生 (博士 5 年一貫制)	小川 裕美子
	鈴木 陽子
	田中 加苗
	菅原 千賀子
	宮前 繁

(1) 分野概要

共同災害看護学専攻は、本学および高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の 5 大学で共同運営する 5 年一貫制博士課程である。構成大学が蓄積してきた災害看護の経験や資源を活かして、災害看護の深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与すること、また、災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決するために、学際的・国際的指導力を発揮できる「災害看護グローバルリーダー」を養成することを目標としている。本学共同災害看護学専攻では、主に大規模災害発生時の防災・減災に向けた備えと発災急性期における看護の役割に着目して、学内はもとより地域住民、行政、医師会、企業等と連携した大災害への備えをテーマに研究活動を展開している。

(2) 研究活動

「共同災害看護学専攻」では、首都圏直下型大地震やテロによる特殊災害に備えた防災・減災に着目し、発災に向けた平時からの備えと、発災急性期の災害支援活動における看護の役割の確立を目指し、研究に取り組んでいる。

現在、当研究室では、研究の一環として以下のような活動をしている。

- ①過去の大地震や特殊災害についての事例分析
- ②大災害時の防災・減災に向けた国内外の取り組み状況の把握（海外文献の抄読、国内・国際学会、海外での災害研修への参加）
- ③大災害発生時の自助・共助強化のための産官学連携に向けた情報収集や関係作り
- ④大学が属する 2 次医療圏内の災害拠点病院の取り組みについての情報収集（関連会議への参加、災害訓練参加など）
- ⑤大学が属する 2 次医療圏内の小規模医療施設における防災・減災の取り組み状況についての基礎調査
- ⑥災害時の医療系大学の学生ボランティアの活用とサポートに関するシステム構築に向けた基礎調査（他専攻との共同研究）
- ⑦大災害被災者へのメンタルケアに関する情報収集やスキルの学習
- ⑧特殊災害において医療者に必要な基礎知識・スキルの学習（緊急被ばく医療者現職者研修への参加など）

現在は基盤形成のための情報収集や基礎研究が中心であるが、今後、上記研究を発展させるとともに、院生が関心のある領域での研究に取り組めるようフィールド開拓するなど、関連機関との連携を図りながら研究室一丸となって取り組んでいる。

(3) 教育活動

「共同災害看護学専攻」は共同教育課程であり、学生はそれぞれの大学で開講される教科を相互履修し、各大学が強みとしている領域についての学習を深めている。

本学当専攻は、災害関連科目として「災害看護活動論Ⅰ」および「災害看護活動論演習Ⅰ」を担当している。災害看護活動論では、主に災害医療についての概論、災害急性期における看護実践や多職種との連携について学び、看護リーダーの役割について考察する。災害看護活動論演習Ⅰでは、国内外の災害医療・看護に関する文献講読とディスカッション、救護活動や遺族ケアなどのシミュレーション、災害専門施設の視察等を通して、実践力の向上や後方支援を含む看護リーダー能力の育成を図っている。

(4) 教育方針

将来、世界で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、学際的・国際的指導力を発揮するグローバルリーダーとして、高度な実践能力を有した災害看護実践者並びに災害看護教育・研究者を養成することを目標としている。

授業は、LMS (Learnig Management System) による事前課題の提示や提出、講義資料の配信によって事前事後学習の効率化をはかり、また、TV 会議システムを使用しての遠隔講義、高性能シミュレーターや SimView を使用した遠隔シミュレーション演習など、IT の活用により複数の拠点から受講できるように工夫している。

研究指導については、5 大学の教員による複数指導大切を敷いており、学生は自身の研究テーマに応じて、対面および遠隔システムを利用して充実した指導を受けることができるようになっている。

(5) 臨床活動および学外活動

様々な災害へ対応できる能力を養うため、先駆的に被ばく医療の教育・研究に携わっている弘前大学等との大学間の交流や、他の博士課程リーディングプログラムの大学等との交流をはかり、また近隣自治体の防災担当部門との意見交換、国会見学などのインターンシップ、東京駅近郊の自主防災組織の活動や災害訓練などに積極的に参加している。また国際学会・国内学会に積極的に参加し、学会発表や、他国の研究者・学生との英語による交流会も積極的に企画・参加しグローバルな視点を養うための工夫を詰めている。

(6) 研究業績

[原著]

1. 高畑和恵, 佐々木吉子, 井上智子. 看護学士課程教育における臨地実習指導での大学教員と実習指導者との協働に関する研究 日本看護学教育学会誌. 2015.11; 25(2); 1-14

[総説]

1. Kanae TANAKA, Yumiko OGAWA, Yoko SUZUKI. The need to clarify the multiple roles played by nurses in the face of challenges posed by terrorist attacks Health Emergency and Disaster Nursing. 2015; 2(1); 28-29
2. 佐々木吉子. なぜ? どうして? こんなときどうしよう? をエビデンスつきで解決! 救急看護おたすけ Q&A995) 救急患者・家族の初期対応③クレーム対応 Emergency Care. 2015.01; (新春増刊); 138-143

[講演・口頭発表等]

1. Yumiko Yatomi, Tomoko Inoue, Yoshiko Sasaki, Yuko Kawamoto. Characteristics of the content of the work of critical care nurses based on a time-motion study: Through comparison with neurology nurses. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars 2015.02.06 Taipei, Taiwan
2. Yumiko Ogawa, Yoshiko Sasaki, Hanae Miura, Yoko Imazu. Preparedness for chemical, biological, radiological, nuclear, and explosive disasters in Japan: A literature review. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars 2015.02.06 Taipei, Taiwan
3. 今津陽子, 井上智子. 3 年間の看護記録のテキストマイニング分析による口腔がん手術患者の食機能回復に向けた看護支援の実態. 第 29 回日本がん看護学会学術集会 2015.02.28 神奈川県横浜市

4. 神原咲子, 三浦英恵, 小澤若菜, 山本あい子, 南裕子. フィリピンにおける台風ヨランダの事例から国際災害支援における看護ネットワークの可能性を探る. 日本災害看護学会第 17 回年次大会 2015.08.08 宮城県仙台市
5. 佐々木吉子, 三浦英恵, 今津陽子, 小川裕美子, 鈴木陽子, 田中加苗. 医療系大学学部学生の災害時医療ボランティア活動に対する意向と課題. 日本災害看護学会第 17 回年次大会 2015.08.08 宮城県仙台市
6. 小川裕美子, 佐々木吉子, 三浦英恵, 今津陽子. 化学災害に関する国内の医療機関における備えの現状 —文献検討より— . 日本災害看護学会第 17 回年次大会 2015.08.08 宮城県仙台市
7. 南裕子, 山本あい子, 三浦英恵, 神原咲子, 小澤若菜. 国際交流委員会企画：仙台防災枠組み 2015-2030 と看護の貢献を考える. 日本災害看護学会第 17 回年次大会 2015.08.09 宮城県仙台市
8. 隅田さやか, 松尾香織, 田中加苗, 西川愛海, 鈴木陽子, 小川裕美子, 諸澤美穂. 過去の災害から学び、備え、未来へつなげる Let's share your activities . 日本災害看護学会第 17 回年次大会 2015.08.09 宮城県仙台市
9. 山内万裕美、小林千紘、野島真美、Dwinantaoji Hastoro、有坂めぐみ、稲垣真梨奈、関口貴恵、中島真紀、菅原千賀子、宮前繁. 東日本大震災における支援は、その場・その人に役立つものだったのか？ . 日本災害看護学会第 17 回年次大会 2015.08.09 宮城県仙台市
10. 山内英樹, 宇都宮明美, 遠藤美代子, 多留ちえみ, 三浦英恵, 山下亮子, 辻井由紀. 政策・診療報酬委員会報告：慢性心不全患者の急性増悪予防を目的とした看護支援に関する実態調査報告. 第 12 回日本循環器看護学会学術集会 2015.10.17 東京都墨田区
11. 南裕子, 山本あい子, 三浦英恵, 神原咲子, 小澤若菜. 交流集会：仙台防災枠組 2015-2030 と看護の貢献を考える. 第 35 回日本看護科学学会学術集会 2015.12.05 広島県広島市

[受賞]

1. 平成 26 年度日本がん看護学会学術奨励賞（今津 陽子）, 一般社団法人日本がん看護学会, 2015 年 02 月

[その他業績]

1. 平成 26-28 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 C（研究代表者：三浦英恵）, 2015 年「胸部大動脈瘤手術患者の回復促進看護支援プログラムの開発と有効性の検証」
2. 平成 26-28 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究 NBC 災害発災急性期から中長期における実践的看護支援ドリルの開発（研究代表者：佐々木吉子）, 2015 年急性期から慢性期、在宅、行政などの様々な領域で看護サービスを提供している実践者に対し、国内での N B C（nuclear-biological-chemical）災害発災時の個人ならびに集団の被災者への看護支援の実践能力を向上させるための教材「N B C 災害発災急性期から中長期における実践的看護支援ドリル」の開発に取り組んでいる。
3. 国際セミナー企画・運営, 平成 25 年度 DNGL 国際セミナー「災害支援者へのケアを考える」（廣瀬たい子, 佐々木明子, 佐々木吉子, 三浦英恵, 津田紫緒, 今津陽子）, 2015 年 02 月災害現場においては極度のストレスを経験することから、支援者もストレスマネジメントが重要となっている。現場の第一線で活躍のフィンランドの警察官、アメリカの精神看護ナースプラクティショナーを招き、国際的な視座から災害支援者へのケアについてのセミナーを企画・運営した。
4. 第 3 回国連防災世界会議パブリックフォーラム：「災害看護学教育—世界の動向」企画・運営（三浦英恵；災害看護グローバルリーダー養成プログラム国際プロジェクト）, 2015 年 03 月看護は災害時に人々の安全保障の為に、第一線で重要な役割を担っている。災害看護学教育に何を求めるか、国際的視点で保健医療組織や災害看護学を推進する大学等の立場から期待することを発表頂き、参加者と討議した（2015 年 3 月 17 日（火）：仙台市情報・産業プラザ（AER 内）多目的ホール 5 階）
5. 第 3 回国連防災世界会議パブリックフォーラム：Message to the next Generation—Lessons Learned from Nurses on Disaster around the world（災害支援を行った世界の看護師からの学び—次世代へのメッセージ）企画・運営（三浦英恵；World Society of Disaster Nursing）, 2015 年 03 月人々の生活と健康に関与している世界の看護界から災害看護の今後の課題を発信するために、本シンポジウムでは災害看護に関わったものが組織や国境を超えて経験知や実践に基づいた教訓を基に、今後に向けた災害看護の課題について実践、教育、研究者とともに議論した（2015 年 3 月 15 日（日）仙台市情報・産業プラザ（AER 内）セミナールーム（2）6 階）

6. 聖路加国際大学災害看護ゼミナール講師（田中加苗），2015 年 05 月
聖路加国際大学 4 年生及び学士編入生対象の看護ゼミナール（災害看護）において、「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」と題して、本プログラムの概要、大学院生の立場での体験と学びについて 90 分間 1 コマの話題提供を行った。
7. 博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2015「学生フォーラム」（宮前繁、小川裕美子、鈴木陽子、田中加苗、菅原千賀子），2015 年 10 月
学生フォーラムにおける 5 課題テーマ（1. リーダーシップ教育、2. 異分野横断や交流、3. グローバル化や国際化、4. 産業界や公的機関などとの連携、5. 実社会課題に基づくプロジェクトワーク）の内、5. 実社会課題に基づくプロジェクトワークについて、災害看護グローバルリーダー養成プログラムにおける活動と成果、課題を発表し議論した（2015 年 10 月 24 日ベルサール新宿グランド 1 階イベントホール・5 階コンファレンスセンター）
8. Psychological First Aid セミナー（佐々木吉子、三浦英恵），2015 年 12 月
災害時医療に関心のある、医療者、非医療者、学生を対象として、PFA セミナー認定インストラクター 3 名を講師に招いてセミナーを実施した。

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院研究支援（佐々木吉子），2005 年 10 月 - 現在
2. 日本救急看護学会 編集委員長、評議員（佐々木吉子），2007 年 10 月 - 現在
3. 慶應義塾大学看護医療学部非常勤講師（佐々木吉子），2008 年 04 月 - 現在
4. 公益社団法人日本看護協会 災害支援ナース（佐々木吉子），日本看護協会, 2010 年 - 現在
5. 日本クリティカルケア看護学会 理事、専任査読者（佐々木吉子），2010 年 06 月 - 現在
6. 公益社団法人神奈川県看護協会 災害救護対策委員会委員（佐々木吉子），神奈川県看護協会, 2012 年 06 月 16 日 - 2015 年 05 月 31 日
7. 博士課程教育リーディングプログラム 災害看護グローバルリーダー養成プログラム プログラム担当者（佐々木吉子），2013 年 - 現在
8. 日本循環器看護学会 政策・診療報酬委員会委員、専任査読委員（三浦英恵），2013 年 06 月 - 現在
9. 日本看護科学学会 災害支援事業専門委員会委員（佐々木吉子），2013 年 07 月 15 日 - 2015 年 12 月 05 日
10. 日本赤十字看護学会 専任査読委員（三浦英恵），2013 年 09 月 28 日 - 現在
11. 日本看護協会 認定看護師認定実行委員会 集中ケア委員（三浦英恵），2013 年 11 月 01 日 - 2015 年 10 月 31 日
12. 博士課程教育リーディングプログラム 災害看護グローバルリーダー養成プログラム プログラム担当者（三浦英恵），2014 年 04 月 01 日 - 現在
13. 博士課程教育リーディングプログラム 災害看護グローバルリーダー養成プログラム プログラム参画者（今津陽子），2014 年 04 月 01 日 - 現在
14. 災害看護国際学術雑誌：Health Emergency and Disaster Nursing 編集委員（三浦英恵），2014 年 09 月 - 2015 年 03 月 31 日
15. 日本災害看護学会 国際交流委員会委員（三浦英恵），2014 年 10 月 - 現在
16. 千代田区地域内連携活動：「災害時はもちろん、平時からつながるための連絡会ーちよだモデルネットワーク（CMN）」幹事会（三浦英恵），2015 年 01 月 06 日 - 現在
17. 平成 26 年度千代田区帰宅困難者対応訓練（小川裕美子、鈴木陽子），東京都・千代田区、東京都周辺防災隣組，サンケイビル, 2015 年 03 月 10 日
18. 2015 バヌアツ サイクロン・パム被災者医療支援（鈴木陽子），主催者：認定特定非営利活動法人 災害人道医療支援会（HuMA），バヌアツ共和国, 2015 年 03 月 21 日 - 2015 年 03 月 30 日
19. 日本慢性看護学会 編集委員会委員（三浦英恵），2015 年 04 月 01 日 - 現在

20. 第16回日本赤十字看護学会学術集会実行委員（三浦英恵）、日本赤十字看護大学、2015年06月27日 - 2015年06月28日
21. 平成27年度東京駅周辺防災隣組・千代田区医師会・三菱地所株式会社との医療連携訓練への参加（三浦英恵、鈴木陽子）、2015年09月01日
22. 平成27年度大規模地震時医療活動訓練（小川裕美子、宮前繁）、厚生労働省DMAT事務局、東京都庁、2015年09月01日
23. 文京区災害時専門ボランティア（看護師）登録（三浦英恵）、2015年09月01日 - 現在
24. ネパールメディカルキャンプ支援活動（菅原千賀子）、IsraAID、2015年09月22日 - 2015年10月02日
25. 日本看護科学学会 和文誌編集委員会専任査読委員（佐々木吉子）、2015年10月01日 - 現在
26. 「平成27年度京都府原子力総合防災訓練支援及び評価業務」の評価員（佐々木吉子、三浦英恵）、2015年11月24日 - 2016年02月29日
27. 日本看護系大学協議会（JANPU）：文部科学省大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業「看護系大学学士課程における臨地実習における臨地実習の現状並びに課題に関する調査研究」プロジェクト委員（三浦英恵）、2015年12月01日 - 現在

分子生命情報解析学

Biochemistry and Biophysics

教授： 赤澤 智宏

准教授： 鈴木 喜晴

助教： 馬淵 洋

プロジェクト助教： 須藤 絵里子グレース

大学院生：石井 佳菜、緒方 勇亮、小柳 明日香、木倉 直美、吉田 茉由、林 千香子

(1) 分野概要

本分野は生体検査科学専攻の生命情報解析開発学講座として、基礎医学から検査管理・社会医学系に至る多くの科目を担当している。分野のスタッフは、教授 赤澤の下、准教授 鈴木、助教 馬淵、プロジェクト助教 須藤の4人が一体となって、教育、研究に当たっている。また、赤澤は文部科学省等の行政に関する役職を兼務し、科学、大学という枠組みを超えて社会的役割を果たしている。

(2) 研究活動

神経堤細胞の発生と分化：神経堤細胞の発生分化に関わる遺伝子 Sox10 のプロモーター領域を全て含むマウス BAC クローンに緑色蛍光蛋白を挿入したトランスジェニックマウスを作成し、神経堤細胞の in vivo での挙動をイメージング技術によって解析する。小児先天性疾患である Hirschsprung 病について分子病態解析を行っている。

幹細胞生物学：神経堤幹細胞、間葉系幹細胞について細胞生物学的解析を行っている。

Teneurin-4 の分子機能解析：膜貫通型タンパク質である Teneurin-4 の機能喪失マウスについて本態性振戦のモデル動物として解析している。

(3) 教育活動

学部教育科目については、保健衛生命科学看護学専攻、検査技術学専攻合同の『生化学講義』、検査技術学専攻の『医療概論・関係法規』、『遺伝子・染色体検査学実習』、『選択科目：神経科学』を赤澤が、『遺伝子・染色体検査学講義』、『生化学実習』を鈴木が担当している。

(4) 教育方針

本分野が担当する学部教育においては、基礎医学および臨床医学の様々な知識を関連付けて学べるように配慮している。

生化学は生体の構造と機能を分子レベルで理解させることを目指している。生命現象の本質的な理解につながる生化学の知見を体系的に習得することを目指しており、その上で医療において特に必要な生化学的知識と考え方を教授している。生化学講義は看護学専攻・検査技術学専攻の共通科目として医学の基幹をなすことから、学生の理解度に応じた講義を実施して習熟度を高めている。

遺伝子・染色体検査学講義においては、本質的な生命現象の理解と最新の知識の習得に重点をおいて系統的に講義を行っている。単なる遺伝性疾患の羅列にとどまることなく、ダイナミックなゲノム医学を基礎から高度な医学に至るまで解説する。遺伝子・染色体検査学実習においては、実験系の本質的理解を目指し、学生自身が「なぜ」「どのようにして」という思考過程を、学生同士・教官との討議を通じて体得することを目的としている。

神経科学講義は、単なる流行としての「脳科学」ではなく、生命現象の一分野として形態学・生理学・生化学相

互を統合した、総合人間科学としての神経科学を伝授するように体系的な講義を行っている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Eriko Grace Suto, Yo Mabuchi, Nobuharu Suzuki, Asuka Koyanagi, Yoshiko Kawabata, Yusuke Ogata, Nobutake Ozeki, Yusuke Nakagawa, Takeshi Muneta, Ichiro Sekiya, Chihiro Akazawa. High capacity of purified mesenchymal stem cells for cartilage regeneration. *Inflammation and Regeneration*. 2015.03; 35(2); 78-85
2. Nobutake Ozeki, Takeshi Muneta, Seiya Matsuta, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Mitsuru Mizuno, Kunikazu Tsuji, Yo Mabuchi, Chihiro Akazawa, Eiji Kobayashi, Tomoyuki Saito, Ichiro Sekiya. Synovial mesenchymal stem cells promote meniscus regeneration augmented by an autologous Achilles tendon graft in a rat partial meniscus defect model. *Stem Cells*. 2015.06; 33(6); 1927-1938
3. Yusuke Ogata, Yo Mabuchi, Mayu Yoshida, Eriko Grace Suto, Nobuharu Suzuki, Takeshi Muneta, Ichiro Sekiya, Chihiro Akazawa. Purified Human Synovium Mesenchymal Stem Cells as a Good Resource for Cartilage Regeneration. *PLoS ONE*. 2015.06; 10(6); e0129096
4. Yukiko Ito, Naoko Inoue, Yukiko U Inoue, Shoko Nakamura, Yoshiki Matsuda, Masumi Inagaki, Takahiro Ohkubo, Junko Asami, Youhei W Terakawa, Shinichi Kohsaka, Yu-ichi Goto, Chihiro Akazawa, Takayoshi Inoue, Ken Inoue. Additive dominant effect of a SOX10 mutation underlies a complex phenotype of PCWH. *Neurobiol. Dis.*. 2015.08; 80; 1-14
5. Kana Ishii, Nobuharu Suzuki, Yo Mabuchi, Naoki Ito, Naomi Kikura, So-Ichiro Fukada, Hideyuki Okano, Shin'ichi Takeda, Chihiro Akazawa. Muscle Satellite Cell Protein Teneurin-4 Regulates Differentiation During Muscle Regeneration. *Stem Cells*. 2015.10; 33(10); 3017-3027

[講演・口頭発表等]

1. 緒方勇亮、馬渕洋、吉田茉由、須藤絵里子グレース、鈴木喜晴、宗田大、関矢一郎、赤澤智宏. ヒト膝滑膜における間葉系幹細胞マーカーの解析. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.19 神奈川
2. 須藤絵里子グレース、馬渕洋、川畑佳子、鈴木喜晴、赤澤智宏. ラット間葉系幹細胞の分離および性質評価. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.20 東京
3. 赤澤智宏. 再生医療支援人材育成コンソーシアムについて. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.21 横浜
4. 小柳明日香、馬渕洋、須藤絵里子グレース、鈴木喜晴、赤澤智宏. Sox10-Venus マウスを用いた Sox10 陽性細胞の表面抗原解析. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.21 横浜
5. 須藤絵里子グレース、馬渕洋、鈴木喜晴、川畑佳子、赤澤智宏. ラット間葉系幹細胞の分離および性質評価. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.21 横浜
6. 緒方勇亮、馬渕洋、吉田茉由、須藤絵里子グレース、鈴木喜晴、宗田大、関矢一郎、赤澤智宏. ヒト膝滑膜における間葉系幹細胞マーカーの解析. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.21 横浜
7. 小柳明日香、馬渕洋、須藤絵里子グレース、鈴木喜晴、赤澤智宏. Sox10-Venus マウスを用いた Sox10 陽性細胞の表面抗原解析. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.21 横浜
8. 赤澤智宏. 再生医療支援人材育成コンソーシアムについて. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.21 横浜
9. 須藤絵里子グレース、馬渕洋、鈴木喜晴、川畑佳子、赤澤智宏. ラット間葉系幹細胞の分離および性質評価. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.21 横浜
10. 緒方勇亮、馬渕洋、吉田茉由、須藤絵里子グレース、鈴木喜晴、宗田大、関矢一郎、赤澤智宏. ヒト膝滑膜における間葉系幹細胞マーカーの解析. 第14回日本再生医療学会総会 2015.03.21 横浜
11. 須藤絵里子グレース、馬渕洋、緒方勇亮、小柳明日香、鈴木喜晴、赤澤智宏. ラット間葉系幹細胞の表面抗原スクリーニングと in vitro & in vivo 性状解析. 第36回日本炎症・再生医学会 2015.07.22 神奈川

12. 石井佳菜、鈴木喜晴、水庭千尋、馬渕洋、木倉直美、宗田大、関矢一郎、赤澤智宏. 軟骨・骨格筋組織における新規分子 Teneurin-4 の未分化維持機能解析. 日本整形外科学会基礎学術大会 2015.10.22 富山
13. 緒方勇亮、馬渕洋、吉田茉由、須藤絵里子グレース、鈴木喜晴、宗田大、関矢一郎、赤澤智宏. ヒト膝滑膜間葉系幹細胞の純化と軟骨再生治療への有効性. 第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会 2015.10.22 富山
14. K. Ishii, N. Suzuki, Y. Mabuchi, N. Ito, N. Kikura, S. Fukada, H. Okano, S. Takeda, C. Akazawa. Teneurin-4 is a Regulator of Muscle Stem Cell during Muscle Regeneration. The New York Stem Cell Research Conference 2015.10.28 New York
15. Yusuke Ogata, Yo Mabuchi, Mayu Yoshida, Eriko Grace Suto, Nobuharu Suzuki, Takeshi Muneta, Ichiro Sekiya and Chihiro Akazawa. Prospective isolation and characterization of human synovium mesenchymal stem cells, and comparison with bone marrow. New York Stem Cell Foundation 10th Annual Meeting 2015.10.28 New York

[特許]

1. 筋衛生細胞培養用材料および筋衛生細胞の培養法, 出願番号: 特願 2015-216609

[受賞]

1. 東京医科歯科大学医学研究奨励賞, 東京医科歯科大学, 2015 年 01 月
2. 平成 27 年度学長裁量優秀若手研究者奨励賞, 東京医科歯科大学, 2015 年 09 月

[その他業績]

1. 文部科学省 科学研究費補助金 (若手研究 B) 「新規髄鞘形成分子テニューリン 4 の分子機能メカニズム解明とその応用を目指す研究」研究代表者
2. 文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「間葉系幹細胞の分化スイッチ制御に関わる遺伝子の解析」分担研究者
3. 文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「電気物性を指標とした組織幹細胞の単一解析技術の開発」研究代表者

[社会貢献活動]

1. 国立精神・神経医療研究センター神経研究所客員研究員
2. 米国国立保健衛生研究所 (NIH) Special Volunteer

形態・生体情報解析学

Anatomy and Physiological Science

教授 星 治

助教 長 雄一郎

大学院生：(博士前期) 中田 浩貴 (博士後期) 中井 未来

(1) 分野概要

形態・生体情報解析学分野は、解剖学・生理学を主な担当科目としている。解剖学は正常なからだの形態と構造を器官から細胞、分子レベルまで究明するもので、医学の最も基礎的な領域である。生理学は人体の各構成要素がどのようなメカニズムで発現し、全体として統合されているかを追及する教科である。人体全体を科学的にとらえる上で、解剖学と生理学は車の両輪のようなもので、専門科目を学ぶための基盤となる。学生には確固たる基盤が形成され、臨床への橋渡しがうまくいくよう教育を行っている。

(2) 研究活動

電子顕微鏡をはじめとしたさまざまな顕微鏡技術を用いて、生体組織の微細構造を観察し、新たな科学的知見を得ることに主眼をおいて進めている。なかでも原子間力顕微鏡の医生物学分野への応用については、新規のイメージング技術の開発など、先端的な内容の展開を図っている。

(3) 教育活動

検査技術学専攻：人体構造学講義Ⅰ、Ⅱ、人体構造学実習、生理検査学講義Ⅰ、生理検査学実習Ⅰ、電子顕微鏡学看護学専攻：解剖学Ⅰ、Ⅱ、生理学、専門基礎合同演習（解剖学実習）

(4) 教育方針

基礎医学の学習や研究に興味をもって学生が能動的に行えるように、学生からフィードバックされる内容を参考に、講義・実習の方法を改良しながら教育・研究指導に臨んでいる。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yuichiro Cho, Kenji Sato, and Osamu Hoshi. An electrophysiological and histological analysis of pelvic nerve reconstruction and colonic bladder substitutes Structure and Function. 2015.09; 14(1); 22-32

[講演・口頭発表等]

1. Osamu Hoshi, Yuichiro Cho, Nobuyuki Takei. Translational machinery and protein synthesis in growth cones of rat dorsal root ganglion neurons: atomic force microscopic and fluorescence microscopic analysis. The 120th Annual meeting of the Japanese association of anatomists 2015.03.23 Kobe, Japan
2. Ayaka Ohashi, Yuichiro Cho, Shizuko Ichinose, Osamu Hoshi, Takatoshi Koyama. Analysis of the expression and localization of RNase and RNase inhibitor in blood cells and vascular endothelial cells involved in

homeostasis in the vascular system. International Society on Thrombosis and Haemostasis 2015 2015.06.23
Toronto, Canada

3. Osamu Hoshi, Cho Y, and Takei N. Analysis of protein synthesis in growth cones of rat dorsal root ganglion neurons. The 58th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry 2015.09.13 Saitama
4. 長 雄一郎, 佐藤 健次, 星 治. 結腸代替膀胱とその骨盤神経再建に関する電気生理学および組織学的検討. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015.11.20 岐阜

[Works]

1. 長 雄一郎：組織学実習 2015 e-learning 教材, webclass, 2015 年 04 月 - 2016 年 03 月
2. 長 雄一郎：細菌検査実習 2015 e-learning 教材, webclass, 2015 年 04 月 - 2016 年 03 月
3. 長 雄一郎：輸血検査実習 2015 e-learning 教材, webclass, 2015 年 04 月 - 2016 年 03 月

[その他業績]

1. 科学研究費補助金：基盤研究 (C) (一般), 2015 年
星 治、長 雄一郎、武井 延之：成長円錐の動態の制御機構解析—原子間力顕微鏡によるアプローチ—.
独立行政法人日本学術振興会 科学研究費補助金：基盤研究 (C) (一般), 2012.4 ~ 2015.3
2. 産学共同研究, 2015 年
星 治、長 雄一郎：原子間力顕微鏡による成長円錐の動態の制御機構解析. JPK Instruments AG, 2014.4 ~ 2015.3

[社会貢献活動]

1. 長 雄一郎：栃木県立衛生福祉大学校 臨床検査学科 非常勤講師, 2006 年 04 月 01 日 - 現在
2. 長 雄一郎：埼玉県立大学 検査技術科学専攻 非常勤講師, 2009 年 04 月 01 日 - 現在
3. 長 雄一郎：東京医科歯科大学生活協同組合 理事 (代表理事), 2009 年 05 月 01 日 - 現在
4. 長 雄一郎：お茶の水会検査同窓会 副会長, 2012 年 11 月 17 日 - 現在
5. 長 雄一郎：お茶の水会平成卒業生の会 副会長 (渉外担当), 2014 年 - 現在
6. 長 雄一郎：四大学平成卒業生の会連合会 幹事, 2014 年 - 現在
7. 長 雄一郎：足利工業大学 看護学部 非常勤講師, 2014 年 04 月 01 日 - 現在
8. 長 雄一郎：平成 26 年度 お茶の水会検査同窓会総会・講演会 実行委員, 2015 年 02 月 07 日
9. 長 雄一郎：東京医科歯科大学の大学生活における PC の活用, 東京医科歯科大学生協広報, 2015 年 03 月
10. 長 雄一郎：日本組織移植学会 第 11 回日本組織移植学会認定コーディネーター試験・第 8 回日本組織移植学会認定コーディネーター更新試験 会場責任者, 2015 年 03 月 22 日
11. 長 雄一郎：四大学平成卒業生の会連合会 発足記念講演会 実行委員, 2015 年 04 月 10 日
12. 長 雄一郎：平成 27 年度 日本食品安全協会健康食品管理士認定試験 試験監督責任者, 2015 年 05 月 24 日 - 2015 年 11 月 08 日
13. 長 雄一郎：平成 27 年度 日本食品安全協会教員研修会 実施協力, 2015 年 06 月 20 日
14. 長 雄一郎：日本食品安全協会 認定試験等に関する監督責任者, 2015 年 07 月 01 日 - 現在
15. 長 雄一郎：四大学平成卒業生の会連合会 交流講演会 2015 実行委員, 2015 年 10 月 02 日
16. 長 雄一郎：平成 27 年度 国立大学法人東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科生体検査科学専攻 第 16 回体験型公開講座「健康寿命を延ばす 健康チェック」 実行委員, 2015 年 10 月 24 日 - 2015 年 10 月 25 日
17. 長 雄一郎：お茶の水会検査・看護合同同窓会記念講演会 実行委員, 2015 年 11 月 14 日

生命機能情報解析学

Biofunctional Informatics

教授	角 勇樹
准教授	笹野 哲郎
助教	赤座 実穂
非常勤講師	原 恵子
博士前期	石原 有理、大矢 麻美子、日比 祥子、澤田 由梨子、長谷川 由貴、濱田 里美、田端 梓、藤間 詩央里
博士後期	揃田 陽子、飯野 弘子

(1) 分野概要

分子・細胞レベルから器官までの統合されたシステムとしての生体のはたらきを測定・解析する生理機能検査法、および臨床医学と生理検査との関連について研究、教育を行う。研究は呼吸、循環、神経の専門家がそれぞれの分野にて独立して行っている。それぞれ分野において、臨床レベル、見識、研究のトップクラスの専門家が集まっている。

(2) 研究活動

研究は呼吸、循環、神経の専門家がそれぞれの分野にて独立して行っている。現在の研究テーマは、呼吸分野では新規肺機能検査の臨床的意義、気管支喘息の機序と endotype 分類、循環器では心磁計を用いた新規心検査の開発、不整脈の機序研究、中枢神経領域では脳波研究、てんかん研究、末梢神経領域では新規末梢神経検査法の開発を行っている。

(3) 教育活動

学部学生教育では臨床医学全般の教育を行うと共に生理機能検査(肺機能、心電図、脳波、末梢神経検査、心、腹部エコーなど)の講義および実習にて理論および技能を修得させている。卒業研究、博士学生教育では各専門領域分野研究を行う。

1) 学部学生教育

1 年次には、先端医療技術論で生命情報機能解析学総論の講義を行う。2 年次後期には、神経、循環、呼吸の生理検査学実習 (I) を行う。内容は、脳波、心電図、血圧、スパイログラムの実習である。3 年次前・後期に、生理検査学の講義 (II) および実習 (II) を行った。内容は神経生理検査、呼吸器系検査、循環器系検査、超音波検査、画像解析、サーモグラフィー、平衡機能検査、眼底検査などの生理機能検査に加え、採血実習や救命救急処置など臨床手技全般の教育を行った。4 年次には、前期に卒業研究、後期に臨地実習の指導を行う。卒業研究では、ポリグラフ検査、機能的 MRI、NIRS、終夜睡眠 PSG、心電図、心臓超音波などをテーマに、研究指導を行う。臨地実習では、2 週間の間に運動負荷試験やホルター心電図を含む心電図検査、血液ガス測定を含む呼吸機能検査、脳波検査、誘発電位検査、および心臓・腹部超音波検査の実技指導を行う。

2) 大学院教育

大学院前期課程では生命機能情報解析学特論 A、生命機能情報解析学実験 A、病因・病態解析学を担当する。生命機能情報解析学では新しい知識や技術を教育するとともに、すでに解明されている領域とそうでない領域を明確にし、いまだ不明な領域を明らかにするための科学研究態度の修得をめざしている。病因・病態解析学では laboratory scientist に必要な臨床的知識を教育を行う。後期課程では神経生理検査学の研究指導を行う。

(4) 教育方針

生理機能検査は患者と直接接して行う臨床の front line であり、特に臨床医学の立場から生理検査について教育している。神経、呼吸、循環、消化器などの臨床生理学的検査、画像診断検査について理論や技術を教え、それらに応用した研究方法を修得させることを目標としている。生理機能検査を行うには、機器の操作、安全対策、生体現象の記録、データの整理・解析の技術と知識のみならず、直接人に接する検査であるので、疾病に対しての医学的知識、医療倫理、コミュニケーション能力なども要求される。これらに加え、検査時の患者の急変への対応についても教育している。

(5) 臨床活動および学外活動

呼吸器専門医・指導医、アレルギー専門医の角は当院呼吸器内科外来を行っている。また研究会等の世話人や discusstant を行っている。次世代の医師養成のため総合研修センターにおけるイブニングセミナー講義、呼吸器内科での CC、PCC、呼吸器ブロック講義を担当している。さらに M1 での MIC 講義を担当している。また日本の臨床レベル向上を目的として、ソニーが設立した医療従事者専用サイト エムスリー (<https://www.m3.com>) に多く寄稿している。

循環器専門医で不整脈を専門とする笹野は不整脈学会、Heart rhythm society など多数の研究会の役員や世話人となっている。週 1 回循環器外来を行っている。

精神科医で日本てんかん学会専門医・指導医、日本臨床神経生理学会認定医（脳波）、精神保健指定医の原は日本精神神経学会専門医・指導医、日本臨床神経性理学会代議員、日本薬物脳波学会評議員、日本てんかん学会評議員理事会幹事を務めている。当院ではてんかん外来を週 1 回行い、セカンドオピニオンも含め、多くの患者の診療にあたっている。また当院脳外科と協力し、週 1 回の脳波カンファレンス、月 1 回の脳波・てんかんレクチャー、また脳波の高周波数解析（HFO）を行った。また、多くの脳外科手術における術中脳波測定も行っている。

(6) 臨床上の特色

笹野は心房細動発症予測研究外来を行っている。

原はセカンドオピニオンも含め、多くのてんかん患者の診療にあたっている。特に妊よう性のある女性の治療を専門とし、多くのてんかん治療を受けた女性の妊娠出産を助けている。平成 25 年からは産婦人科医師と協力し、てんかん合併妊娠に関する事前コンサルタントを行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Mihoko Kawabata, Yasuhiro Yokoyama, Takeshi Sasaki, Susumu Tao, Kensuke Ihara, Yasuhiro Shirai, Tetsuo Sasano, Masahiko Goya, Tetsushi Furukawa, Mitsuaki Isobe, Kenzo Hirao. Severe iatrogenic bradycardia related to the combined use of beta-blocking agents and sodium channel blockers. Clin Pharmacol. 2015; 7; 29-36
2. Kensuke Ihara, Takeshi Sasaki, Yasuhiro Shirai, Susumu Tao, Shingo Maeda, Mihoko Kawabata, Tetsuo Sasano, Yasuhiro Yokoyama, Mitsuaki Isobe, Kenzo Hirao. High Atrial Defibrillation Threshold With Internal Cardioversion Indicates Arrhythmogenicity of Superior Vena Cava in Non-Long-Standing Persistent Atrial Fibrillation. Circ. J.. 2015; 79(7); 1479-1485
3. Sahoko Chiba, Ken Uchibori, Takasato Fujiwara, Tomoyuki Ogata, Shuta Yamauchi, Tuyoshi Shirai, Masahiro Masuo, Tsukasa Okamoto, Tomoya Tateishi, Haruhiko Furusawa, Toshihide Fujie, Hiroyuki Sakashita, Kimitake Tsuchiya, Meiyo Tamaoka, Yasunari Miyazaki, Naohiko Inase, Yuki Sumi. Dielectric Blood Coagulometry as a Novel Coagulation Test Journal of Scientific Research & Reports. 2015; 4(3); 180-188
4. Junko Kurokawa, Tetsuo Sasano, Masami Kodama, Min Li, Yusuke Ebana, Nobuhiro Harada, Shin-ichiro Honda, Haruaki Nakaya, Tetsushi Furukawa. Aromatase knockout mice reveal an impact of estrogen on drug-induced alternation of murine electrocardiography parameters. J Toxicol Sci. 2015; 40(3); 339-348
5. Riikka Lautamaki, Tetsuo Sasano, Takahiro Higuchi, Stephan G Nekolla, Albert C Lardo, Daniel P Holt, Robert F Dannals, M Roselle Abraham, Frank M Bengel. Multiparametric molecular imaging provides mechanistic insights into sympathetic innervation impairment in the viable infarct border zone. J. Nucl. Med.. 2015.03; 56(3); 457-463

6. Suzuki M, Kobayashi Z, Ito T, Akaza M, Tomimitsu H, Shintani S.. Lymphoma presenting with choroid plexus infiltration and periventricular dissemination. *Journal of Neurological Science*. 2015.06; 353(1-2); 179-180
7. Kobayashi Z, Akaza M, Endo H, Numasawa Y, Tomimitsu H, Shintani S.. 1. Deterioration of pre-existing hemiparesis due to an ipsilateral internal capsule infarction after a contralateral stroke. *Journal of Neurological Science*. 2015.07; 15(354); 140-141
8. Tsutsui T, Miyazaki Y, Okamoto T, Tateishi T, Furusawa H, Tsuchiya K, Fujie T, Tamaoka M, Sakashita H, Sumi Y, Inase N.. Antigen avoidance tests for diagnosis of chronic hypersensitivity pneumonitis *Respiratory Investigation*. 2015.07; 53; 217-224
9. Kobayashi Z, Itaya S, Nakamura Y, Akaza M, Tomimitsu H, Shintani S.. Sphenoid Sinusitis Complicated by Pneumococcal Meningitis and an Infectious Aneurysm in the Intracavernous Carotid Artery. *Internal medicine*. 2015.07; 54(14); 1795-1797
10. Yoshiaki Adachi, Shigenori Kawabata, Tetsuo Sasano, Yasuhiro Haruta Daisuke Oyama, Gen Uehara, Kensuke Sekihara. Biomagnetic measurement system for supine subjects with expanded sensor array and real-time noise reduction. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc*. 2015.08; 2015; 7071-7074
11. Yoko Suzuki, Miho Miyajima, Katsuya Ohta, Noriko Yoshida, Masaki Okumura, Mitsuru Nakamura, Tetsuo Sasano, Tokuhiko Kawara, Masato Matsuura, Eisuke Matsushima. A Triphasic Change of Cardiac Autonomic Nervous System During Electroconvulsive Therapy. *J ECT*. 2015.09; 31(3); 186-191
12. Akiko Koizumi, Tetsuo Sasano, Wataru Kimura, Yoshihiro Miyamoto, Takeshi Aiba, Taisuke Ishikawa, Akihiko Nogami, Seiji Fukamizu, Harumizu Sakurada, Yoshihide Takahashi, Hiroaki Nakamura, Tomoyuki Ishikura, Haruhiko Koseki, Takuro Arimura, Akinori Kimura, Kenzo Hirao, Mitsuaki Isobe, Wataru Shimizu, Naoyuki Miura, Tetsushi Furukawa. Genetic defects in a His-Purkinje system transcription factor, *IRX3*, cause lethal cardiac arrhythmias. *Eur. Heart J.*. 2015.10;
13. Kaoru Okishige, Hideshi Aoyagi, Kensuke Ihara, Shinsuke Iwai, Tomofumi Nakamura, Mitsumi Yamashita, Nobutaka Katoh, Tomoaki Hasegawa, Naohiko Kawaguchi, Takehiko Keida, Tetsuo Sasano, Kenzo Hirao. Reappraisal of the clinical implications of adenosine triphosphate in terms of the prediction of reconnection sites in cases with electrical isolation of the pulmonary veins. *J Interv Card Electrophysiol*. 2015.11; 44(2); 171-178
14. Koichi Fujiwara, Miho Miyajima, Toshitaka Yamakawa, Erika Abe, Yoko Suzuki, Yuriko Sawada, Manabu Kano, Taketoshi Maehara, Katsuya Ohta, Taeko Sasai-Sakuma, Tetsuo Sasano, Masato Matsuura, Eisuke Matsushima. Epileptic Seizure Prediction Based on Multivariate Statistical Process Control of Heart Rate Variability Features. *IEEE Trans Biomed Eng*. 2015.12;
15. Donahue JK, Sasano T, Kelemen K. Gene therapy approaches to ventricular tachyarrhythmias *Journal of electrocardiology*. 40(6 Suppl); S187-91
16. 原恵子. 成人の難治てんかん 波.
17. 原恵子. てんかんと社会—精神科の立場から— *Epilepsy*.

[講演・口頭発表等]

1. 折原あすみ、稲次基希、田端梓、原恵子、前原健寿. 側頭葉てんかん術中脳波スパイクに対する高周波律動. 第 38 回 日本てんかん外科学会 2015.01.15
2. 清水一秀、稲次基希、林志保里、折原あすみ、伊藤なつみ、橋本聡華、田端梓、原恵子、前原健寿. MRI 陰性新皮質てんかん患者における発作時高周波律動解析の有用性. 第 38 回日本てんかん外科学会 (2015.01.16
3. 萬田木香、東盛志、岡本師、足立雄太、本多隆行、佐内文、三ツ村隆弘、内堀健、古澤春彦、立石知也、藤江俊秀、土屋公威、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 肺結核治療中に、エサンプトールによる薬疹とイソニアジドによる薬剤性肺障害をきたした 1 例. 第 213 回日本呼吸器学会関東地方会 2015.02
4. 角 勇樹. 喘息の病態について. 第 3 回茨城県南肺フォーラム講演会 2015.02.25
5. 大谷義夫、榊原ゆみ、岡本師、古澤春彦、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、宮崎泰成、稲瀬直彦、角勇樹. 百日咳抗体 PT-IgG 値は経時的にほとんど低下しない 第 55 回日本呼吸器学会学術講演会. 第 55 回日本呼吸器学会学術講演会 2015.04

6. 杉浦真貴子、古澤春彦、岡本師、立石知也、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、宮崎泰成、角勇樹、稲瀬直彦. 間質性肺炎に続発した気胸に対する治療方法の検討. 第 55 回日本呼吸器学会学術講演会 2015.04
7. 貫井義久、岡本師、玉岡明洋、古澤春彦、立石知也、土屋公威、藤江俊秀、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 間質性肺炎における呼吸一酸化窒素 (NO) 測定 of 検討. 第 55 回日本呼吸器学会学術講演会 2015.04
8. Sasano T, Takahashi K, Zhang P, Ihara K, Sugiyama K, Tamura N, Nishimura T, Shirai Y, Tao S, Sasaki T, Kawabata M, Goya M, Hirao K, Isobe M, Furukawa T. Comprehensive Analysis Linking MicroRNA and Atrial Inflammation in Mouse and Human.. 第 79 回日本循環器学会 2015.04.24
9. Takahashi K, Sasano T, Sugiyama K, Isobe M, Furukawa T. High-Fat Diet Increases Vulnerability to Atrial Arrhythmia by Conduction Disturbance via MicroRNA.. 第 79 回日本循環器学会 2015.04.24
10. Sugiyama K, Sasano T, Tamura N, Okamura T, Kato N, Isobe M, Furukawa T. Oxidative Stress Induced Ventricular Arrhythmias and Impaired Cardiac Function in Nos1ap Deleted Mice. 第 79 回日本循環器学会 2015.04.25
11. 佐内文、土屋公威、足立雄太、須原宏造、石塚聖洋、岡本師、立石知也、古澤春彦、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 関節リウマチに対する生物学的製剤単回投与 1 か月後に増悪した肺アスペルギルス症の 1 例 第 214 回日本呼吸器学会関東地方会. 第 214 回日本呼吸器学会関東地方会 2015.05
12. 榊原ゆみ、大谷義夫、瀬間学、日下拓、仁多寅彦、藤江俊秀、千葉佐保子、土屋公威、玉岡明洋、稲瀬直彦、角勇樹. 百日咳抗体 PT-IgG 値の経時的推移についての検討. 第 64 回日本アレルギー学会学術大会 2015.05
13. 赤座実穂. 上腸間膜動脈症候群を併発した筋萎縮性側索硬化症の 1 例. 内科学会関東地方会 2015.05.09 東京
14. Hasegawa Y, Hamada S, Nishimura T, Shirai Y, Tao S, Sasaki T, Kawabata M, Goya M, Isobe M, Koyama T, Sumi Y, Hirao K, Sasano T. Novel dielectric coagulometer identifies the increased coagulability in patients with high CHADS2 score.. Heart Rhythm Society meeting 2015.05.15
15. 赤座実穂. 当院における一過性全健忘患者の検討. 神経学会総会 2015.05.23 新潟
16. 棗 祐有、大矢 麻美子、長谷川 由貴、足立 善昭、平尾 見三、笹野 哲郎. 高感度ベクトル心磁計を用いた右心房及び左心房特異的な興奮評価. 第 31 回日本生体磁気学会 2015.06.05
17. 大矢 麻美子、長谷川 由貴、西村 卓郎、白井 康大、田尾 進、佐々木 毅、川端 美穂子、合屋 雅彦、関原 謙介、足立 善昭、平尾 見三、笹野 哲郎. 高感度ベクトル心磁計を用いた、健常者における肺静脈興奮の評価. 第 31 回日本生体磁気学会 2015.06.05
18. 長谷川 由貴、大矢 麻美子、佐藤 綾菜、志賀 圭祐、関原 謙介、笹野 哲郎. 高感度ベクトル心磁図波形の電流源再構成による肺静脈興奮評価の可視化. 第 31 回日本生体磁気学会 2015.06.05
19. 笹野 哲郎、大矢 麻美子、長谷川 由貴、照井 まりな、川端 茂徳、足立 善昭、平尾 見三. 高感度ベクトル心磁図による肺静脈周囲心筋興奮の検出. 第 31 回日本生体磁気学会 2015.06.06
20. 赤座実穂. 70 歳にててんかん発作が初発し、BAFME が疑われる 74 歳女性. 2015.06.13 東京
21. Hasegawa Y, Hamada S, Nishimura T, Shirai Y, Tao S, Sasaki T, Kawabata M, Goya M, Sumi Y, Isobe M, Hirao K, Sasano T. Filtered P Wave Duration by Vector Magnetocardiography may Evaluate Conduction Disturbance in Left Atrium.. 本不整脈学会・心電学会合同学術集会 2015.07.29
22. Hasegawa Y, Hamada S, Nishimura T, Shirai Y, Tao S, Sasaki T, Kawabata M, Goya M, Sumi Y, Isobe M, Hirao K, Sasano T. Novel Dielectric Blood Coagulometry Can Detect Increased Coagulability in Subjects with High CHADS2 Score.. 本不整脈学会・心電学会合同学術集会 2015.07.29
23. 濱田 里美、石原 有理、井上 芳徳、磯部 光章、平尾 見三、笹野 哲郎. 指尖容積脈波を用いた末梢血管自律神経機能評価. 本不整脈学会・心電学会合同学術集会 2015.07.30
24. Sasano T, Ishihara Y, Oya M, Fujie T, Tamaoka M, Sumi Y, Matsuura M, Miyazaki Y, Hirao K. Nocturnal Variations in Atrial and Ventricular Electrophysiological Properties in Obstructive Sleep Apnea. 本不整脈学会・心電学会合同学術集会 2015.07.31
25. 澤田 由梨子、宇佐 知里郁、小山 望、角 勇樹、寺島 正浩、平尾 見三、磯部 光章、笹野 哲郎. J 波と心臓 MRI における遅延造影との関連性の検討および川崎病における J 波の頻度. 本不整脈学会・心電学会合同学術集会 2015.07.31

26. 杉浦美貴子、古澤春彦、立石知也、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、宮崎泰成、角勇樹、稲瀬直彦. 間質性肺炎に続発した気胸に対する治療法の検討. 第 19 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会 2015.09
27. Yumi Sakakibara, Yoshio Ohtani, Torahiko Jinta, Toshihide Fujie, Yasunari Miyazaki, Naohiko Inase. Concentrations of immunoglobulin G antibodies against pertussis toxin does not decrease over a long period of time in Japan. European Respiratory Society's 25th International Congress, 26-30 September 2015, Amsterdam, Netherlands 2015.09.28
28. 坂下博之、筒井俊晴、瀬間学、須原宏造、石塚聖洋、立石知也、古澤春彦、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 間質性肺炎の経過観察中に診断した肺癌患者の検討. 第 56 回日本肺癌学会学術集会 2015.11
29. 倉重理絵、杉原潤、高野聡子、榛沢理、佐内文、井上幸久、齋藤弘明、須原宏造、石塚聖洋、古澤春彦、立石知也、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、宮崎泰成、角勇樹、稲瀬直彦. 当院における ALK 阻害薬による治療の検討 第 56 回日本肺癌学会学術集会. 第 56 回日本肺癌学会学術集会 2015.11
30. Sasano T, Oya M, Hasegawa Y, Terui M, Adachi Y, Hirao K. Detection of pulmonary venous activity utilizing high-sensitive vector magnetocardiography.. Asian Symposium of magnetocardiography 2015.11.02
31. 鳴海 純, 叶内 匡, 赤座実穂, 青柳栄子, 柳奈緒美, 太田那津美, 角 勇樹, 横田隆徳, 萩原三千男, 東田修二. 神経伝導検査における精度管理のための基礎的検討. 第 45 回日本臨床神経生理学会学術大会 2015.11.05 大阪
32. Hasegawa Y, Natsume Y, Nishimura T, Shirai Y, Tao S, Sasaki T, Kawabata M, Sumi Y, Goya M, Isobe M, Hirao K, Sasano T. Number of P wave fragmentations measured by vector magnetocardiography may evaluate conduction disturbance in left atrium.. Asia-pacific Heart Rhythm Society meeting 2015.11.20
33. Hamada S, Hasegawa Y, Nishimura T, Sumi Y, Koyama T, Furukawa T, Hirao K, Sasano T. Novel Di-electric Blood Coagulometry Can Evaluate Factor Xa Activity and Reduced Coagulability by Dalteparin.. Asia-pacific Heart Rhythm Society meeting 2015.11.20
34. Sasano T:. Gene Therapy for Post-Myocardial Infarction Related Ventricular Tachycardia.. Asia-pacific Heart Rhythm Society meeting 2015.11.21
35. Sugiyama K, Sasano T, Tamura N, Okamura T, Kato N, Isobe M, Furukawa T. Oxidative Stress Induced Ventricular Arrhythmias and Impaired Cardiac Function in Nos1ap Deleted Mice.. Asia-pacific Heart Rhythm Society meeting 2015.11.21
36. Sasano T, Koizumi A, Kimura W, Nogami A, Fukamizu S, Sakurada H, Hirao K, Isobe M, Kimura A, Aiba T, Miyamoto Y, Shimizu W, Miura N, Furukawa T. IRX3, a His-Purkinje system specific transcription factor is related with ventricular tachyarrhythmia.. Asia-pacific Heart Rhythm Society meeting 2015.11.22
37. Sasano T, Takahashi K, Ihara K, Sugiyama K, Nishimura T, Shirai Y, Tao S, Sasaki T, Kawabata M, Goya M, Hirao K, Isobe M, Furukawa T. Comprehensive Analysis Identifies common MicroRNA expression Involved in murine models of atrial remodeling and clinical specimen.. Asia-pacific Heart Rhythm Society meeting 2015.11.22
38. 倉重理絵、坂下博之、杉原潤、榛沢理、佐藤聡子、佐内文、齋藤弘明、井上幸久、須原宏造、石塚聖洋、古澤春彦、立石知也、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、宮崎泰成、角勇樹、稲瀬直彦. アレクチニブ中止後に急速に増大し、クリゾチニブが著効した ALK 陽性肺腺癌の 1 例. 第 174 回日本肺癌学会関東支部会 2015.12
39. 原恵子. 脳波判読の基礎. 4th 明後日の会
40. 石塚聖洋、宮崎泰成、須原宏造、岡本師、立石知也、古澤春彦、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、稲瀬直彦. 抗原吸入誘発試験の有効性と安全性の検討. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会
41. 足立雄太、土屋公威、古澤春彦、内堀健、三ツ村隆弘、佐内文、本多隆行、東盛志、岡本師、立石知也、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 両肺多発浸潤影を呈した間質性肺炎合併肺腺癌の 1 例. 第 171 回日本肺癌学会関東支部会学術集会
42. 内堀健、足立雄太、東盛志、本多隆行、佐内文、三ツ村隆弘、岡本師、立石知也、古澤春彦、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 潰瘍型気管支結核と鑑別を要した肺腺癌の 1 例. 第 172 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会

[その他業績]

1. M3 画像症例クイズ 1 週間前から、労作時の息切れを訴える体格の良い 24 歳男, 2015 年 01 月
<http://www.m3.com/quiz/doctor/mail/question.html?ids=59025>
2. エムスリー/研修最前線 胸部 X 線読影 1, 2015 年 06 月
◆ 2015/06/15 (月)
生涯被曝量にも影響する、X 線撮影条件【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/328972>

◆ 2015/06/17 (水)
これが骨と軟部陰影を読むコツ【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/328974>

◆ 2015/06/19 (木)
胸部 X 線読影の「定石」【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/328975>
3. エムスリー/研修最前線 輸液, 2015 年 07 月

◆ 2015/07/06 (月)
どんな点滴が痛いのか【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/336041>

◆ 2015/07/08 (水)
脳症をも引き起こす点滴組成【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/336042>

◆ 2015/07/10 (金)
脱水の急患、注意が必要な輸液選択【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/336043>

◆ 2015/07/13 (月)
心臓の見た目良くても『心不全！？』【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/336044>

◆ 2015/07/15 (水)
糖尿病患者の輸液はこう調整する【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/336045>
4. エムスリー/研修最前線 抗菌剤, 2015 年 07 月
◆ 2015/07/29 (水)
これだけは覚えたいβラクタム系抗菌薬【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/342003>

◆ 2015/07/31 (金)
抗菌薬の点滴指示、考慮すべき条件【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/342004>

◆ 2015/08/03 (月)
高率に MRSA がつく患者とは【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/342005>

◆ 2015/08/05 (水)
最後の切り札「リネゾリド」【研修最前線】
<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/342006>

◆ 2015/08/07 (金)
抗菌薬の投与法が変わった訳【研修最前線】

<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/342008>

◆ 2015/08/10 (月)

注射後の患者の違和感は、即中止【研修最前線】

<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/342009>

5. エムスリー/研修最前線 胸部 X 線読影 2, 2015 年 09 月

◆ 2015/09/18 (金)

誤嚥性肺炎疑いを見極める X 線読影【研修最前線】

<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/357546>

◆ 2015/09/25 (金)

X 線読影の近道「パターン認識」【研修最前線】

<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/357547>

◆ 2015/09/28 (月)

絶対に見逃したくない重要な陰影【研修最前線】

<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/357548>

6. エムスリー/研修最前線 胸部 X 線読影 3, 2015 年 10 月

◆ 2015/10/16

腺癌読影で覚えたい重要サイン【研修最前線】

<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/366045>

◆ 2015/10/19

扁平上皮癌検出、最も有効な方法【研修最前線】

<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/366046>

◆ 2015/10/21

これが肺癌を見逃さない X 線読影【研修最前線】

<https://www.m3.com/clinical/kenshuusaizensen/366075>

[社会貢献活動]

1. 第 10 回臨床神経生理技術講習会, 臨床神経生理学会, 第 10 回臨床神経生理技術講習会, 東京, 2015 年 04 月 01 日 - 現在

生体機能支援システム学

Biophysical System Engineering

教授 伊藤 南
助教 本間 達
非常勤講師
赤澤 宏平

(1) 分野概要

”生体システムのメカニズム”をキーワードにして、医用生体計測を通して得られる生体情報の利用とそのメカニズムを明らかにする研究と教育を行います。サイバネティクスの創始者として知られるノーバート・ウィーナーは、生体もまたある種の制御システムであることを示唆しました。私たちは生体情報からその機能や作用機序を明らかにする研究として、行動解析、ニューロンの電気活動記録、数理モデル解析などの連携を通じて、視知覚における物体の輪郭線や面の表現の視覚情報処理システムのメカニズムを探っています。一方、生体情報を生体機能の制御に利用する研究として、頭部組織における熱伝導モデルを起点として、脳低温療法時の脳の精密な温度管理を可能とする温度制御システムの開発を進めています。

(2) 研究活動

本分野は、工学的な切り口で複雑な生体機能のシステムの挙動とメカニズムを明らかにすること、そうした知識を応用することを研究の目的としています。

- 1) 視覚情報統合のための生体情報処理システムの数理モデル解析
- 2) 状況に応じた視覚情報の統合と認知のための神経メカニズムの解明

我々の視知覚は多様な外部環境下でも安定した外部情報の認知を可能とする柔軟さを持つ一方で刺激本体の特性以外にも周囲の状況、過去の経験や学習より変化するダイナミクスを実現しています。①物体の輪郭線の断片的情報を統合するプロセスと②物体表面の質感認知における視覚情報と触感情報の相互作用を対象にして、大脳皮質視覚野の中間段階の情報処理メカニズムの解明を通して、そうした柔軟な視覚情報処理のメカニズムを明らかにしたいと考えています。特に同一の動物個体において、心理物理学的手法による行動解析と単一細胞記録を主とする電気生理学的な活動の記録を同時に行うことにより、両者の因果関係を明らかにすることで視知覚をメカニズムを説き明かすことを目指しています。また、イメージング技術を利用した神経回路網の解析、視覚情報処理の数理モデル化などの異なるレベルの研究の連携を進めたいと考えています。本年度はニホンザル1頭を実験環境への馴致、基本的な行動課題の訓練を開始しました。ヒト被験者に触感サンプルの弁別と触知覚の評定を行こなわせ、両者の関係を評価しました。

- 3) 医療支援のための数理モデルを利用した身体情報計測法の開発

医療、リハビリテーションなどに応用可能な生体の機能制御法の研究を行うとともに、生体の活動情報を生体自身にフィードバックして自らの活動の制御を学習的に行う方法を研究し、基礎的な心理実験や自己治療、自己訓練などを行っています。そのために、生体システムの特徴である複数の現象の相互関連を総合的に把握する方法と生体現象の非線形性、個別性、経時変化やその環境条件を表現する数学的方法の研究を行っています。また、生体の機能制御における個体差、経時変化による不確定性に対処するために、個別性と同時に客観性を備えた操作方法と対象の詳細を把握し得ない生体の機能の適応的制御法の研究を行っています。そうした成果の生体調節系の積極的な制御と医療への応用として、本年度は脳低温療法時の脳の温度制御システム開発を進めました。頭部組織における熱伝導の様子を物理モデルで再現し、異なる制御手法による温度制御システムの妥当性をシミュレーションで比較、検証しました。人工呼吸の自動管理装置の実用化にむけて、民間企業との共同研究をすすめ

ています。

(3) 教育活動

1) 学部教育

医用工学概論をカバーするとともに、統計学的なデータの取り扱いについて修得させます。

2 年次：検査管理学では検査管理法の基礎的な知識や安全管理の基本的な考え方を修得させます。医用システム工学（Ⅰ）では、生理学検査の原理を理解するのに必要な、電磁気の物理、電気信号の周波数フィルター、電気信号の増幅、生体の電気特性と安全管理について修得させます。実習では実際の電気計測を通じて、体験的に知識の応用を学ぶことを目標とします。医学情報処理演習（Ⅰ）ではデータ処理の基礎として、表計算ソフトの利用と平均値を比較する統計処理の原理と方法を修得させます。

3 年次：医用システム情報学（Ⅱ）では医療の IT 化を理解するために必要な、情報科学における情報の取り扱い、コンピュータやネットワークの仕組み、ネットワークでの情報セキュリティ、電子カルテや病院情報システムの仕組みについて基本的な考え方を修得させます。実習では C 言語によるプログラミングを通じて、プログラムのルールを応用、工夫することにより目的の計算処理を達成することを修得させます。

4 年次：医用情報処理演習（Ⅱ）では EBM, 学術情報や文献のデータベースの利用法、2 変量の関係を解析する統計処理の原理と方法、生物統計学の特性について修得させます。

2) 大学院教育

研究教育の場を通じて、課題解決の為に自ら知識、技術を系統立てて収集するノウハウを学び、今後国内外の様々な方面で活かせるような力を修得させます。英文論文や教科書の読解を積極的に行います。共通科目「医療情報学」では生体検査科学専攻と総合保健看護学専攻との接点を見いだす貴重な機会ととらえ、両専攻にまたがる幅広いテーマについて、非常勤講師によるオムニバス形式の講義を実施しています。

(4) 教育方針

科学技術、医療技術の急速な進歩は医学・医療のレベルを著しく向上させるとともに、臨床検査技師が果たす役割も変化させています。またシステム制御、IT 化、機械化、検出技術の開発、統計情報処理など、医療・生命科学から工学にわたる幅広い領域にまたがる多様な要求を生み出しています。こうした要求に答え、医療チームの一員として医療現場を支える人材を育成することを目的とします。また英文による論文や教科書の読解を積極的に進めます。

1) 学部教育

臨床検査技師として必要な実務的な技術を身につけるだけでなく、生体情報とその検出技術の背景、原理、システムのメカニズムを良く理解し、既成の技術の利点欠点をよく理解して「応用する」、新しい技術に容易に適用できる人材を育成することを目的とします。

2) 大学院教育

医療の高度化・先端化には、基礎的な生命科学研究や技術開発等を通じてその進歩に寄与する、工学と生命科学の橋渡しができる人材が必要です。高度の専門性と多様性を兼ね備えた新しいタイプの臨床検査技師を養成することを目的とします。システムのメカニズムを明らかにするための考え方を身に付けることを目指します。課題解決の為に自ら知識、技術を系統立てて収集すると同時に、新しい課題を設定・解決するノウハウを学び、国内外の様々な方面で能力を活かせるような力を養います。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yutaka TAKAGI, Satoru HONMA, Hidetoshi WAKAMATSU, Minami ITO. Comparison of brain temperature distribution between mathematical and solid models of head thermal characteristics, Electrical Engineering in Japan Electrical Engineering in Japan. 2015.07; 193(2); 58-68

[書籍等出版物]

1. Minami Ito. Computational Intelligence - Volume II. EOLSS publications, 2015 (ISBN : 978-1780215211)
2. 芝紀代子, 金森きよ子, 久保田亮, 栗原由利子, 酒井伸枝, 猿橋裕子, 本間達. 新版 健康食品の基礎知識. じほう, 2015.09 (ISBN : 978-4840747684)

[講演・口頭発表等]

1. 本間達. Web-Learning を組み込んだ医用工学教育. 教育システム情報学会 2015 年度第 1 回研究会 2015.05.23
2. 本間達, 沢辺元司, 戸塚実, 副島友莉恵, 大川龍之介. 就職支援のための求人票データの分析. 第 10 回日本臨床検査学教育学会 2015.08.20
3. 小林望美, 本間達, 川良徳弘. 人工呼吸器評価に用いる人工肺設定値の検討. 第 10 回日本臨床検査学教育学会 2015.08.20
4. 上田礼子, 本間達, 松本友子, 笠井久美. 子ども虐待予防の知識と対処行動に関連する要因の分析: 予防関連職種の場合. 第 56 回日本母性衛生学会 2015.10.16
5. 上田礼子, 松本友子, 本間達, 宮澤純子. 0 ～ 2 歳児用虐待予防プレアセスメント PACAP-B—作成と有効性—. 第 80 回日本民族衛生学会 2015.11.13
6. 甘楽明穂、佐々木睦美、伊藤南. 動物における触感を評価する試み. 質感の集い 第一回公開フォーラム 2015.11.25 東京大学 生産技術研究所

先端分析検査学

Analytical Laboratory Chemistry

教授：戸塚 実

助教：大川 龍之介

大学院生：(博士前期) 三上 周子, 頼 劭睿, 森田 真麻, 生駒 勇人
(博士後期) 佐藤 恵美, 吉本 明, 矢野 康次

社会人大学院生：(博士後期) 宿谷 賢一, 市村 直也, 名倉 豊

(1) 分野概要

先端分析検査学分野は臨床検査学の分類における「臨床化学」を教育・研究の柱に据えています。研究の主テーマは「心血管疾患発症のリスクを予見可能な血清バイオマーカーの開発」としていますが、研究を支えるに十分な技術の習得および高い精度を持った測定法の開発能力が重要と考えています。研究成果を論文あるいは学会で発表し、社会に還元するという使命とともに、次代の臨床検査を発展的に継続できる人材の育成が何よりも重要です。臨床検査技師養成大学の歴史は比較的浅いため、医療現場で中心的な役割を担える臨床検査技師の育成に加えて、教育・研究においても第一線で活躍できる、臨床検査に identity をもった人材の育成を目指しています。そのためにも、楽しく研究活動に打ち込むことができる環境作りが大切だと思っています。

(2) 研究活動

直接の研究対象はリポ蛋白およびその主要成分であるコレステロールや中性脂肪、構成・機能蛋白である各種アポ蛋白、およびその代謝・分解産物や代謝に関わる酵素類であるが、これらの詳細な研究を通じて、粥状動脈硬化性疾患の早期病態把握に有用なバイオマーカーを開発することが主要な研究テーマである。

具体的には、High-density lipoprotein (HDL) および主要構成蛋白である apolipoprotein A-I の reverse cholesterol transport (RCT) antioxidant ability、および anti-inflammatory effect に着目した冠動脈疾患の特異バイオマーカーの開発がテーマである。冠動脈疾患の危険因子は多数報告されており、それらの検査によって心筋梗塞などの発症リスクを軽減することに一定の効果は得られている。しかし、リスク回避に努力している方が多いにも関わらず心筋梗塞で亡くなる頻度が依然として激減しないのも事実である。リスクのある方を中心に、定期的に、しかも簡易に検査可能なバイオマーカーの必要性が強く望まれている。RCT、antioxidant ability、anti-inflammatory effect は抗動脈硬化の有用なメカニズムと考えられているが、当研究室ではそのメカニズムに関わる多数の成分より、様々な時点におけるリアルタイムな病態把握に有用なバイオマーカーを発見し、測定法を開発することを目指している。

研究課題 Research Focus

- ・ 心血管疾患発症の残存危険度を評価可能なバイオマーカーの開発
Development of a new biomarker to estimate residual risk for cardiovascular disease
- ・ 化学修飾を受けた HDL およびアポ蛋白 A-I の機能に関する研究
Study on the functions of chemically modified HDL and apolipoprotein A-I
- ・ アポ蛋白 E 含有 HDL の機能解析と臨床的意義に関する研究
Study on the functions and clinical significance of apolipoprotein E containing HDL

(3) 教育方針

学部教育：教育分野は分析化学検査学が中心であり、臨床検査現場ではいわゆる一般検査および臨床化学検査領域にあたる。この分野はもっとも自動化が進んでいる分野である。また、放射線同位元素技術学の教育はアイソトープ総合センターの原正幸准教授の協力を得ている。高度専門職業人として検査現場のリーダーあるいは指導者として活躍できる人材の育成のために、あるいは、企業においては検査の知識をベースにしたスペシャリストとして独自の業務を遂行できる人材の育成のために、分析法の原理や特徴および得られた結果の臨床的意義を解釈できる基礎的教育を目指している。それをベースに自ら考え、問題を解決し、さらには発展させていく創造的能力の育成が最終目標である。

大学院教育：研究の基礎となるのは分析技術である。確かな分析技術なくして、すばらしい研究成果が得られることはありえない。先端分析検査学分野では、信頼できる分析技術の重要性を理解し、その技術を習得することを第一の目的とする。次にその技術を基盤として、臨床検査分野で必要とされている新たなバイオマーカーの考案と測定法の開発、および臨床的有用性の評価を目指す。これら一連の研究プロセスを通じて、各種分析技術の習得とその原理、特徴および限界を理解することに加えて、自ら実験を立案し、その実行のために最適な手法を選択できる研究構築能力を育成する。また、学会発表や論文発表を通じて、得られた研究成果を情報として発信する能力を育成する。

(4) 研究業績

[原著]

1. Takahiro Kameda, Ryunosuke Ohkawa, Kouji Yano, Yoko Usami, Akari Miyazaki, Kazuyuki Matsuda, Kenji Kawasaki, Mitsutoshi Sugano, Tetsuo Kubota, Minoru Tozuka. Effects of Myeloperoxidase-Induced Oxidation on Antiatherogenic Functions of High-Density Lipoprotein. *J Lipids*. 2015; 2015; 592594
2. Mai Nanya, Masaki Sato, Kousuke Tanimoto, Minoru Tozuka, Shuki Mizutani, Masatoshi Takagi. Dysregulation of the DNA Damage Response and KMT2A Rearrangement in Fetal Liver Hematopoietic Cells. *PLoS ONE*. 2015; 10(12); e0144540
3. Makoto Kurano, Kazuhisa Tsukamoto, Masumi Hara, Ryunosuke Ohkawa, Hitoshi Ikeda, Yutaka Yatomi. LDL Receptor and ApoE Are Involved in the Clearance of ApoM-associated Sphingosine 1-Phosphate. *J. Biol. Chem.*. 2015.01; 290(4); 2477-2488
4. Makoto Kurano, Akiko Suzuki, Asuka Inoue, Yasunori Tokuhara, Kuniyuki Kano, Hirotaka Matsumoto, Koji Igarashi, Ryunosuke Ohkawa, Kazuhiro Nakamura, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida, Kazuhisa Tsukamoto, Hitoshi Ikeda, Junken Aoki, Yutaka Yatomi. Possible involvement of minor lysophospholipids in the increase in plasma lysophosphatidic Acid in acute coronary syndrome. *Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol.*. 2015.02; 35(2); 463-470
5. Ryunosuke Ohkawa, Makoto Kurano, Yuko Mishima, Takahiro Nojiri, Yasunori Tokuhara, Tatsuya Kishimoto, Kazuhiro Nakamura, Shigeo Okubo, Shigemi Hosogaya, Yukio Ozaki, Hiromitsu Yokota, Koji Igarashi, Hitoshi Ikeda, Minoru Tozuka, Yutaka Yatomi. Possible involvement of sphingomyelin in the regulation of the plasma sphingosine 1-phosphate level in human subjects. *Clin. Biochem.*. 2015.07; 48(10-11); 690-697

[講演・口頭発表等]

1. 吉本 明, 間宮 周平, 亀田 貴寛, 佐藤 恵美, 矢野 康次, 西坂 薫子, 寒河江 望, 大川 龍之介, 戸塚 実. Apolipoprotein E 含有 HDL と Paraoxonase 1 について. 第 25 回生物試料分析科学学会年次学術集会 2015.02.14 東京
2. Yoshimoto A., Sato M., Yano K., Usami Y., Miyazaki A., Sugano M., Ohkawa R., Tozuka M. Paraoxonase1 participates in antioxidant ability of HDL as a constituent protein but not its enzymatic activity.. the 21st IFCC-EFLM (European Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine) 2015.06.22 Paris
3. Ohkawa R. IFCC TF-YS open meeting, Workforce preparation the invitation to contribution. the 21st IFCC-EFLM (European Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine) 2015.06.22 Paris
4. 本間 達, 沢辺 元司, 戸塚 実, 副島 友莉恵, 大川 龍之介. . 就職支援のための求人票データの分析. 第 10 回日本臨床検査教育学会学術大会 2015.08.20 松本

5. 宮川 典子, 関田 綱基, 浅海 隆司, 大川 龍之介, 岡村 邦彦, 汐谷 陽子, 宮本 博康, 島野 志都子, 平木 一嘉, 竹島 秀美. 内部制度管理における技術水準から見た施設内精度 (その 6: AST, ALP, GGT) . 日本臨床検査自動化学会第 47 回大会 2015.10.09 横浜
6. 汐谷 陽子, 竹島 秀美, 荒木 秀夫, 宮本 博康, 島野 志都子, 大川 龍之介, 関田 綱基. 日臨技臨床化学精度管理調査解析 その 2 ～都臨技調査と比較して～. 第 11 回東京都医学検査学会 2015.11.01
7. 亀田 貴寛, 伊藤 さやか, 宇佐美 陽子, 宮崎 あかり, 栗原 由利子, 大川 龍之介, 細萱 茂実, 戸塚 実. リポタンパクがヒト末梢血単核球 (PBMC) のインターロイキン-1 β 前駆体の発現に与える影響の解析. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015.11.21 岐阜

[その他業績]

1. 戸塚 実, 日本学術振興会, 科学研究費補助金 (基盤研究 C)
” 高比重リポ蛋白 (HDL) が粥状動脈硬化進展に及ぼす影響の 2 面性について”, 研究代表者
2. 大川 龍之介, 日本学術振興会, 科学研究費補助金 (若手研究 B)
” 赤血球関連コレステロール代謝のメカニズムとその破綻の解明”, 研究代表者
3. 大川 龍之介, 日本学術振興会, 科学研究費補助金 (基盤研究 C)
” 高比重リポ蛋白 (HDL) が粥状動脈硬化進展に及ぼす影響の 2 面性について”, 研究分担者
4. 大川 龍之介, 日本臨床化学会関東支部分科会プロジェクト
” 血中ホモシステインがアポリポ蛋白 C 群に及ぼす影響の解明”, 研究代表者

[社会貢献活動]

1. 大川 龍之介, 体験型公開講座, 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科
2. 大川 龍之介, 日本臨床検査同学院, 二級病理細菌検査士, 試験員
3. 大川 龍之介, 東京都臨床検査技師会, 臨床化学研究班
4. 大川 龍之介, 日本生物試料分析科学会, 評議委員
5. 大川 龍之介, International Federation of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine, Corresponding Members of Task Force Young Scientists
6. 大川 龍之介, 日本臨床検査同学院, 緊急検査士, 試験員
7. 大川 龍之介, 日本臨床化学会, 評議委員
8. 大川 龍之介, 一般社団法人 HECTEF, 学術専門委員
9. 戸塚 実, 日本臨床化学会, 常務理事
10. 戸塚 実, 日本臨床検査医学会, 理事
11. 戸塚 実, 日本臨床検査学教育協議会, 理事長
12. 戸塚 実, 生物試料分析化学会, 評議員
13. 戸塚 実, 日本臨床検査同学院, 認定試験委員
14. 戸塚 実, Clinica Chimica Acta, Editorial Board
15. 戸塚 実, 日本臨床検査自動化学会, 評議員
16. 戸塚 実, 健康食品管理士会, 関東支部幹事

生体防御検査学

Microbiology and Immunology

教授：窪田哲朗

准教授：齋藤良一

助教：加藤優子，谷千尋

大学院博士課程後期：井田陽子，桑田祐輔，溝口美裕紀，井上久美

大学院博士課程前期：石毛里奈，田上千絵，笠井彩子，上市裕子

(1) 研究活動

1. 膠原病の病態の解明，新しい臨床検査法の開発
2. 自己炎症疾患の病態の解明，新しい臨床検査法の開発
3. 免疫学的実験または検査に有用な新しい抗体の作製
4. 細菌の薬剤耐性機構の解明
5. 細菌の病原性因子と宿主生体防御機構の解明
6. 感染症起因微生物の迅速検出法および分子疫学解析法の構築

(2) 教育方針

1. 免疫検査学

抗原抗体反応，補体系の反応，細胞性免疫応答などを応用した種々の臨床検査法の基本原理，有用性，問題点などを講義・実習を通して教授している。新しい検査法の研究・開発にも携わる人材を育成するために，すでに確立した検査技術の修得のみではなく，科学的視点に基づいた思考法を身につけさせることを目標としている。したがって，まず免疫学全般について基本的事項を時間をかけて解説し，具体的な事柄について，なるべくそのような事実の解明された実験経過なども紹介しつつ，応用能力を育成するように心掛けている。

2. 微生物学・病原体検査学

病原体検査学 (I) は医学微生物学（細菌学，真菌学，ウイルス学，免疫学，寄生虫学）の基礎的な内容について保健衛生学科の看護学専攻および検査技術学専攻の学生（2年生）に対して講義により教授している。病原体検査学 (II) は，検査技術学専攻の学生（3年生）に対して，感染症の原因微生物の検出法，薬剤感受性試験，病原微生物の疫学的解析法などについて教授している。そのほとんどを実習時間とし，医学微生物学について実習を通して理解させるように心がけている。

(3) 臨床活動および学外活動

医学部附属病院において，窪田は膠原病・リウマチ内科の診療に，齋藤，谷は感染制御部の活動に参画している。齋藤，谷は東京医科歯科大学の海外活動拠点の一つであるガーナ大学における感染制御活動にも参画している。

(4) 研究業績

[原著]

1. Saho Koyano, Keita Tatsuno, Mitsuhiro Okazaki, Kiyofumi Ohkusu, Takashi Sasaki, Ryoichi Saito, Shu Okugawa, Kyoji Moriya. A Case of Liver Abscess with *Desulfovibrio desulfuricans* Bacteremia. Case Rep Infect Dis. 2015; 2015; 354168

2. Takahiro Kameda, Ryunosuke Ohkawa, Kouji Yano, Yoko Usami, Akari Miyazaki, Kazuyuki Matsuda, Kenji Kawasaki, Mitsutoshi Sugano, Tetsuo Kubota, Minoru Tozuka. Effects of Myeloperoxidase-Induced Oxidation on Antiatherogenic Functions of High-Density Lipoprotein. *J Lipids*. 2015; 2015; 592594
3. Kato Y, Yokoyama U, Yanai C, Ishige R, Kurotaki D, Unemura M, Fujita T, Kubota T, Okumura S, Sata M, Tamura T, Ishikawa Y.. Epac1 deficiency attenuated vascular smooth muscle cell migration and neointimal formation. *Arterioscler Thromb Vasc Biol*. 2015; 35; 2617-2625
4. Ryoichi Saito, Saho Koyano, Misato Dorin, Yoshimi Higurashi, Yoshiki Misawa, Noriyuki Nagano, Takamasa Kaneko, Kyoji Moriya. Evaluation of a simple phenotypic method for the detection of carbapenemase-producing Enterobacteriaceae. *J. Microbiol. Methods*. 2015.01; 108; 45-48
5. Kuwata Yusuke, Tanimoto Shina, Sawabe Etsuko, Shima Mari, Takahashi Yutaka, Ushizawa Hiroto, Fujie Toshihide, Koike Ryuji, Tojo Naoko, Kubota Tetsuo, Saito Ryoichi. Molecular epidemiology and antimicrobial susceptibility of *Clostridium difficile* isolated from a university teaching hospital in Japan. *Eur J Clin Microbiol Infect Dis*. 2015.04; 34(4); 763-772
6. Ogihara Shinji, Ryoichi Saito, Teru Akikura, Akiko Iwama, Yukari Adachi, Daiki Kaji, Kyoka Kakinuma, Hiroshi Takahashi. Characterization of Mucoid and Non-Mucoid *Streptococcus pneumoniae* Isolated From Outpatients *Ann Lab Med*. 2015.05; 35; 1-6
7. Ayako Kasai, Shinji Ogihara, Kageto Yamada, Yumiko Tanimichi, Hiroyuki Nishiyama, Ryoichi Saito. Prevalence and molecular analysis of macrolide-resistant *Moraxella catarrhalis* clinical isolates in Japan, following emergence of the highly macrolide-resistant strain NSH1 in 2011. *J. Med. Microbiol.* 2015.07; 64(7); 708-713
8. Ryoichi Saito, Ayako Kasai, Shinji Ogihara, Kageto Yamada, Kazuyuki Tao. Rapid assay of A2058T-mutated 23S rRNA allelic profiles associated with high-level macrolide resistance in *Moraxella catarrhalis*. *J. Med. Microbiol.* 2015.09; 64(9); 990-992
9. Saito R, Mihar Y, Matsuoka S, Nonaka S, Fujinami Y, Okamura N. The outer membrane protein CD is associated with resistance to penicillins in *Moraxella catarrhalis* *Journal of Global Antimicrobial Resistance*. 2015.09; 3(3); 224-225
10. Takahito Nei, Kazunari Sonobe, Asaka Onodera, Toshikazu Itabashi, Hiroki Yamaguchi, Miho Maeda, Ryoichi Saito. Two cases with bacteremia suspected to be due to relatively rare *Pseudomonas* (*Flavimonas*) *oryzihabitans*. *J. Infect. Chemother.* 2015.10; 21(10); 751-755
11. Takahito Nei, Akiko Sato, Kazunari Sonobe, Yoshihiko Miura, Kenji Takahashi, Ryoichi Saito. *Streptobacillus moniliformis* bacteremia in a rheumatoid arthritis patient without a rat bite: a case report. *BMC Res Notes*. 2015.11; 8(1); 694
12. 梶 亜希子, 齋藤良一, 三隅順子, 大久保功子. 家庭用冷蔵庫保存における冷蔵母乳の安全性の研究～細菌数の経日的変化を指標に～ 小児保健研究. 2015.11; 74(6); 871-877
13. Yuko Kato, Utako Yokoyama, Chiharu Yanai, Rina Ishige, Daisuke Kurotaki, Masanari Umemura, Takayuki Fujita, Tetsuo Kubota, Satoshi Okumura, Masataka Sata, Tomohiko Tamura, Yoshihiro Ishikawa. Epac1 Deficiency Attenuated Vascular Smooth Muscle Cell Migration and Neointimal Formation Arteriosclerosis, thrombosis, and vascular biology..

[総説]

1. 齋藤 良一. 【感染症診断の新たなツール】 病原体検出の実例 百日咳 化学療法の領域. 2015.04; 31(増刊); 1004-1012
2. 齋藤良一. 【百日咳の予防、病原体および実験室診断について】 【百日咳の予防、病原体および実験室診断について】 東京都医学検査. 2015.06; 43(2); 103-108

[講演・口頭発表等]

1. 齋藤良一, 児矢野早穂, 道林美里, 日暮芳己, 三澤慶樹, 長野則之, 金子孝昌, 森屋恭爾. カルバペネマーゼ産生腸内細菌科検出用ディスクの有用性の評価. 第 26 回日本日本臨床微生物学会総会 2015.01.31 東京
2. 桑田祐輔, 上市裕子, 笠井彩子, 澤辺悦子, 東條尚子, 谷本詩奈, 島 眞理, 小野和代, 高橋 裕, 牛澤洋人, 藤江俊秀, 小池竜司, 齋藤良一. 当院の *Clostridium difficile* における分子疫学解析と薬剤感受性成績. 第 26 回日本日本臨床微生物学会総会 2015.01.31 東京
3. 笠井彩子, 野中将太郎, 上市裕子, 桑田祐輔, 荻原真二, 山田景子, 谷道由美子, 西山宏幸, 齋藤良一. マクロライド系抗菌薬耐性 *Moraxella catarrhalis* の分離率とその耐性機構の解析. 第 26 回日本日本臨床微生物学会総会 2015.01.31 東京
4. 小池竜司, 藤江俊秀, 島 眞理, 小野和代, 高橋 裕, 齋藤良一, 相曽啓史. 簡易な支持的抗菌薬管理プログラムの有用性と経済性の検討 (第一報). 第 31 回日本環境感染学会総会 2015.02.19 京都
5. 小池竜司, 藤江俊秀, 齋藤良一, 牛澤洋人. 当院における侵襲性インフルエンザ菌感染症の後方視的検討. 第 89 回日本感染症学会総会学術講演会 2015.04.16 京都
6. 根井貴仁, 園部一成, 望月 徹, 齋藤良一. 明らかな鼠咬事例のない *Streptobacillus moniliformis* 感染症の一例. 第 89 回日本感染症学会総会学術講演会 2015.04.16 京都
7. 齋藤良一. 感染症完全制覇～微生物から疾患へのアプローチ～グラム陽性桿菌. 東京都微生物検査研究班研修会 2015.09.17 東京
8. Mihoko Ikeda, Miyuki Mizoguchi, Keita Tatsuno, Ryoichi Saito, Shu Okugawa, Kyoji Moriya. Clinical and Microbiological Characteristics of *Klebsiella pneumoniae* Pneumonia and Urinary Tract Infection in Japan. 55th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy 2015.09.17 San Diego, SF, USA
9. 酒井達也, 永井志保里, 山本聡美, 溝江亜紀子, 小堀隆寛, 齋藤良一, 荻原真二. ER-ICU における環境培養結果に基づいた看護ケアの改善. 第 17 回 日本救急看護学会学術集会 2015.10.16 佐賀
10. 大野宏枝, 和知野純一, 齋藤良一, 山田景子, 木村幸司, 荒川宜親. *Campylobacter jejuni* におけるマクロライド耐性機構の解析. 第 52 回日本細菌学会中部支部総会 2015.10.23 愛知
11. 大野宏枝, 和知野純一, 齋藤良一, 山田景子, 木村幸司, 荒川宜親. *Campylobacter jejuni* におけるマクロライド耐性機構の解析. 第 44 回薬剤耐性菌研究会 2015.10.29 宮城
12. 窪田哲朗, 田上千絵, 大野愛, 新木春香, 井上久美, 加藤優子. 抗 DNA 抗体は細胞内に取り込まれて病態形成に関わる可能性がある. 第 62 回日本臨床検査医学会 2015.11.21 岐阜
13. 窪田 哲朗, 田上 千絵, 大野 愛, 新木 春香, 井上 久美, 加藤 優子. 抗 DNA 抗体は細胞内に取り込まれて病態形成に関わる可能性がある.

[受賞]

1. 齋藤良一, 第 17 回福岡研究奨励賞 (感染制御部員), 東京医科歯科大学医科同窓会, 2015 年 02 月

[その他業績]

1. 齋藤良一, 臨床と環境分離 *Clostridium difficile* の細菌学および遺伝学的特徴とそれを利用した感染対策システムの構築, 2015 年 02 月
公益信託臨床検査医学研究振興基, 平成 26 年度研究奨励金, 研究代表者.
2. 齋藤良一, 西アフリカの研究拠点を活用した感染症研究・対策ネットワークの構築, 2015 年 04 月
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED), 研究分担者.
3. 齋藤良一, 冷蔵保存した母乳の食品としての安全性について, 2015 年 04 月
科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究, 平成 26 年度～平成 27 年度, 研究分担者.

[社会貢献活動]

1. 窪田哲朗, 東京医科歯科大学評価副理事 , 2014 年 10 月 01 日 - 現在
2. 窪田哲朗, 日本リウマチ学会 評議員, 指導医
3. 窪田哲朗, 日本臨床検査医学会 評議員
4. 窪田哲朗, 日本臨床検査学教育学会 評議員
5. 窪田哲朗, 日本臨床免疫学会 評議員
6. 窪田哲朗, 日本内科学会 認定医
7. 窪田哲朗, American College of Rheumatology 国際会員
8. 齋藤良一, 日本臨床微生物学会 評議員
9. 齋藤良一, 東京都臨床検査技師会 幹事
10. 齋藤良一, 日本臨床衛生検査技師会 染色体・遺伝子部門員
11. 齋藤良一, 日本臨床検査同学院 臨床検査士試験委員
12. 齋藤良一, 認定臨床微生物検査技師制度 試験委員
13. 体験型市民講座「健康寿命を延ばす健康チェック」(加藤優子), 東京医科歯科大学
14. お茶の水会 検査・看護合同同窓会 (加藤優子), お茶の水会 検査・看護合同同窓会

分子病態検査学

Molecular Pathology

教 授	沢辺 元司
助 教	副島 友莉恵
大学院生 (博士)	矢野 哲也 相原 珠美 椋 清美 堀口 絢奈
大学院生 (修士)	梅森 宮加 表谷 文美芳 中村 信之 木下 真由美 辰巳 暁哉 宮田 佳奈
事務補佐員	中川 美央

(1) 分野概要

病理学は疾病の本態を解明する、基礎と臨床の両者にまたがった医学、医療の基本となる学問である。病理検査学は、組織診、細胞診、免疫組織化学、電子顕微鏡、遺伝子検査等さまざまな検査・診断法により、より質の高い病理診断へと繋げる役割を担う学問である。本分野では病理学と病理検査学の両方の側面から疾病の本態を深く探求している。

(2) 研究活動

本分野では病因・病態を考察、解明し、更には診断に寄与し得るような検査法の理論や手法を探究、開発するため以下の研究を行っている。

1. 動脈老化の臨床病理学的解析およびプロテオーム解析による加齢に伴う大動脈中膜構成成分の検討
2. 心臓刺激伝導系の臨床免疫組織化学的検討
3. 心血管疾患の全ゲノム関連解析（エクソン領域の検討）
4. 肝内胆管癌の免疫組織化学的解析

(3) 教育活動

学部では、病理検査学講義、病理検査学実習（検査技術学専攻）、病理学（看護学専攻）で基本的な疾病病変の病因・病態を学ぶ。

大学院では、より高度な病理専門技術と国際的な広い視野で分子病理学的検査の理論や方法を探究、開発、体系化することを目的として教育・研究を行っている。

(4) 教育方針

学際的・国際的な視野に立ち、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、自己問題提起・解決型、生涯発展型の思考能力をもった医療人を養成すべく以下のような教育を行っている。

1) 学部教育

検査技術学専攻と看護学専攻の2年生に対して病理学・病理検査学の総論では疾病病変の共通の変化、病態の本質、その成因を系統的に論じ、検査技術学専攻では更に病理検査学各論として主な疾病についてその臓器変化、成因を講義している。

検査技術学専攻の2年生には、病理検査学実習において臓器の肉眼観察、基本的な標本作製、観察に加えて、各種特殊染色法、免疫組織化学的検査法、細胞診検査法、凍結切片作製法などの疾病の診断、病因・病態の解明に寄与しうような病理学的検査法の実習が組まれている。

その他、看護学専攻2年生に対して専門基礎合同演習の一環として病理解剖肉眼観察実習、検査技術学専攻4年生に対して卒業研究として研究の進め方や論文のまとめ方など研究報告の基本を学ぶ特論、臨地実習として医学部附属病院病理部において病理検査実習が実施されている。なお、以上の講義、実習は医学科及び他施設の協力のもとに行われている。

2) 大学院教育

博士(前期)課程においては、疾病、特に老年疾患の成因・病態、病理像(肉眼的、組織学的、細胞学的及び分子病理学的)を深く追求、理解し疾病の本態を考察する。更に、病因・病態の解明や診断に有用な病理学的検査法(免疫組織化学的検査、電子顕微鏡検査、画像解析など)の理論や手法を学び、また、実践の場における検査管理や問題解決能力をも修得させる。各種研究会や学会などにも参加し病理学・病理検査学領域における国際的、学際的な研究の現況や展望などについても学んで行く。以上の課程を通して修士論文としての特別研究を完成し、基礎的な研究能力を修得させている。

また、博士(後期)課程では、国際的にも通用する自立した研究能力が修得できるように、より高度な教育と研究指導、および医学英語学習を行っている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yamada, M. and Sato, N. and Ikeda, S. and Arai, T. and Sawabe, M. and Mori, S. and Yamada, Y. and Muramatsu, M. and Tanaka, M.. Association of the chromodomain helicase DNA-binding protein 4 (CHD4) missense variation p.D140E with cancer: Potential interaction with smoking Genes, chromosomes & cancer. 2015; 54(2); 122-128
2. Yoshihisa Takahashi, Keiichiro Sugimoto, Yurie Soejima, Arisa Kumagai, Tatsuki Koeda, Aiko Shoji, Kazuya Nakagawa, Naoki Harada, Ryoichi Yamaji, Hiroshi Inui, Toshikazu Yamanouchi, Toshio Fukusato. Inhibitory effects of eucalyptus and banana leaf extracts on nonalcoholic steatohepatitis induced by a high-fructose/high-glucose diet in rats. Biomed Res Int. 2015; 2015; 296207
3. Kimura, Y. and Makino, N. and Sawabe, M. and Kitamura, K.. Histopathologic findings of an aberrant internal carotid artery in the temporal bone with fatal complication Otolaryngology & neurotology : official publication of the American Otological Society, American Neurotology Society [and] European Academy of Otolaryngology and Neurotology. 2015; 36(9); e150-e152
4. Nishizawa, D. and Kasai, S. and Hasegawa, J. and Sato, N. and Yamada, H. and Tanioka, F. and Nagashima, M. and Katoh, R. and Satoh, Y. and Tagami, M. and Ujiike, H. and Ozaki, N. and Inada, T. and Iwata, N. and Sora, I. and Iyo, M. and Yamada, M. and Kondo, N. and Won, M. J. and Naruse, N. and Uehara-Aoyama, K. and Itokawa, M. and Ohi, K. and Hashimoto, R. and Tanisawa, K. and Arai, T. and Mori, S. and Sawabe, M. and Naka-Mieno, M. and Yamada, Y. and Muramatsu, M. and Tanaka, M. and Irukayama-Tomobe, Y. and Saito, Y. C. and Sakurai, T. and Hayashida, M. and Sugimura, H. and Ikeda, K.. Associations between the orexin (hypocretin) receptor 2 gene polymorphism Val308Ile and nicotine dependence in genome-wide and subsequent association studies Molecular brain. 2015; 8; 50
5. Sasaki, T. and Calkins, H. and Miller, C. F. and Zviman, M. M. and Zipunnikov, V. and Arai, T. and Sawabe, M. and Terashima, M. and Marine, J. E. and Berger, R. D. and Nazarian, S. and Zimmerman, S. L.. New insight into scar-related ventricular tachycardia circuits in ischemic cardiomyopathy: Fat

- deposition after myocardial infarction on computed tomography—A pilot study Heart rhythm : the official journal of the Heart Rhythm Society. 2015; 12(7); 1508-1518
6. Takahashi, K. and Sasano, T. and Sugiyama, K. and Kurokawa, J. and Tamura, N. and Soejima, Y. and Sawabe, M. and Isobe, M. and Furukawa, T.. High-fat diet increases vulnerability to atrial arrhythmia by conduction disturbance via miR-27b Journal of molecular and cellular cardiology. 2015; 90; 38-46
 7. Umezawa, T. and Umemori, M. and Horiguchi, A. and Nomura, K. and Takahashi, H. and Yamada, K. and Ochiai, K. and Okamoto, A. and Ikegami, M. and Sawabe, M.. Cytological variations and typical diagnostic features of endocervical adenocarcinoma in situ: A retrospective study of 74 cases CytoJournal. 2015; 12; 8
 8. Zhou, H. and Mori, S. and Tanaka, M. and Sawabe, M. and Arai, T. and Muramatsu, M. and Mieno, M. N. and Shinkai, S. and Yamada, Y. and Miyachi, M. and Murakami, H. and Sanada, K. and Ito, H.. A missense single nucleotide polymorphism, V114I of the Werner syndrome gene, is associated with risk of osteoporosis and femoral fracture in the Japanese population Journal of bone and mineral metabolism. 2015; 33(6); 694-700
 9. 藤城 礼, 田村 直, 村岡 威士, 沢辺 元司. 虫垂腺腫による壁破壊を認めた急性穿孔性虫垂炎の1例 外科. 2015.03; 77(3); 343-345
 10. 堀口絢奈, 梅澤敬, 梅森宮加, 土屋幸子, 石橋智美, 副島友莉恵, 沢辺元司, 清川貴子, 池上雅博, 鷹橋浩幸. 内視鏡的逆行性胆管膵管造影下ブラシ細胞診における BD シュアパス液状化細胞診の診断精度と標本適否の検討 日本臨床細胞学会雑誌. 2015.07; 54(4); 238-243
 11. Yukihiro Sanada, Koichi Mizuta, Toshiro Niki, Masahisa Tashiro, Yuta Hirata, Noriki Okada, Naoya Yamada, Yoshiyuki Ihara, Taizen Urahashi, Yurie Soejima, Toshio Fukusato, Fukuo Kondo. Hepatocellular nodules resulting from congenital extrahepatic portosystemic shunts can differentiate into potentially malignant hepatocellular adenomas. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015.10; 22(10); 746-756
 12. Toshio Fukusato, Yurie Soejima, Fukuo Kondo, Masafumi Inoue, Masato Watanabe, Yoshihisa Takahashi, Tatsuya Aso, Hiroshi Uozaki, Keiji Sano, Yukihiro Sanada, Toshiro Niki. Preserved or enhanced OATP1B3 expression in hepatocellular adenoma subtypes with nuclear accumulation of β -catenin. Hepatol. Res.. 2015.10; 45(10); E32-E42

[講演・口頭発表等]

1. 吉田 敦, 板倉 泰朋, 増田 義重, 新井 富生, 稲松 孝思, 森 聖二郎, 沢辺 元司, 村松 正明, 田中 雅嗣. 剖検例のゲノム解析からみた C.difficile の疾患感受性遺伝子の検討. 第 45 回日本嫌気性菌感染症学会総会 2015.02.27 東京
2. 高橋芳久, 杉本圭一郎, 副島友莉恵, 熊谷有紗, 小枝立樹, 原田直樹, 山地亮一, 乾博, 山内俊一, 福里利夫. 高フルクトース/高グルコース食負荷ラットの NASH 病変に対するユーカリ及びバナバ葉抽出物の抑制効果. 第 104 回日本病理学会総会 2015.04.30 名古屋
3. 斉藤光次, 近藤福雄, 福里利夫, 東海林琢雄, 石田毅, 笹島ゆう子, 副島友莉恵, 池田豊, 佐野圭二. 良性肝細胞結節の病理診断と問題点 ～限局性結節性過形成、肝細胞腺腫、境界病変～. 第 104 回日本病理学会総会 2015.04.30 名古屋
4. 副島友莉恵, 井上雅文, 近藤福雄, 高橋芳久, 藤井丈士, 沢辺元司, 福里利夫. 病理組織学および形態計測的解析による肝内胆管腺腫と細胆管細胞癌の鑑別診断. 第 104 回日本病理学会総会 2015.04.30 名古屋
5. 井上 誠, 小笠原 洋子, 沢辺 元司. HCC(破裂後) 摘出標本と水浸法超音波画像を対比する. 第 88 回超音波医学学術集会 2015.05.23 東京
6. 谷澤 薫平, 新井 康通, 広瀬 信義, 村松 正明, 沢辺 元司, 下方 浩史, 森 聖二郎, 新井 富生, 田中 雅嗣. 百寿者における全エクソン領域関連解析 長寿に関連する機能的変異の探索. 第 38 回日本基礎老化学会大会 2015.06.12 横浜
7. 沢辺 元司, 濱松 晶彦, 千田 宏司. 循環器系の老化と骨化 骨粗鬆症と心不全の不思議な関係 循環器系臓器の老化と石灰化の病理. 第 57 回日本老年医学会総会 2015.06.13 横浜
8. 前田 裕子, 佐藤 憲子, 三重野 牧子, 田中 雅嗣, 村松 正明, 新井 富生, 沢辺 元司. 高齢者連続剖検例における腹部大動脈瘤のエクソーム塩基変異の網羅的解析. 第 57 回日本老年医学会総会 2015.06.13 横浜

9. 津元 裕樹, 岩本 真知子, 兼平 茜, 副島 友莉恵, 新井 富生, 濱松 晶彦, 遠藤 玉夫, 沢辺 元司, 三浦 ゆり. ヒト大動脈中膜の老化プロテオミクス. 第 57 回日本老年医学会総会 2015.06.13 横浜
10. 椋 清美, 遠藤 隆, 伊佐 わかな, 村田 行則, 笠原 一郎, 遠藤 久子, 吉見 直己, 沢辺 元司. ラオス国の病理検査の現状と課題 NPO 法人ラオスの病理を支援する会の活動から. 第 56 回日本臨床細胞学会総会 2015.06.13 松江
11. 谷澤 薫平 (早稲田大学 スポーツ科学), 新井 康通, 広瀬 信義, 村松 正明, 沢辺 元司, 下方 浩史, 森 聖二郎, 新井 富生, 田中 雅嗣. 百寿者における全エクソン領域関連解析 長寿に関する機能的多型の探索. 第 57 回日本老年医学会総会 2015.06.13 横浜
12. 表谷 文美芳, 沢辺 元司. 大動脈平滑筋細胞 筋収縮タンパク質の加齢性変化. 第 47 回日本動脈硬化学会総会 2015.07.09 仙台
13. 近藤福雄, 池田豊, 石田毅, 東海林琢男, 斉藤光次, 笹島ゆう子, 熊谷有紗, 副島友莉恵, 佐野圭二, 宇崎崎宏, 福里利夫. 細胆管細胞癌と肝細胞癌の幹細胞マーカーの免疫組織化学的研究. 第 51 回日本肝癌研究会 2015.07.23 神戸
14. 斉藤光次, 近藤福雄, 福里利夫, 東海林琢雄, 石田毅, 笹島ゆう子, 副島友莉恵, 池田豊, 佐野圭二. 良性肝細胞結節の病理診断と問題点 ～限局性結節性過形成、肝細胞腺腫、境界病変～. 第 51 回日本肝癌研究会 2015.07.23 神戸
15. 本間達, 沢辺元司, 戸塚実, 副島友莉恵, 大川龍之介. 就職支援のための求人票データの分析. 第 10 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2015.08.19 松本市
16. 副島友莉恵, 福里利夫, 近藤福雄, 井上雅文, 佐野圭二, 眞田幸弘, 仁木利郎. 肝細胞腺腫亜型の臨床的および病理学的特徴. 第 52 回肝癌症例検討会 2015.11.07 東京

[その他業績]

1. 副島友莉恵, 「細胆管癌および肝内胆管癌の腫瘍発生に関わるインテグリン β 4, β 6 の発現と機能解析」, 科学研究費助成金 (若手研究 B), 平成 27 ～ 29 年度, 研究代表者

先端血液検査学

Laboratory Molecular Genetics of Hematology

准教授 小山高敏

大学院生

博士前期 大橋彩香, 柴山春奈, 津中美紗恵

博士後期 橋本志歩

(1) 分野概要

学部では、臨床血液検査学、臨床病態学、臨地実習、系統講義血液・腫瘍（医学科）、臨地実習クルズス（医学科）、病態学（看護学専攻）を担当する。血球の産生機構・形態・機能、止血・凝固線溶機構、代表的な血液疾患の病態や臨床像の講義とともに基本的な血液検査の実習を行っている。

大学院では、血液学的、分子遺伝学的手法を駆使し、疾患の早期診断、治療・予防、病態解析に貢献するような分子・遺伝子検査の応用力を身につける。特に、臨床的観察や検査に根ざし、臨床に還元できる研究を行っている。

(2) 研究活動

- 1) 血液疾患を中心とした分子・遺伝子学的異常の病態解析とその検査・治療への応用
- 2) 血液凝固・線溶調節機序の解析とその検査・治療への応用
- 3) 遺伝子異常によるタンパク質欠乏症における細胞内異常蛋白輸送障害の解析
- 4) EB ウイルスが関与する血液疾患の病態

(3) 教育活動

A 学部教育

臨床血液検査学、臨床病態学、系統講義血液・腫瘍（医学科）、臨地実習クルズス（医学科）、病態学（看護学専攻）を担当する。血球の産生機構・形態・機能、止血・凝固線溶機構、代表的な血液疾患の病態や臨床像の講義とともに基本的な血液検査の実習を行っている。

その他、研究の進め方や論文のまとめ方など研究報告の基本を学ぶ特論（卒業研究）並びに血液検査の実習として医学部附属病院検査部、血液検査機器会社の協力のもと臨地実習が実施されている。なお、以上の講義、実習は医学部附属病院血液検査部、血液内科、小児科の協力のもとに行われている。

B 大学院教育

本科目では、血液学的、分子遺伝学的手法を駆使し、疾患の早期診断、治療・予防、病態解析に貢献するような分子・遺伝子検査の応用力を身につける。特に、臨床的観察や検査に根ざし、臨床に還元できる研究を行っている。

研究内容は、必ず英語論文にまとめ、その成果を世界に発信できるように指導する。

具体的な教育内容は、

- 1) 疾病、特に血液・血管疾患の成因、病態を深く追求、理解し、疾病の本態を考察する。
- 2) 病因、病態の解明や診断に役立つ細胞・分子・遺伝子検査、分子・遺伝子レベルの情報伝達解明の分子生物学的実験技法、血液学的検査法の理論や技術を習得する。
- 3) 血液病学、血液検査学領域における研究の動向や方法を習得する。
- 4) 国内外の学会及び主要国際学術誌に血液検査学、臨床血液病学に関連する研究を発表し、自立して研究できる

ように、かつ国際的学際的研究のリーダーとしての能力を習得できるようにする。英語論文の読み方、作成セミナーも行う。

研究及び教育は、学内の血液内科、小児科、臨床検査医学及び北里大学内分泌代謝内科、国立成育医療研究センター研究所高度先進医療研究室、ドイツのユストウス・リービッヒ（ギーセン）大学生化学教室などの協力も得て行っている。

（４）教育方針

学際的、国際的な視野に立ち、豊かな人間性と高い倫理観を備え、自己で問題を提起、解決し、生涯発展を続ける医療人を養成する。

（５）臨床活動および学外活動

臨床：血液内科・一般内科診療及び教育・指導

（６）臨床上の特色

血液内科・一般内科診療及び指導：血栓止血異常症では、学内外から紹介が多い。

（７）研究業績

[原著]

1. H Takedani, M Shima, Y Horikoshi, T Koyama, K Fukutake, M Kuwahara, N Ishiguro. Ten-year experience of recombinant activated factor VII use in surgical patients with congenital haemophilia with inhibitors or acquired haemophilia in Japan. *Haemophilia*. 2015.05; 21(3); 374-379
2. Emi Uchida, Ken Watanabe, Reina Arai, Masahide Yamamoto, Masayoshi Souri, Tsukasa Osaki, Akitada Ichinose, Osamu Miura, Takatoshi Koyama. Autoimmune Hemorrhaphilia Resulting from Autoantibody against the A Subunit of Factor XIII. *Intern. Med.*. 2015.09; 54(18); 2383-2387
3. Yoshimori M, Takada H, Imadome K, Kurata M, Yamamoto K, Koyama T, Shimizu N, Fujiwara S, Miura O, Arai A.. P-glycoprotein is expressed and causes resistance to chemotherapy in EBV-positive T-cell lymphoproliferative diseases. *Cancer Medicine*. 2015.10; 4(10); 1494-1504

[書籍等出版物]

1. 小山高敏 日本臨床検査学教育協議会 編. 臨床検査技師国家試験問題集 2016 年版. 医歯薬出版, 東京, 2015.05

[講演・口頭発表等]

1. 小松穂菜実、今留謙一、柴山春奈、矢田知隆、山田桃子、山本浩平、小山高敏、藤原成悦、三浦修、新井文子. EBV 陽性 T,NK リンパ増殖症における STAT3 の恒常的活性化とその意義. 第 24 回 EBV 感染症研究会 2015.03.15 東京
2. Tsunaka M, Arai R, Ohashi A, Koyama T. Activation of coagulation by antineoplastic drugs for lymphoid tumors. The XXVth Congress of the International Society of Thrombosis and Haemostasis, Toronto, Canada. 2015.06.22
3. Ohashi A, Cho Y, Ichinose S, Hoshi O, Koyama T. Analysis of the expression and localization of RNase and RNase inhibitor in blood cells and vascular endothelial cells involved in homeostasis in the vascular system. The XXVth Congress of the International Society of Thrombosis and Haemostasis, Toronto, Canada. 2015.06.23
4. 橋本志歩, 加藤和江, 盛山芳恵, 中島文明, 柏瀬貢一, 石井博之, 田中秀則, 今西規, 徳永勝士, 小山高敏, 坂本恒夫, 高梨美乃子, 田所憲治. 骨髄バンクドナー登録者の HLA DNA 型の分布調査について. 第 24 回日本組織適合性学会大会 2015.09.11 水戸

5. 露崎亜美, 前田慶子, 鵜澤成一, 小山高敏, 原田清. 出血性素因を主徴とする疾患を有する患者に抜歯を行った5例. 第25回口腔内科学会学術大会 2015.09.19 大阪
6. Ohashi A, Cho Y, Ichinose S, Hoshi O, Koyama T. Expression and localization of RNase and its inhibitor in blood cells and vascular endothelial cells. 第77回日本血液学会総会 2015.10.16 金沢
7. Saito T, Mukae J, Nakamura Y, Nogami K, Koyama T, Yamamoto K. Cross-reacting material-positive hemophilia A diagnosed with spontaneous thigh hemorrhage. 第77回日本血液学会総会 2015.10.17 金沢
8. Watanabe K, Uchida E, Yasuda S, Hirose C, Sakashita C, Oshikawa G, Yamamoto M, Kurosu T, Arai A, Murakami N, Touda S, Koyama T, Miura O, Fukuda T. Short chemotherapy prior to 90Y-ibritumomab tiuxetan for relapsed FL in a single institution. 第77回日本血液学会総会 2015.10.18 金沢

[その他業績]

1. アラームシグナル細胞外RNAの制御による血管恒常性維持, 2015年04月
平成27年度科学研究費基盤研究C(代表)
2. NHK テレビ 地球ドラマチック「血液の不思議」, 2015年08月
私たちの命を支える血液。最先端のボディースキャンを使って血管を視覚化するとともに、ドラキュラ伝説と幹細胞による若返り効果の関係性を紹介。その驚異の力に迫る。(小山高敏 監修: 英国BBC 2015)

[社会貢献活動]

1. 日本内科学会認定内科医, 総合内科専門医, 指導医, 1991年 - 現在
2. 日本血液学会専門医, 指導医, 1992年 - 現在
3. 日本血液学会 評議員, 1999年 - 現在
4. 臨床検査技師国家試験模擬試験問題作成・編集. 臨床血液学・臨床病態学, 医歯薬出版, 1999年 - 現在
5. 日本血栓止血学会 評議員, 2000年 - 現在
6. 日本検査血液学会 評議員, 及び認定血液検査技師制度委員会審議会委員, 2000年 - 現在
7. 大学院保健衛生学研究科生体検査科学専攻主催体験型公開講座の企画・運営, 2002年 - 現在

先端生体分子分析学

Advanced Analytical Chemistry

笠間健嗣（准教授）

（１） 分野概要

当分野は教育研究協力分野です。本拠は研究・産学連携推進機構・医歯学研究支援センター機器分析部門（８号館南１階）です。生体検査科学の教育・研究に必要な機器分析についての講義を担当しています。講義は前期課程が、先端生体分子分析学特論 A と先端生体分子分析学実験 A、後期課程は先端生体分子分析学特論です。講義では、臨床検査を学ぶ上で知っておいた方がよい化学の基礎知識や機器分析の基礎知識をベースに、検査科学の研究で有用な、タンパク質の超微量分析に有効な質量分析法を教えています。先端生体分子分析学分野としての研究活動は行っていない。本務の医歯学研究支援センター機器分析部門ではクロマトグラフィーや質量分析を活用して、学内研究の親身なサポートを目指して活動しています。

（２） 研究活動

1. 生体関連化合物の構造解析
2. プロテオーム解析のための質量分析法の技術的研究
3. 先天性ステロール代謝異常の分析とその機器分析診断技術の開発

（３） 教育活動

【大学院】

先端生体分子分析学特論 A

先端生体分子分析学実験 A

先端生体分子分析学特論

【学部】

機器分析

（４） 教育方針

１）学部教育

臨床検査学の基礎となるもののひとつは化学である。生命現象の本質を突きつめていけば、そこにあるのは化学反応である。生体が発する情報を収集・解析し、その中で起こっている現象を解明し理解するのが臨床検査学であるとするならば、化学を学ぶことの必要性は明らかである。その化学の基礎をより確かな知識として理解し、臨床検査学の学習に役立てることを目標としている。

２）大学院教育

近年、生命科学領域の研究における高度な機器分析技術の必要性は増大しており、原子レベルから組織レベルまで幅広い対象に応用されている。先端技術を駆使したこれらの機器を使い目的の成果を得て詳細な解析を行うには、機器分析の知識の修得が重要となる。また、最近の生命科学は一部に現象論的研究から物質論的研究へと再帰する傾向がある。この動向を踏まえれば、目的成分の単離精製に不可欠なクロマトグラフィー技術や、分子レベルでの構造解析技術の修得は今後の研究活動に大きく寄与するものと考えられる。このような観点から、最近よく行われるようになったプロテオーム解析を機器分析技術の一つとして例示しながら、生命科学領域における機器分析について理解できるようにすることを目標としている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yamashita Yoshiaki, Mutoh Yuichiro, Yamasaki Ryu, Kasama Takeshi, Saito Shinichi. Synthesis of [3] Rotaxanes that Utilize the Catalytic Activity of a Macrocyclic Phenanthroline-Cu Complex: Remarkable Effect of the Length of the Axle Precursor CHEMISTRY-A EUROPEAN JOURNAL. 2015.01; 21(5); 2139-2145
2. 田村 麻由子, 真船 亮, 安戸 裕貴, 下田 木の実, 磯島 豪, 笠間 健嗣, 高橋 尚人, 北中 幸子, 岡 明. 性分化疾患から早期診断しコレステロール治療を行った Smith-Lemli-Opitz 症候群の 1 例 日本小児科学会雑誌. 2015.02; 119(2); 448
3. Hayashi Ryuto, Mutoh Yuichiro, Kasama Takeshi, Saito Shinichi. Synthesis of [3] Rotaxanes by the Combination of Copper-Mediated Coupling Reaction and Metal-Template Approach JOURNAL OF ORGANIC CHEMISTRY. 2015.08; 80(15); 7536-7546
4. Saito Shinichi, Ohkubo Takanori, Yamazaki Yukari, Yokoyama Tatsuyuki, Mutoh Yuichiro, Yamasaki Ryu, Kasama Takeshi. A Macrocyclic Phenanthroline-Copper Complex with Less Steric Hindrance: Synthesis, Structure, and Application to the Synthesis of a [2] Rotaxane BULLETIN OF THE CHEMICAL SOCIETY OF JAPAN. 2015.09; 88(9); 1323-1330
5. Saito Shinichi, Hirano Yoshihiro, Mutoh Yuichiro, Kasama Takeshi. Synthesis of a Homochiral [2] Rotaxane from a BINOL-derived Macrocyclic Phenanthroline CHEMISTRY LETTERS. 2015.11; 44(11); 1509-1511

Ⅲ. 平成27年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

平成27年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士（看護学）55名

	氏 名	論 文 題 目
1	岡 野 文 香	発達障がい児をもつ両親を支援するうえで専門職が感じる困難と今後の課題
2	加 栗 奈 菜	看護学生の、入院患児の家族への行動に対する必要意識を実際の行動
3	金 牧 有 希	母親が慢性疾患児とそのきょうだいを育てる上で感じる困難とその支援ニーズ
4	田 中 美 佳	幼児期の子どもの検査・処置におけるディストラクションの実態と看護師の認識
5	福 田 奈 穂	小児がんと診断されて間もない子どもを持つ母親への病棟看護師の介入と抱える困難
6	山 下 里 菜	ADHDの学童期の児をもつ母親の育児における心理的状況
7	青 木 麻 衣	離島での住民同士の繋がりを活かした保健活動
8	市 川 晶 子	長期入院を余儀なくされた児童・生徒の復学支援における課題
9	河 瀬 温 子	労働者のメンタルヘルス対策におけるうつを二次予防に関わる産業保健師の活動
10	永 山 杏 樹	子育て中の統合失調症の母親に対する支援における保健師の役割
11	松 本 沙 織	認知症高齢者のサポート活動を行う地域住民の意識と活動
12	横 山 奈 央	小中学生が発するSOSサインの特徴と養護教諭ができる対応
13	梶 原 維 子	看護学生と医学生の便秘に対する認識について
14	藤 本 紗 衣 子	アロマセラピーに対する看護学生の認識と看護ケア導入に向けた課題
15	横 手 沙 織	中高生の携帯電話依存傾向と生活習慣の関連
16	小 師 明 日 香	皮膚排泄ケア領域のリンクナースの実践状況と今後の課題
17	坂 本 空	病棟勤務経験を持つ手術室看護師のキャリア形成に関する研究
18	高 橋 真 帆	新人看護師が人工呼吸器装着患者とのコミュニケーションにおいて感じる困難と実践
19	高 橋 理 緒 奈	術後せん妄から回復した患者に対する看護師の関わり
20	西 岡 安 紗 美	開胸による肺切除術を受けた患者の離床における看護師の技
21	橋 本 瑞 歩	教育入院を繰り返す2型糖尿病患者に対する看護師の認識と関わり
22	渡 邊 結 芽	意識下手術において感覚刺激から生じる患者の不安に対する手術室看護師の技
23	猪 澤 咲 子	在宅がん患者遺族の心的外傷後成長：自由記述の内容分析
24	志 賀 咲 月	東京医科歯科大学における海外研修が看護学生の卒業後のキャリアに及ぼす影響
25	加 藤 里 沙 子	経験の短い訪問看護師が感じた社会保障制度の教育ニーズ
26	加 藤 未 柚	看護学生の臨地実習における看護技術の体験の実態
27	仲 沢 真 優	看護師によるタッチ実施の背景
28	溝 落 直 生	看護学生の臨地実習における学びの変化－テキストマイニングによる分析から－
29	井 上 結 菜	アルコール依存症者の自助グループ参加に影響を及ぼす要因－家族との関わりを中心に－
30	今 村 美 咲	統合失調症患者の家族が入院中に看護師に求めている関わり－入院経験がある患者の家族を対象として－

	氏 名	論 文 題 目
31	桑 原 実 希	看護学生における認知行動療法体験が自己効力感および抑うつへ及ぼす影響
32	佐 田 真 莉 子	看護学生のストレスに関する文献検討
33	畠 佐 保 子	新卒看護師のストレス要因とストレスマネジメント
34	畠 茉 冬	看護学生の精神看護学実習における自己への理解と活用
35	藤 原 朱 音	アルコール依存症者を看護する看護師が困難さを抱いた体験と職務継続要因についてーアルコール依存症専門クリニックでのインタビューを通してー
36	浦 池 美 帆	医療系女子大学生の体型に関するボディイメージと対人不安との関連
37	須 賀 美 奈 帆	3年次臨地実習において、グループメンバーとの比較によって生じる心境の変化
38	横 田 遥 香	大学で国際看護学を担当する教員のキャリア形成
39	石 川 友	がん患者のボディイメージに関する看護研究の変遷
40	高 田 奈 緒	早期からの緩和ケアのチームアプローチにおける緩和ケアリンクナースの実践と困難について
41	堀 内 あ つ み	がんやがんと共に生きる人に対する看護学生の考えや姿勢とその変化
42	村 山 沙 織	日本における終末期ケアの変遷についての文献検討
43	大 西 香 菜 子	看護学生のアサーティブネスと実習時における高齢患者とのコミュニケーションの関連
44	齋 藤 千 昌	看護師長が看護部長に求めている支援の検討
45	島 崎 晴 子	新卒看護師の同期によるサポートの実際と必要な支援
46	鈴 木 葵	継続看護における外来看護師の情報収集と病棟との連携の実態
47	中 島 み さ き	終末期認知症患者に対するケアの質を測る評価ツールの文献検討
48	西 村 里 穂	長期的回腸ストーマ保有者の日常生活における困難とその対応
49	作 田 蘭 世	臨地実習で看護学生を受け入れる利用者や家族の思いー在宅看護学実習に焦点を当ててー
50	竹 下 美 里	終末期がん患者と家族への在宅移行期におけるチームによる意思決定支援
51	中 村 祐 美 子	認知症高齢者の特別養護老人ホーム入所にまつわる家族の生活および心情の変化
52	井 上 璃 子	母親が0歳児の泣きに困る時期と理由、泣いた時の対処法
53	篠 原 香	家庭内暴力に関する検討ー統計と自我発達論に焦点を当ててー
54	高 田 潮 音	カンガルーケアから見るケアの根拠と安全性
55	山 本 歩	NICUに入院している児に両親が触れられるよう促す際の看護師の関わり

○学士（保健学）40名

	氏 名	論 文 題 目
1	芦 田 里 穂	副腎皮質ステロイド剤による血液凝固促進作用機序の解析
2	足 達 わくみ	血球におけるRNA分解酵素(RNase)の発現の解析
3	石 井 修 平	アパタイトとCRISPR/Cas9システムを用いたゲノム編集
4	内 田 のぞみ	<i>Clostridium difficile</i> における遺伝学的性状と病原性の関係
5	大 西 澤 奈 子	ヒト大動脈老化における筋収縮関連タンパク質の発現検討
6	大 野 愛	抗DNAモノクローナル抗体の生細胞への取り込み
7	大 山 咲 希	咳喘息患者のフェノタイプ分類とFeNOの有効性の検討
8	小野澤 枝里香	EBV陽性T, NKリンパ増殖症におけるSTAT3の機能の解析
9	ケイシー 美香	<i>Clostridium difficile</i> の分子疫学解析および薬剤感受性試験の比較検討
10	酒 井 花 奈	スクリーニング薬剤による神経系中間径フィラメント動態への影響定量化の試み
11	佐々木 睦美	周辺視野での物体検索における刺激の形状とその構成要素の役割を探索
12	雫石 早矢佳	<i>Moraxella catarrhalis</i> における血清型と病原因子の関連性について
13	新 木 春 香	膠原病血清抗体の生細胞内への取り込み
14	杉 崎 綾 奈	成長円錐における局所的蛋白合成に関する検討
15	鈴 木 光 司	ラット間葉系幹細胞純化マーカーの同定とin vivo性状解析
16	垂 門 碧	Serum amyloid A containing high-density lipoproteinの抗酸化能解析
17	水 口 祐 未	肝内胆管癌組織におけるαvβ6インテグリンの免疫組織化学的発現検討
18	廿 楽 明 穂	サルにおける手触り感の評価方法を考える
19	長 井 沙 弥	腹部大動脈瘤手術症例における長期生命予後不良因子の検討
20	中 野 里 咲	造血幹細胞に対する間葉系幹細胞の造血支持能力の解析
21	中 村 文 香	HDL中Paraoxonase 1の酸化LDLへの転移
22	中 村 和 奏	運動負荷によるT波peak-end間隔の経時的変化およびTpe hysteresis
23	永 森 千 寿 子	良い香りと悪い香りが聴覚情報処理機能に与える影響
24	棗 祐 有	高感度ベクトル心磁針を用いた選択的な左心房興奮検出と心房細動基質評価
25	並 河 真 美	細胞内感染時におけるアクネ菌カタラーゼの解析
26	成 富 真 愛	炎症性サイトカインIL-1βは滑膜間葉系幹細胞での軟骨分化を促進させる
27	早 川 佳 那	ステロール代謝異常症の生化学的診断と蓄積代謝物分析のために—HPLCとLC/MSの同時分析が可能なステロール誘導体化法の検討—
28	原 田 実 佳	細菌の原子間力顕微鏡による微細構造解析
29	兵 頭 舞	Teneurin-4の細胞間接着活性の解析
30	古 家 若 葉	モストグラフを用いた呼吸抵抗の予測標準値の検討

	氏 名	論 文 題 目
31	古 澤 周 人	HTLV-1感染細胞株の恒常的NF- κ B活性化におけるRNAセンサーの役割
32	堀 池 勇 太	血管内皮細胞との共培養による間葉系幹細胞への影響について
33	堀 内 優 奈	蛍光法によるコレステロール引き抜き能測定法の検討
34	宮 坂 久 美	光電式反射型脈波センサを用いた不整脈の検出
35	村 上 紀 里 香	筋サテライト細胞のラミニン結合活性における受容体解析
36	山 口 雄 也	ヒト大動脈老化における酸化ストレス関連蛋白質の免疫組織化学的発現解析
37	山 崎 あ ず さ	HDL ₂ およびHDL ₃ のapoC含有量の比較
38	安 田 郁 弥	PC-12細胞による神経分化モデルを用いた原子間力顕微鏡による微細構造解析
39	井 上 咲 智 子	迅速かつ精確な温度管理を実現する冷却モデルのための切替温度の検討
40	宮 本 亜 美	バイオ蛍光法を用いた生体ガスの可視化計測に関する研究

IV. 平成27年度大学院保健衛生学研究科博士（前期・後期）課程
学位論文題目一覧表

平成27年度大学院保健衛生学研究科博士（前期・後期）課程学位論文一覧表

○修士（看護学）4名

	氏 名	専 攻	指 導 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	桜井 亜古	総合保健看護学専攻	大久保 功子	助産師と産科医の協働に関連する因子の探索－施設レベルの因子に着目して－	緒方 泰子	大久保 功子	森田 久美子
2	西平 心華子	総合保健看護学専攻	田上 美千佳	医療観察法対象者の退院後初期の地域生活体験－入院処遇中の地域移行支援の検討－	佐々木 明子	佐々木 吉子	田上 美千佳
3	三木 枝里	総合保健看護学専攻	田上 美千佳	成人期高機能自閉症スペクトラム障害者の家族支援－入院中における家族の思いに着目して－	廣瀬 たい子	田上 美千佳	美濃 由紀子
4	保科 ゆい子	総合保健看護学専攻	深堀 浩樹	人工股関節全置換術を施行した高齢患者の術前に抱いた期待の実現に関する研究	本田 彰子	緒方 泰子	深堀 浩樹

○修士（保健学）14名

	氏 名	専 攻	指 導 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	小柳 明日香	生体検査科学専攻	赤澤 智宏	Analyze for differentiation potential of Sox 10 positive cell for mesenchymal cells by Sox10-Venus transgenic mouse	戸塚 実	伊藤 南	赤澤 智宏
2	澤田 由梨子	生体検査科学専攻	笹野 哲郎	Comparison of autonomic nervous system activity between schizophrenia patients treated with risperidone LAI and paliperidone LAI	伊藤 南	松島 英介	笹野 哲郎
3	田端 梓	生体検査科学専攻	笹野 哲郎	Focal cortical dysplasiaの律動的な棘波に関連する頭皮上high frequency oscillations	沢辺 元司	前原 健寿	笹野 哲郎
4	藤間 詩央里	生体検査科学専攻	笹野 哲郎	てんかんに対する潜在的偏見	窪田 哲朗	角 勇樹	笹野 哲郎
5	長谷川 由貴	生体検査科学専攻	笹野 哲郎	Novel Dielectric Coagulometer Identifies Hypercoagulability in Patients with a High CHADS ₂ Score without Atrial Fibrillation	伊藤 南	小山 高敏	笹野 哲郎
6	濱田 里美	生体検査科学専攻	笹野 哲郎	Assessment of Vascular Autonomic Function Using Peripheral Arterial Tonometry	窪田 哲朗	伊藤 南	笹野 哲郎
7	三上 周子	生体検査科学専攻	戸塚 実	ヒト単球性白血病細胞（THP-1）遊走における血管内皮細胞とリボタンパクの相互作用	赤澤 智宏	角 勇樹	戸塚 実
8	石毛 里奈	生体検査科学専攻	窪田 哲朗	Exchange protein activated by cyclic AMP (Epac) 1を介した血管内臓肥厚の形成メカニズムと膠原病性肺高血圧症発症との関連	赤澤 智宏	窪田 哲朗	鈴木 喜晴
9	田上 千絵	生体検査科学専攻	窪田 哲朗	血栓傾向誘発性モノクローナル抗DNA抗体のDNAとカルジオリピン-β2-グロブリンIに対する二重結合性に関する考察	角 勇樹	星 治	窪田 哲朗
10	笠井 彩子	生体検査科学専攻	窪田 哲朗	Moraxella catarrhalisのマクロライド系抗菌薬耐性機構の解析	星 治	窪田 哲朗	笠間 健嗣
11	上市 裕子	生体検査科学専攻	窪田 哲朗	Clostridium difficileにおけるスタチン系薬剤の影響	戸塚 実	窪田 哲朗	鈴木 喜晴
12	梅森 宮加	生体検査科学専攻	沢辺 元司	尿細胞診における高異型度尿路上皮癌検出精度の検討	星 治	沢辺 元司	明石 巧
13	中村 信之	生体検査科学専攻	沢辺 元司	悪性胸水を伴う肺腺癌におけるpMET発現と微小乳頭状パターンとの関連について	角 勇樹	北川 昌伸	沢辺 元司
14	大橋 彩香	生体検査科学専攻	沢辺 元司	Analysis of the expression and localization of RNase and RNase inhibitor in blood cells and vascular endothelial cells involved in homeostasis in the vascular system	沢辺 元司	星 治	小山 高敏

課程博士

○博士（看護学） 8名

	氏 名	専 攻	指 導 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	鳥 本 靖 子	総合保健看護学 (高齢者看護・ケアシステム開発学)	緒方 泰子	Female family caregivers face a higher risk of hypertension and lowered estimated glomerular filtration rates: A cross-sectional, comparative study	佐々木 明子	緒方 泰子	森田 久美子
2	福 田 友 秀	総合保健看護学専攻 (先端侵襲緩和ケア看護学)	井上 智子	Effectiveness of ICU diaries:Improving “distorted memories” encountered during ICU admission	齋藤 やよい	井上 智子	松島 英介
3	小 濱 京 子	総合保健看護学専攻 (在宅ケア看護学)	本田 彰子	Cancer-related fatigue and physical activity among premenopausal cervical and endometrial cancer survivors in Japan	大久保 功子	三宅 智	本田 彰子
4	永 吉 美 智 枝	総合保健看護学専攻 (小児・家族発達看護)	廣瀬 たい子	A Prospective Study of Factors Related to Mother-Infant Interaction in One-year-old Infants with Retinoblastoma	大久保 功子	廣瀬 たい子	山崎 智子
5	竹 尾 奈 保 子	総合保健看護学専攻 (小児・家族発達看護)	廣瀬 たい子	日本における母子相互作用アセスメント尺度の看護実践への有用性の検討ーJNCATSとCAREーIndexの比較からー	佐々木 明子	廣瀬 たい子	森田 久美子
6	幸 本 敬 子	総合保健看護学専攻 (小児・家族発達看護)	廣瀬 たい子	Effect of Early Intervention to Promote Mother - Infant Interaction and Maternal Sensitivity in Japan: A Parenting Support Program based on Infant Mental Health	田上 美千佳	大久保 功子	廣瀬 たい子
7	矢 郷 哲 志	総合保健看護学専攻 (小児・家族発達看護)	廣瀬 たい子	Gender, age, and cultural differences in the Japanese version of the Infant-Toddler Social and Emotional Assessment	大久保 功子	廣瀬 たい子	森田 久美子
8	坂 井 志 麻	総合保健看護学 (高齢者看護・ケアシステム開発学)	緒方 泰子	Developing an instrument to self-evaluate the discharge planning of ward nurses	佐々木 明子	緒方 泰子	山崎 智子

○博士（保健学） 4名

	氏 名	専 攻	指 導 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	亀 田 貴 寛	生体検査科学 (先端分析検査学)	戸塚 実	Effects of Myeloperoxidase-Induced Oxidation on Anti-Atherogenic Functions of High-Density Lipoprotein	角 勇樹	星 治	戸塚 実
2	阿 部 直 也	生体検査科学 (分子病態検査学)	沢辺 元司	Systematic cytological evaluation and immunocytochemistry of minichromosome maintenance protein 2 and p53 significantly improve cytological diagnosis of pancreaticobiliary adenocarcinoma	角 勇樹	沢辺 元司	小山 高敏
3	井 田 陽 子	生体検査科学 (生体防御検査学)	窪田 哲朗	Efficient management and maintenance of ultrasonic nebulizers to prevent microbial contamination	伊藤 南	小池 竜司	窪田 哲朗
4	南 谷 真 衣	生体検査科学 (先端分析検査学)	戸塚 実	Dysregulation of the DNA damage response and KMT2A rearrangement in fetal liver hematopoietic cells	窪田 哲朗	戸塚 実	鈴木 喜晴

論文博士

○博士（看護学） 1名

	氏 名		推 薦 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	岡 村 典 子		田上 美千佳	感情知性理論を用いた看護基礎教育の展開による援助関係形成力の獲得プロセス	廣瀬 たい子	田上 美千佳	深堀 浩樹

○博士（保健学） 2名

	氏 名		推 薦 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	梅 澤 敬		沢辺 元司	Cytological variations and typical diagnostic features of endocervical adenocarcinoma in situ: A retrospective study of 74 cases	角 勇樹	北川 昌伸	小山 高敏
2	長 雄 一 郎		星 治	An electrophysiological and histological analysis of pelvic nerve reconstruction and colonic bladder substitutes	角 勇樹	沢辺 元司	藤井 靖久

V. 委員会委員名簿

〔大学院〕

〔学部〕

保健衛生学研究科長：戸塚

保健衛生学科長：廣瀬

大学院教育委員会委員長：佐々木(明)

学部教育委員会委員長：窪田

総合保健看護学専攻長：本田

看護学専攻主任：大久保

生体検査科学専攻長：赤澤

検査技術学専攻主任：沢辺

共同災害看護学専攻長：佐々木(吉)

〔大学院教育委員会〕	☆佐々木(明)、本田、緒方、佐々木(吉)、赤澤、伊藤、戸塚、窪田
〔学部教育委員会〕	☆窪田、齋藤(や)、大久保、田上、沢辺、角、(戸塚、廣瀬)
〔四大学連合教育調整〕	【検】 沢辺
〔国際教育・研究センター〕	【看】 ○佐々木(明)、佐々木(吉)、本田、近藤、津田 【検】 ☆沢辺、窪田、大川、副島
〔医歯学融合教育委員会〕	【看】 深堀(科目担当)、湯本、上野 【検】 星〔「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 齋藤(良)、加藤、大川、副島〕
〔スキルス・ラボ検討委員会〕	【看】 矢富 【検】 小山
〔学部カリキュラム小委員会〕	【看】 ☆田上、齋藤(や)、深堀、森田、山崎、佐々木(明)、近藤、大久保 【検】 ☆沢辺、窪田、角
〔実習・臨地実習担当小委員会〕	【看】 ☆森田、○津田、矢富、深堀、美濃、三隅、内堀、山崎 渡邊、大黒、○大河原、岡光、川本、湯本、上野 【検】 ☆角、大川、加藤、副島、赤座
〔インターンシップ小委員会〕	【検】 ☆齋藤(良)、伊藤、馬淵、長、副島
〔卒業研究小委員会〕	【看】 ☆山崎、矢富、津田、大黒、大河原 【検】 ☆赤澤、鈴木、長、本間、馬淵、須藤
〔進路指導小委員会〕	【看】 ☆深堀、大黒 【検】 ☆沢辺、戸塚、本間、副島、大川
〔国試対策委員会〕	【看】 ☆近藤、三隅 【検】 〔模試担当〕 ☆小山、本間 (試験当日は全分野の助教)
〔図書・広報委員〕	【看】 ☆美濃、内堀 【検】 ☆小山、馬淵
〔LAN・ホームページ担当WG〕	【看】 ☆深堀 【検】 長、本間
〔学級担当委員〕	【看】 【検】
・ 1 年生 (27 回生)	山崎、矢富 角
・ 2 年生 (26 回生)	田上、三隅 沢辺
・ 3 年生 (25 回生)	美濃、津田 伊藤
・ 4 年生 (24 回生)	深堀、大黒 窪田
〔試験監督調整委員〕	【看】 三隅 【検】 馬淵
〔新入生校外オリエンテーション担当〕	【看】 山崎、矢富 【検】 笹野
〔親睦会・会計〕	【看】 ☆井上、渡邊、川本 【検】 ○伊藤、星、鈴木、馬淵
〔自己点検・評価小委員会〕	【看】 ○大久保、森田、岡光、渡邊 【検】 ☆窪田、鈴木、笹野、小山
〔公開講座WG〕	【検】 ☆小山、角、笹野、齋藤(良)、馬淵、長、本間 (当日は全分野の助教)
〔競争的資金獲得検討委員会〕	【看】 ☆廣瀬、佐々木(明)、本田、大久保、田上、齋藤(や)、井上、緒方、佐々木(吉) 【検】 ☆赤澤、笹野、小山
〔保健衛生学科FD実行委員会〕	【看】 井上、美濃、三浦 【検】 ☆星、笹野
〔研究科年報編集委員会〕	【看】 山崎、田上 【検】 角、齋藤(良)
〔生体検査科学セミナー〕	【検】 ☆伊藤、鈴木、長、赤座、馬淵
〔オープンキャンパス・受験生対策WG〕	【看】 ☆山崎、内堀、大河原、大黒(当日は全領域の助教) 【検】 ☆星、沢辺、馬淵、長、本間、加藤(オープンキャンパス当日は全分野の助教)
〔看護部(医)保健衛生学科連携〕	【看】 ☆廣瀬、本田、大久保、森田
〔院内研究支援〕	【看】 医学部：深堀、緒方 歯学部：齋藤や
〔病院・生体検査科学専攻連絡WG〕	【検】 ☆窪田、○角、沢辺、戸塚、齋藤(良)、大川、加藤、副島

☆責任者 ○副責任者

VI. 教育研修会、公開講座、セミナー等

体験型公開講座

平成 27 年度大学院保健衛生学研究科生体検査科学専攻主催の体験型公開講座「健康寿命を延ばす 健康チェック」が 10 月 24 日(土)及び 25 日(日)午前 10 時から午後 4 時 45 分まで、3 号館 18 階保健衛生学科講義室及び 7・8 階検査学実習室で開催された。本講座は今年で第 16 回を迎えた。

例年、午前中に教員が話題性のある講義を行い、午後に諸検査のオリエンテーションの後、学部生や臨床検査技師免許保有の大学院生が、受講者 6 人ずつ 1 グループを受け持って案内したり、検査器具の操作にあたり、諸検査実習(約 10 項目)を行って健康チェックを行っていく形式をとっている。リピーターも多い。教員や学生による会話とおもてなし、午後の実習が特に人気があり、6,200 円の受講料にもかかわらず、大学内で最も人気のある公開講座となっている。受講者増加に対処すべく同一内容の講座を土・日曜日に行っているが、本年の受講者は計 101 名となった。

今回は、午前に角勇樹教授が「咳、痰が生じる病気と原因」について講義を行い、午後に教員 9 名(笹野哲郎准教授、赤座実穂、大川龍之介、長雄一郎、本間達、加藤優子、副島友莉恵各助教を含む)と 21 名の学生、の協力を得て実習を行った。司会・進行と運営は例年通り先端血液検査学小山高敏准教授が行った。

多人数の受講者の参加にもかかわらず、総務部 総務秘書課 総務係、広報部 広報課の協力もあって、スムーズに講座を行うことができた。

公開講座は、生体検査科学専攻の社会貢献、地域貢献の一部と学生がコミュニケーションスキルや医学倫理を学習する教育を兼ねた行事となっている。患者さんの本学附属病院への受診増加にもつながっている。一般人に大学や我々の研究科、臨床検査技師をアピールし、信頼や親しみを持っていただく意義もあり、今後も継続予定である。

Ⅶ. 就 職 状 況 一 覧 表
(平成28年3月卒業・修了者)

就職状況一覧表

2016.5.1現在

(総合保健看護学)

区分			学部 (看護学)		大学院			
					博士(前期)課程		博士(後期)課程	
			小計	合計	小計	合計	小計	合計
進学	本学			4		0		1
	本学以外		4				1	
就職	看護師	本学	30	51		3		7
		本学以外	19		2		2	
	保健師		1					
	助産師							
	助教(大学機関)						2	
	助手(大学機関)							
	講師(大学機関)						1	
	その他		1		1		2	
	その他(不明)							
合計				55		4		12

(生体検査学)

区分			学部		大学院			
			(生体検査学)		博士(前期)課程		博士(後期)課程	
			小計	合計	小計	合計	小計	合計
進学	本学		22	25	2	2		0
	本学以外		3					
就職	臨床検査技師	本学	1	11	2	12		2
		本学以外	7		6		2	
	研究者	本学						
		本学以外						
	教員(高校)							
	その他		3		4			
	その他(不明)				3			
合計			39	14	2			

東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科年報

2015年度

保健衛生学研究科教育委員

佐々木 明 子 委員長

戸 塚 実

齋 藤 やよい

本 田 彰 子

窪 田 哲 朗

伊 藤 南

佐々木 吉 子

発 行
編集・発行

2016年9月

東京医科歯科大学大学院

保健衛生学研究科教育委員会

<http://www.tmd.ac.jp/faculties/health-care/index.html>